

教育に関する事務の管理及び執行状況に  
係る点検評価報告

(平成30年度事業)

令和元年8月  
酒田市教育委員会



## 目 次

1	点検・評価制度の概要	1
2	点検・評価の対象	1
3	評価の基準	1
4	教育委員会の活動状況	2
5	外部評価者の意見	7
	教育に関する事務の管理及び執行状況に係る点検評価についての意見	
	Ⅰ 全体を通じた意見	7
	Ⅱ 各事業についての意見	9
○	酒田市教育振興基本計画体系図	18
6	点検・評価の状況	
I	明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ	
1	「いのち」の教育の推進	
	・ 「いのち」の教育の推進	19
	・ 防災教育の推進	21
	・ 安全教育、安全対策の推進	22
2	確かな学力の向上	
	・ 学力向上対策の充実	23
	・ 時代に対応した教育の推進（国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育）	24
	・ 読書活動の推進	26
	・ 特別な教育ニーズへの支援	27
	・ 幼保、小、中、高の連携	28
3	豊かな心と健やかな体の育成	
	・ 生徒指導等の充実	29
	・ いじめ防止に向けた取組みの推進	30
	・ 道徳教育の充実	31
	・ 体験活動、交流活動の推進	32
	・ ふるさと教育の推進	34
	・ 相談支援体制の充実	36
	・ 基礎的運動能力の向上	37
	・ 健康教育の推進	39
	・ 食育の推進	41
4	家庭・学校・地域との連携	
	・ 青少年の健全育成	42
	・ 家庭教育の支援	43
	・ 地域教育力の向上	45
	・ 地域産業界、高等教育機関との連携	46
	・ 青少年指導活動の推進	49

5	教育環境の整備		
・	学校施設の整備	.....	50
・	学校規模の適正化の推進	.....	52
・	通学の安全確保	.....	53
・	学習バスの運行	.....	54
・	学校ICT環境の整備充実	.....	55
・	教育の機会均等	.....	56
・	私立学校等の振興	.....	58
6	信頼される学校、開かれた学校づくりの推進		
・	学校運営の公開と学校評価の推進	.....	59
・	教職員研修等の充実	.....	60
・	体罰根絶に向けた取組みの推進	.....	61
II	世代を超えてまなびあう		
7	生涯学習の充実		
・	生涯学習推進体制の整備	.....	62
・	生涯学習社会の基礎づくり	.....	63
・	生涯学習機会の提供	.....	65
・	地域活動の活性化	.....	66
8	図書館活動の充実		
・	図書館機能の充実	.....	67
・	光丘文庫の保全と活用	.....	68
・	子どもの読書活動の推進（再掲）	.....	69
III	生涯スポーツで明るく健やかに生きる		
9	スポーツ・レクリエーションの推進		
・	子どもの基礎的運動能力の向上（再掲）	.....	70
・	生涯スポーツの推進	.....	71
・	競技スポーツの振興	.....	72
・	スポーツ施設の整備充実	.....	73
IV	歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
10	芸術文化活動の推進		
・	芸術文化の振興	.....	74
・	市民の鑑賞機会の充実	.....	75
・	青少年の芸術文化活動の充実	.....	77
11	歴史・文化遺産の保存と活用		
・	文化財等の保存と活用	.....	79
・	地域における民俗文化財の保存と活用	.....	80
・	地域資料の収集と保存	.....	81
12	教育行政の推進	.....	82

## 1 点検・評価制度の概要

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、外部評価者の意見を取り入れながらその結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出及び市民に公表しながら、次年度の事業計画の検討に用いることで効果的な教育行政の推進を図るとともに、住民への説明責任を果たすものである。

### 《参考》

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 点検・評価の対象

平成30年度の教育委員会の権限に属する事務について、その管理及び執行の状況を対象とする。

## 3 評価の基準

各施策の評価については、次の視点から総合的に判断し、評価基準によりAからDにランク付けを行う。

なお、個別の施策の性質上、ランク付けがなじまないと考えられるものについては、今後の方向性のみを記載している。

### (1) 主な事業の取り組み内容

- ・ 施策の目的、目標に照らして、事業の内容は妥当であるか。
- ・ 事業の対象者、参加者、利用者を意識して事業に取り組んでいるか。
- ・ 目標を達成するために、事業の対象者や事業の回数等は適切であるか。

### (2) 事業の成果

- ・ 施策の目的、目標に照らして、意義ある成果が達成されているか。
- ・ 二次的な成果や連鎖的な効果など新たな効果がみられたか。

【評価基準】

ランク	評価基準
A	施策の目的、目標を達成するため、各種事業に取り組んでいる。施策の成果は目標水準以上であることから、今後も積極的に施策を推進（展開）していきたい。
B	施策の目的、目標を達成するため、各種事業に取り組んでいる。施策としての成果には一部未達成の事業もある。 今後も概ね現行の方法、手法等により推進していく。
C	施策の目的、目標を達成するため、各種事業に取り組んでいる。施策の成果には一部未達成の事業もある。 今後は、課題等を踏まえ、事業の対象や手法について見直しを図りながら展開していく。
D	施策の目的、目標を達成するための課題が多く、各種事業に取り組めないでいる。大幅な事業の見直しを図る。

4 教育委員会の活動状況

(1) 教育長・委員の構成

平成 31 年 4 月 1 日現在

職名	氏名	任期
教育長	村上 幸太郎	平成 30 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日
委員	岩間 奏子	平成 27 年 11 月 29 日～令和元年 11 月 28 日
委員	渡部 敦	平成 28 年 11 月 29 日～令和 2 年 11 月 28 日
委員	神田 直弥	平成 29 年 11 月 29 日～令和 3 年 11 月 28 日
委員	村上 千景	平成 31 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

(2) 教育委員会制度改正に対する取り組み

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（以下「改正地教行法」という。）が、平成 26 年 6 月 20 日に公布され、平成 27 年 4 月 1 日から施行された。

旧教育委員会委員長と事務の統括者である教育長を一本化した新「教育長」を置くことにより、迅速な危機管理体制の構築を図ることを含め、教育行政の第一義的な責任者を明確化することされ、本市においても平成 27 年 4 月 1 日より新「教育長」体制に移行した。

改正地教行法においては、教育長が教育行政に大きな権限と責任を有することとなったことを踏まえ、教育長へのチェック機能を強化するとともに、住民に対して開かれた教育行政を推進する観点から会議の活性化・透明化を図っており、平成 30 年度は新たに次の取り組み

みを行った。

・開かれた教育行政の推進のための取り組み

- ① 教育委員会の役割について市民の理解を深め、教育行政を市民の協力を得ながら円滑に進めるため、「きょういく酒田」（創刊号 A3判1枚、10月市広報折込）を発行し、教育委員会全体の活動等について情報発信した。
- ② 教育委員会会議において、さらに活発な議論ができるよう、先進地の教育委員会会議を参考に、座席配置を「対面型」から「口の字型」への変更や議題の審議順序の変更など発言しやすい環境づくりに取り組んだ。

・教育長へのチェック機能の強化のための取り組み

- ① 委員自らの協議題提案など全国的にも先進的な教育改革に取り組む教育委員会定例会の視察や、教育委員同士の意見交換をとおして委員の資質向上に努めた。
- ② 各種事業の報告、重要事業・施策の勉強会の開催など、委員への情報提供の量や機会を増やした。

### （3）教育委員会の活動状況

平成30年度の教育委員会の活動状況は次のとおりである。

・教育委員会会議の開催状況

項目	平成30年度
開催回数	14回
審議案件数	74件
教育長、各課等からの報告案件数	98件

・教育委員会会議の審議概要

項目	件数	主な内容
基本方針・計画策定	4件	酒田市スポーツ推進計画の策定
規則等の制定又は改廃	11件	
議会の議決を経るべき議案の意見聴取	31件	予算、請負契約の締結、条例改正などの議会議決案件
人事案件	15件	非常勤特別職の委嘱、職員人事等
教科書採択	1件	小中学校使用教科用図書採択
専決事項の承認	10件	規則等の改正、人事案件等
各種文化賞の受賞者の決定	2件	
合計	74件	

※詳細な会議録については、ホームページで公表している。

・学校訪問、関連施設視察などの活動状況

実施日	訪問・視察箇所	主な内容
7月12日	松山小学校	統合後の学校の状況、課題解決の取り組み等を視察
	新松山小建設現場	完成した特別教室、管理諸室等の視察
11月14日 ～ 11月15日	富士見市（埼玉県）	富士見市民文化会館キラリ☆ふじみの見学 館長ほか職員と運営方針・計画推進体制・市民協働について意見交換
	戸田市教育委員会（埼玉県）	定例会の見学。教育改革の取り組みの視察及び教育長・教育委員同士の意見交換
11月27日	鳥海小学校	A L T、英語講師等と意見交換、授業の見学
	鳥海八幡中学校	授業の見学、学校長と小中一貫教育に向けた管内の保育園・小・中学校の連携の状況についての意見交換

・酒田市総合教育会議の開催状況

区分	実施日	協議内容
第1回	6月29日	酒田市教育等に関する施策の大綱の改訂について
第2回	11月8日	本市の教育を取り巻く諸課題について ・学校における防災の取り組みについて（今夏の水害対応を受けて） ・ふるさと教育～小・中学校における「総合的な学習の時間」の取り組み～について
第3回	3月26日	本市の教育を取り巻く諸課題について ・小中一貫教育の取り組みについて ・本市のスポーツの振興について

※詳細な会議録については、ホームページで公表している。

・教育委員会委員の会議、研修、各種行事等への参加状況（主なもの）

実施日	会議、研修、各種行事等名称
4月7日～9日	酒田市立小中学校入学式
4月13日	第4回教育委員会会議
4月18日	第3回教育委員会臨時会議
5月22日	第5回教育委員会会議
5月25日	山形県市町村教育委員会協議会 理事会・幹事会・定期総会・研修会（山形市）
6月22日	第6回教育委員会会議



実施日	会議、研修、各種行事等名称
6月29日	第1回総合教育会議
7月1日	市民体育祭
7月5日	庄内地区教育委員会協議会総会・研修会（庄内町）
7月12日	学校訪問、関連施設視察（松山小、新松山小建設現場）
7月27日	第7回教育委員会会議
8月3日	山形県市町村教育委員会大会（寒河江市）
8月21日	第8回教育委員会会議
9月20日	小学生観劇教室
9月28日	第9回教育委員会会議
10月4日～5日	狂言体験ワークショップ
10月16日	市町村教育委員会研究協議会（山形市）
10月29日	第10回教育委員会会議
11月1日	庄内文化賞・阿部次郎文化賞授賞式
11月8日	第2回総合教育会議
11月14日～15日	視察研修（市外）埼玉県富士見市・戸田市
11月19日	八幡小公開授業研究会（単元委嘱研究校）
11月22日	琢成小公開授業研究会（単元委嘱研究校）
11月27日	学校訪問（鳥海小・鳥海八幡中）
11月28日	第11回教育委員会会議
12月3日	松陵小公開授業研究会（単元委嘱研究校）
12月8日	はばたき報告会
12月21日	第12回教育委員会会議
1月13日	酒田市成人式
1月17日	酒田市・遊佐町中学校生徒会連絡協議会（ひらたタウンセンター）
1月19日	少年の翼（派遣）報告会
1月25日	第1回教育委員会会議
1月25日	酒田飽海学校保健会功労者表彰
2月8日	少年の翼（受入）歓迎レセプション
2月13日	小林教育振興基金青少年善行奨励賞表彰式
2月14日	第2回教育委員会会議
2月16日	白崎資金スポーツ優秀選手表彰式
2月19日	科学賞表彰式
3月9日	第1回教育委員会臨時会議
3月16日～18日	酒田市立小中学校卒業式
3月18日	第3回教育委員会会議

実施日	会議、研修、各種行事等名称
3月26日	第3回総合教育会議
3月28日	退職教職員感謝状贈呈式

## 5 外部評価者の意見

点検・評価にあたっては、法第26条第2項の規定により、次の2名の外部評価者から各分野に関して意見をいただいた。

### 外部評価者

生涯学習施設「里仁館」館長 富士 直志 氏  
 東北公益文科大学 教授 呉 衛峰 氏

## 教育に関する事務の管理及び執行状況に係る点検評価についての意見

### I 全体を通じた意見

平成 30 年度の教育委員会活動では、とくに大きな動きはなかったが、例年より委員会の審議件数が平成 29 年度の 51 件から 74 件と多く 1.5 倍近くになった。また、10 月 1 日の酒田市広報に折り込みの形で A 4 判 4 頁の「きょういく酒田」を全戸配布した。日頃教育委員会の活動が見え難い中であって防災や読書活動・スポーツ活動を紹介するとともに教育支援員や教育委員会について分かり易くコンパクトに説明している点で価値のある教育広報紙となったのではないかと期待したい。今後も配布回数や時期・内容等を検討して市民が教育に関心を持つような啓発的な記事の掲載を期待したい。

事業数は、新たに 1 件増えたが、事業の組み替えによって前年度より 1 件減って、50 事業であった。そのうち継続という事業が 2 事業で、残り 48 事業が評価対象事業であった。結果は評価 A 事業が 19、評価事業 B が 29、C もしくは D 評価はなかった。この評価結果の内訳はほぼ前年と同じであった。前年に続いて C や D の評価がなかったことは評価に値する。

目標の中で数値化されているものは 33 件で前年に比べ良くなったものは 16 件、悪くなったものは 11 件、変わらずが 6 件あった。前年に比べ努力したあとが一定程度みられた。ただし、酒田市教育振興基本計画（以下、振興計画）の最終目標（令和元年度）に到達したのはわずか 26% で未達成が 74% であった。これは重く受け止めなくてはならないと思われる。今年度が振興計画の最終年度なので達成すべく最後の努力を傾けて欲しい。

各事業は原則 1 頁にまとめられ理解しやすい体裁である。2 頁に亘るものも若干あったが、その 1、その 2 と表記してあったので分かり易かった。しかし、施策の報告書の中には前年度と全く同じものがいくつかあった。基本的な考え方とか理念ではなく、一定の事業を実施しているのでその実施状況や効果・課題が全く同じということは考えられない。また、予算規模もある程度記載されていたが、同じ事業内容なのに予算規模が前年と全く異なる表記が 2～3 あった。評価結果が前年に比べ変化している場合の説明や根拠については分かり難い事業があった。今後は、市民が読んで分かるような説明や根拠が必要である。

また、評価対象外の事業については、市民に周知する必要がある事業と思われるので、今後も引き続き、継続、新規、一部新規のような表現で明記して欲しい。

前述の通り、令和元年度が振興計画（2010 年から 2019 年の 10 年）の最終年度となるため、既に次年度に向けて第 2 期教育振興基本計画策定検討委員会が立ち上がっている。そこで、これまでの事業点検評価活動を振り返って、次期振興計画に対して外部評価者としての意見を 4 点ほど述べたい。

#### (1) 基本施策の表現について

現在の振興計画の体系図は、教育目標—基本的方向—基本施策—施策という流れで作成されている。具体的には 3 つの教育目標、4 つの基本的な方向、12 の基本施策そして 50 余の施策から成っている。その中で基本施策は、基本的な方向を具体的な表現で表すと共にいくつかの施策を束ねる表現となっていなければならない。

市民にとってもこの部分が酒田市の具体的な教育施策を表す表現になっていないと

具体的な教育活動や目指すものが見えにくい。にもかかわらず現行の振興計画の基本施策の表現は、教育関係者にとってはそれほど分かり難い表現ではないかもしれないが、紋切型の表現でいくつかの施策を束ねている表現とは言い難い。

計画の枠組みに基本施策的な体系図を盛り込むとすれば、是非、市民が見ても理解出来るような分かり易い表現を配慮して欲しい。

#### (2) 数値目標の設定について

現在の施策の中で何らかの数値を掲げているものは約60%ほどあり、その中で目標の中に主たる数値目標が掲げられているものは全体の40%程度である。

勿論、全部の施策が数値化できるものではないので数値化を増やすことが必ずしも施策を総合的に評価することにつながるものではない。しかしながら、数値目標を設定するには次の3つの場合があることを考慮することが重要だと思われる。

まず、1つの数値目標（校種別や男女別も含めて）で目標を端的に表すことが可能な施策。2つ目は複数の数値目標で施策の概要を表すことが可能な施策。3つ目は、数値目標はその施策の補助的なものでそれだけで施策全体を評価できない場合である。大事なことは数値目標を設定する場合は、数値目標がその施策の中でどのような位置付けなのかを見極めることが重要である。

#### (3) 施策の評価判定について

これまで報告書を事前に読んで、評価判定に迷うことが度々あった。それはCやDの判定ではなく、AまたはBの判定であった。その疑問は正直担当者にその理由を聴いても分からないものも幾つかあった。というのは、判定根拠が十分明記されていなかったり、数値目標が目標に達しててもAでない場合もあったからである。すなわち評価判定は担当者や関係者で判断されているので、その判定理由が十分に伝わらなかったのではないかと。

今後、誰が見ても同じ評価判定になるような判定基準や判定の根拠を明記する必要があるのではないかと。

#### (4) 計画実施のマンネリを防ぐには

私がこの点検評価に関わったのは、今年で6年目になるが、丁度振興計画の前期の終わり頃から後期にかけての時期だったと思われる。最初の頃は評価判定にCやDがいくつかあるという状況であったが、1～2年で克服された。これは評価すべきことである。しかし、その後計画の目標やねらいに近づく時期に差しかかってこれからという頃から少しずつマンネリが始まったように感じている。それは、担当者が異動したり担当分野が変わったりして計画当初の思いやノウハウが十分伝わらなかったりしたのかもしれない。また後期の振興計画の中間見直しで、極めて小規模であったため前期を踏襲する事業構築になったのかもしれない。したがってここ2～3年の実施結果は、行きつ戻りつで大きく落ち込んだりすることはなかったが計画の最終目標には近づくことが十分出来なかったのではないかと。このことから最終目標達成のために一步一步積み上げていくには、後期の振興計画を数値目標の設定も含めて抜本的に見直すことが重要ではないかと考えている。

昨今の5年間の教育環境の変化はかなり大きいと思われる。

富士 直志

平成30年度は、その前年度と比べ、各事業が改善されている印象を受ける。

特筆すべきは、いじめ認知件数の大幅増であり、「認知漏れを出さない」という姿勢が見受けられ、実質的にいじめ件数の減少につながるのではないかと思われる。

また、来る駅前新図書館の開館および現図書館スペースの有効利用が、市全体の文化的雰囲気の更なる向上を期待する。

様々な原因によって、全国における学力水準との差が依然存在し、進学面から見ても、本市は今一つ物足りないところがあるという現状を如何に改善するかは、市の全体的イメージに大きな影響を及ぼすものであるので、一層の工夫が必要であろう。

特に社会教育において、高齢化・人口減少などによる教育者の慢性的な人材不足が存在すると思われる。市民の生活環境の大きな一面に当たるので、人材バンクの登録や民間人材への誘致と援助などで、市政にはもう少し本格的な改善意欲を見せていただきたい。

学校・社会教育の改善は酒田市をさらに魅力ある町にする牽引力であると確信している。

呉 衛峰

## II 各事業についての意見

### 1 「いのち」の教育の推進

#### (1) 「いのち」の教育の推進

- ・近年の地球温暖化で、小中学校における熱中症が前年に較べ倍増している。特に、小学校のスポーツ少年団活動や中学校における部活動では、水分補給や日照時間への配慮が必要である。部の顧問や指導者は勿論のこと、部活動で依頼する外部コーチの方々へも熱中症対策についての基本的な理解と発生時の対応について学んでおくことが大事である。

#### (2) 防災教育の推進

- ・今後、短時間豪雨や震度6程度の地震による災害は、想定内の発生条件になると思われる。その意味で、広いエリアで学校を避難所とする事態は、そう遠い出来事ではない。先進地の東海地方などを参考にしながら早急に避難所開設マニュアルを策定し、行政・地域・学校の三者で共通理解を得ると共にそのマニュアルが十分機能するかどうかを検証しなければならない。行政も学校職員も何年か経つと異動するのでその学校の使い勝手を定期的に把握しておくことが重要である。
- ・6月18日の地震で、子供たちの防災意識の高さを確認できた。大規模の震災の場合に備え、迅速で有効な対応を行える一つのきっかけになっていればと期待する。

#### (3) 安全教育、安全対策の推進

- ・学校の統合により通学距離は長くなっているため、自転車通学者は増加している。そのため重大事故につながらないような基本的なマナーを体得させることは、生涯を通じて「いのち」を守る安全意識につながっていく。とくに中学校では実地体験を含む安全教室を通じて、道路交通法の趣旨も含めてひとり一人が自転車の特性や危険性を熟知することが肝要である。
- ・休日や休みなどの時、ヘルメットを着用していない小学生のグループが時々見かけるので、一層の呼びかけが必要であろう。

## 2 確かな学力の向上

### (1) 学力向上対策の充実

- ・本市における中学校の数学や英語の学力は、基本的な理解は進んでいるものの他地区に比べて相対的に低いと思われる。これは従来から指摘されている課題であるが、「数学が好きである」生徒が増加しているのは、喜ぶべきことである。  
楽しく役にたつ数学を指導する方法が少しずつ共有化されてきている証左なのかもしれない。英語も数学もドリル的な要素がどうしても付きまとう教科なので、そうした地味な活動をどう生徒に定着させるか、さらに工夫と研究が望まれる。

### (2) 時代に対応した教育の推進（国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育）

- ・小学校における英語教育（3・4年生で英語科活動、5・6年生で英語科）の充実のため、ALTを増員し、学校への派遣日数が増加したことは大変ありがたいことである。今後は、その結果、児童にどのような力が身についたか、児童の英語に対する意識がどのように変容したかその効果の検証が必要である。そして、その検証を踏まえた上で、訪問日数や活動内容を検討・吟味することが重要である。
- ・ALT事業によって、小中学生の英語への関心度の向上が見受けられた。
- ・中学生に関しては、ALTもしくは海外研修はあくまでもモチベーションづくりであり、学校教員との効果のある連携が必須である。

### (3) 読書活動の推進

- ・小学校における貸出冊数や読書好きの割合が増加し、既に目標値をクリアしていることは評価に値する。今後一層の読書活動の推進に期待したい。一方で中学校でのそれは少しずつ伸びてはいるものの依然として目標値には届いていない。しかし、小学校段階で、読書の楽しさや豊かな心を育んだ経験が中学校における読書活動推進のきっかけに成り得るので、学校教育の場で上手に読書を活用する場を学校全体で位置づけて取り組むことが求められているのではないかと。
- ・電子ゲームやスマホの普及で、ゲーム遊びに夢中になる子供が増えているのがこの時代の傾向であろう。読書の習慣を身につけるには、学校と親との連携が必要である。「新たな取り組み」における「読書手帳」の活用は評価すべき試みである。

### (4) 特別な教育ニーズへの支援

- ・特別支援教育巡回相談員への学校からの派遣要請は多く、ここ数年、年間300回を超えている。

現在3名の体制で対応しているが決して十分とは言えない。今後増員を図り、きめ細かな対応を考えていく必要があるが、問題は力量を持った相談員の養成をどう進めていくかが課題となっている。将来に向けて、特別支援学級や特別支援学校の経験者を一定の基準を設けてデータ化しておくことも必要ではないか。

#### (5) 幼保、小、中、高の連携

- ・現在、酒田市が重点課題としている小中一貫教育については、既に小中授業力向上研修会を立ち上げて、新学習指導要領が求めている授業のあり方について校種を超えて議論されていることはすばらしい試みと思われる。今年度から小中一貫教育推進委員会を発足させて、めざす小中一貫教育のあり方や方向性について検討するとのことであるが、是非、小中の生活の一体的な向上についても十分議論を尽くして欲しい。

### 3 豊かな心と健やかな体の育成

#### (1) 生徒指導等の充実

- ・全国学力テスト時の学習状況調査結果によれば、「自分にはよいところがある」と答えた割合が、前は小中とも全国平均を下回っていたが、今回は僅かであるが小学校で全国平均を上回り、中学校でも僅か下回っただけであった。少しずつではあるが、児童生徒の自己肯定感や自尊感情が育ちつつあることが見て取れる。地道な活動ではあるが継続的に、ひとりひとりに寄り添った声掛けや支援を差し延べることが必要である。

#### (2) いじめ防止に向けた取組みの推進

- ・小中学校ともいじめの認知件数が大幅に増加した。このことは、おそらく今まで以上にアンテナを高くして認知漏れを防いできた結果とみていいのではないかと。また教員はその数だけきめ細かく対応してきたことになる。今後とも未然防止、早期発見に向けた取り組みを行い、重大化する前の段階でいじめを認知し、その解消に向けて組織的に取り組んで欲しい。
- ・昨年度と比べて、いじめの認知件数が大幅な増となっているが、いじめ問題の可視化、「認知漏れを出さない」という姿勢が評価されるべきであろう。

#### (3) 道徳教育の充実

- ・全国学力学習状況調査結果によれば、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問に対して、小中とも全国平均をはるかに超える肯定的な回答が示された。とくに中学校では全国平均45.6%に対して本市は71.2%という高い数値であった。地域や酒田を愛する児童生徒が確実に育っていることが見て取れる。

#### (4) 体験活動、交流活動の推進

- ・ワンダージオバスツアーは、鳥海山・飛島ジオパーク認定をきっかけとして立ち上がった事業で、様々な見どころを訪問して自然の成り立ちや歴史を学ぶ優れた郷土学習となっている。また、雪遊び&ピザ作り活動も高校生の協力を得ながら小学生が体験を通じて集団活動を学ぶ学校ではなかなかできない貴重な活動である。

#### (5) ふるさと教育の推進

- ・ふるさとについては副読本「わたしのまちさかた」を通じて小学校3年生の社会科でま

とまった形で学習するが、その後も総合的な学習の時間などを用いてふるさとの文化、歴史、産業などを系統的に学習することが重要である。そのために、短時間でふるさとを映像を通して学ぶDVD等を作成して理解を深めることも重要である。

#### (6) 相談支援体制の充実

- ・スクールソーシャルワーカーは児童生徒の問題に対して、保護者や教員と協力して問題の解決を図る専門職のことをいうが、本市でも特に中学校でここ数年不登校生徒が増加している中で、一層この専門職の必要性や需要が高まっている。今後は、スクールソーシャルワーク・コーディネーターと連携を取りながらスムーズな問題解決の道を探ることが重要になってきている。

#### (7) 基礎的運動能力の向上

- ・50 ｍ走の記録を見ると、中学校の時速い学年はやはり小学校の時も早い記録になっている。よって50 ｍ走に関しては、小学校の時に基本的な走る訓練を受けた者はその後も順調に伸びていくことが考えられる。その他の走・跳・投についてもこうした分析を加えることで適切な指導時期や指導方法が見えてくるのではないか。
- ・小中学校の基礎体力の向上が数値に反映されているので、評価すべきだと思う。
- ・個別の学生への指導はさらに改善するところはないか。

#### (8) 健康教育の推進

- ・ここ3年間の間で、「朝食を毎日食べている」児童生徒の割合が小中とも一番低い。調査時期の問題なのかどうかその原因を分析し、対策を立てる必要がある。「早寝、早起き、朝ごはん」は健康のバロメーターである。一方で、中学校の肥満児の割合が男女とも県の平均に比べて低いのは評価してよいのではないか。

#### (9) 食育の推進

- ・地元産食材の利用率は、昨今の気候の急変などの事情で計画通りにいかない場合があるので今後、目標値の設定については幅を持った指標を考える等の配慮が必要ではないか。また、異物混入への対応マニュアルを策定した結果、児童生徒の口に入る前に除去できたことで、一定の改善が図られたことは評価出来る。

### 4 家庭・学校・地域との連携

#### (1) 青少年の健全育成

- ・成人式は、若い人にとって初めての人生の節目のイベントである。自らの未来や地域の将来を考えるきっかけになるようなアイデア溢れるセレモニーや演出を考えて実践することは社会人として成長する良い機会となっている。併せて、本市では30歳を祝う会やダブル成人式(40歳)を祝う会が自主的に開催されたことは、この成人式を経験しているからだと思われる。
- ・様々な魅力的なイベントが行われていると思う。若者が地元にとどまり、地域の振興につながるきっかけになればと願う。

#### (2) 家庭教育の支援

- ・ここ数年、「親子ですくすく出前講座」や「地域家庭教育講座」の開催回数や参加者数が



大きく減少してきている。昨今の育児放棄や家庭内暴力によって悲惨な事件が相次いでいる点からも行政側が開催側の保育園・幼稚園・小学校・中学校に働きかけて内容や方法を工夫しながら多くの参加者を得て効果的に実施して欲しい。

### (3) 地域教育力の向上

- ・社会教育指導員など社会教育文化課の関係職員がすべてのコミセンを訪問して実施状況や課題を伺い、指導員自身がコミセンの行事に参加したり助言したりすることで職員のスキルアップが図られている。今後は、さらにコミセン職員が力量をつけて、地域の実情を踏まえて様々な問題解決へのコーディネートができるよう支援して欲しい。

### (4) 地域産業界、高等教育機関との連携

- ・東北公益文科大学の学生が中学3年生に対して放課後を利用して生徒の学習支援を行っているが、前年の92人から140人(5中学校)と参加者を伸ばしている。高校受験を想定して秋から冬にかけて実施しているが、塾などに行けない生徒にとっては大変有り難い事業である。生徒の満足度も80%を超えているのは評価できる。
- ・地元の大学として、東北公益文科大学は今後も地元の教育に一層かかわるであろう。

### (5) 青少年指導活動の推進

- ・小学生に続いて中学生のいるすべての世帯にネットトラブル防止啓発用リーフレットを配布し、児童本人や保護者への注意喚起を行うと共に、未然防止につながる具体的な情報を提供したことは一定の抑止効果があると思われる。知らないうちに加害者になったり、知らないうちに法律に触れることがないよう基本的な知識を家族で共有化することが重要である。

## 5 教育環境の整備

### (1) 学校施設の整備

- ・国の1/3補助もあり、小中学校における普通教室への冷房設備の設置は順調に進んでいる。その他にも和式トイレの洋式化についても計画的に改修工事を進めている。また、老朽化した施設の長寿命化についても点検結果を踏まえてこまめに改修を進めることで継続させて欲しい。

### (2) 学校規模の適正化の推進

- ・現在複式学級となっている小学校は2校、今後複式学級が予想される小学校は人口統計より4校にのぼっている。こういった地域では、保護者や地域の人々に寄り添いながら不安感を払しょくできるよう話し合いを積み重ねていくことが肝要である。決して見切り発車になることがないように丁寧な対応が望まれる。

### (3) 通学の安全確保

- ・メール配信システムは、高機能のシステムに移行し、学校単位で配信したり、エリアを限定して配信できるようになるなど従来よりかなり使い勝手の良い利用が可能になった。それだけにこのシステムへの登録者数を増やし、保護者に対していち早く的確に危険情報を通知出来るようにしたい。

### (4) 学習バスの運行

- ・引き続きスクールバスによる重大事故発生の皆無に努力して欲しい。学習バスの運行についてはここ数年、年間 1500 回程度の利用ということで生きた学習につながっていると思われるが、行政側としては申請内容のチェックだけでなく、その効果についても学力との関係も含めて調査して欲しい。

#### (5) 学校 I C T 環境の整備充実

- ・学校におけるタブレット端末の導入やWi-fi の整備は、既に一部で実施されつつあると聞いているが、間違いなく授業改善や主体的な活動に大きな役割を果たしている。学習アプリの活用と同時にその使い方に関しては共有化して、児童生徒の確かな理解につながるよう計画的に普及させて欲しい。
- ・グローバル化およびデジタル化の時代において、I C T 環境が不可欠であるので、何とか予算内でも上手くやりくりして、I C T 環境を整えてほしい。でなければ、全国の視野に立てば、地元の教育はある程度遅れを取ってしまうことになるのではないかな。

#### (6) 教育の機会均等

- ・京野基金や利子補給、私学授業料軽減事業などについては給付型で国や県の制度を補完している。生徒保護者の負担を軽減する施策であり、評価できる。とくに京野基金は財源が枯渇化して廃止の予定であるが、国や県奨学制度を補完する検討は引き続き行って欲しいし、基金を提供して頂いた京野氏の功績を記録にとどめて欲しい。
- ・非常に良い制度で、評価すべきであり、続けてほしいと思う。

#### (7) 私立学校等の振興

- ・本市の特色ある私立高校である酒田南高校と天真学園高校が統合された。酒田市と連携協定を結ぶなど新しい学科やコースなども模索されているようだが、ぜひこの酒田の活性化につながる、有為な人材の育成に努力して欲しい。

### 6 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進

#### (2) 学校運営の公開と学校評価の推進

- ・学校評議員会の効果を高めるためには、学校が課題としている点についての的確に意見を出して頂き、学校経営の改善に生かしていくということである。よって評議委員ひとりひとりから意見を聴取すると同時にその課題に相応しい評議委員の人選をすることも重要である。

#### (3) 教職員研修等の充実

- ・教職員は常に研修を行うことが義務づけられているが、学校では様々な研修に参加した先生方が何等かの形で、その研修に参加した報告をする場面を持つことが重要である。研修によって何を得たのかまたその研修に関わって今後の課題は何かという基本的なことを確認することが大事である。

#### (4) 体罰根絶に向けた取組みの推進

- ・教員は、教育的なねらいを達成するために演技的に振舞うことも必要になってくる。そのためには常に冷静な態度で予想される反応を想定しながら対応しなければならない。アンガーマネジメントはそのコントロールの一環であるが自らの情緒傾向を踏まえて、

心の交流がある温かい雰囲気づくりに努力して欲しい。

## 7 生涯学習の充実

### (1) 生涯学習推進体制の整備

- ・総合文化センター内の1Fホールは、様々な生涯学習に関連するイベントのポスターやチラシが所狭しと並んでいるので訪問者にとっては催しものがひと目で一覧できるスペースである。カモンくんニュースは子どもや保護者にとっての広報紙であるが、シニアの方々にとっては市の広報と並んでこのスペースは貴重である。

### (2) 生涯学習社会の基礎づくり

- ・生涯学習推進講座の予算は30%減額されたにも係わらず、参加人数はわずか7%の減員にとどまったことは評価できる。ただ、カルチャー的な事業を縮小するのはともかく、基幹事業である家庭教育講座や青少年講座を縮小するのは本末転倒である。幼児講座や成人講座で増えたノウハウを生かして参加者を増やして欲しい。
- ・趣味的講座は生活の質のあらわれである。趣味的講座が縮小傾向とのことであるが、高齢化・教員の人材不足などが考えられるであろう。民間の問題とはいえ、市政はもう少し積極的に工夫できないであろうか。このままでは、市の魅力が減少することにならないか。

### (3) 生涯学習機会の提供

- ・総合文化センターを会場にした生涯学習まつりには前年に続いて1万人の来場者があったことは市民の生涯学習への思いを感じさせる結果であった。ただ参加者層がシニア層だけで後継者が育っているかどうか課題と思われる。各団体とも若い世代を取り込む工夫が求められている。

### (4) 地域活動の活性化

- ・酒田市の地域活動は、公民館活動からコミセンに移行したため、コミセン活動の地域に占める影響力は大きい。それだけにコミセン職員や関係者の活動は住民にとって直接的である。地域住民の要望や課題を受けて適切な事業や活動が展開できるよう、またコミセン間で格差が生じないよう一定のレベルで地域活動が出来るよう研修を積み重ねてよりよい地域事業につなげていきたい。

## 8 図書館活動の充実

### (1) 図書館機能の充実

- ・駅前にオープンする酒田コミュニケーションポート整備事業に寄せる酒田市民の期待は大きい。これまで培ってきた図書購入事業や市民の読書啓発のために努力してきた企画展示活動を継続して欲しい。また新しい市民のための図書館像を模索するため図書館協議会などを通じて多くの声を頂きながら酒田市の新たな知の拠点となるよう運営して欲しいと願っている。

### (2) 光丘文庫の保全と活用

- ・光丘文庫の貴重な資料を保存し、データ化するデジタルアーカイブ事業が整備されつつある。これによって市民は容易に閲覧できるようになり、年々閲覧者も増加していると

いう。さらに市民の関心のあるコンテンツを作成してデータベース化すると共に市民が見やすい第2の展示会場を設置することも考慮すべきではないか。

### (3) 子どもの読書活動の推進（再掲）

- ・新図書館では、新たに中高生の利用増を見込んでいるが、施設の利用は増えても読書や貸し出し冊数の増加に直結する訳ではないと考えられる。そのためには、学校図書館関係者とも連携しながら知恵を集めて工夫することが重要である。調べ学習は勿論のこと部活動や様々な疑問についても相談できるカンファレンス機能も必要なのではないか。
- ・中高生の不読率は、デジタル時代という原因もあろうかと思うが、図書館・学校・家庭の連携で改善するしかなかなかろうか。

## 9 スポーツ・レクリエーションの推進

### (1) 子どもの基礎的運動能力の向上（再掲）

- ・スポーツ少年団活動を維持・発展させるためには、指導者の養成と児童の運動適性に配慮した適切な運動能力の伸長が重要である。一方で、運動を苦手とする子ども達を対象に運動に親しむ機会を与える活動を展開していることは評価に値する。子ども達がスポーツを楽しむことを通じて生涯スポーツへの基礎作りに貢献できるものと思われる。

### (2) 生涯スポーツの推進

- ・市民にとって生涯スポーツの人口を増やすことは健康長寿につながる。その意味でカローリング（氷上でなく、室内でカーリングができるように考案された競技）などのニュースポーツを導入して大会を開催することは新スポーツの普及だけでなく体力作りにも資する。

### (3) 競技スポーツの振興

- ・国体をはじめ全国大会の出場者はここ数年 300 人前後とのことである。来年の東京オリンピック・パラリンピックを前に競技力向上の機運が高まっている。本市からも有力選手が全国で上位に進出したり、医学生理学見地からトレーニング・コーチを受けるなどして世界に活躍する選手の育成に努めて欲しいと強く願っている。

### (4) スポーツ施設の整備充実

- ・平成 30 年度の卓球大会に次いで、令和元年度もソフトテニスや剣道の全国大会が予定されている。全国の方々に本市を見て貰う良い機会であるし、開催会場にとっても施設状況を点検するよい機会である。また、今後老朽化していく施設についてはこまめにチェックして計画的に長寿命化を目指して欲しい。

## 10 芸術文化活動の推進

### (1) 芸術文化の振興

- ・酒田市文化芸術基本条例及び酒田市文化芸術推進計画が策定された。今後、市民が文化芸術に親しむと共にそれらを街づくりや人づくりに活かす方策を考える時代に来ている。これからは市民芸術祭をはじめとして、豊かな生涯を送るため世代を超えた事業の展開が求められている。

### (2) 市民の鑑賞機会の充実

- ・市立美術館や土門拳記念館はいずれも優れた収蔵品をもつミュージアムで、山形県を代表する施設である。県内外から多くの観光客が入場しているが、今後は地元のリピーターに支えられた愛されるミュージアムを目指して欲しいし、様々なミニコンサートやギャラリートークを開催して、市民が芸術に触れる機会を増やして欲しい。

### (3) 青少年の芸術文化活動の充実

- ・名誉市民市原多朗氏による公開レッスン及びコンサート、山形交響楽団による楽器クリニック、萬狂言社による小学生への狂言指導など子ども達が一流の芸術家による指導に直接触れることが出来るようになったことは、極めて貴重な経験で豊かな感性を育て、表現の素晴らしさを感じたと思われる。

## 11 歴史・文化遺産の保存と活用

### (1) 文化財等の保存と活用

- ・山居倉庫は河村瑞賢が開発した西回り航路の米積み出しの拠点となる施設である。次年度に国指定の史跡化を目指していると聴いているが、認定された暁には酒田湊を象徴する歴史的な文化遺産として多くの方々に見て欲しいし、港湾都市酒田の発展につながる文化財として市民に愛されるシンボルになって欲しいと願っている。

### (2) 地域における民俗文化財の保存と活用

- ・今年度、日本とポーランドの国交樹立 100 周年を記念して、黒森歌舞伎のポーランド公演が実現した。大変素晴らしい国際交流となるばかりでなく、日本の古い民俗芸能がヨーロッパでどう受け入れられたかまたポーランドに伝わる民俗芸能にはどんなものがあるか興味津々である。
- ・黒森歌舞伎は地元において価値の高い文化遺産であり、ポーランドのみならず、もっと国際化させることができないか。

### (3) 地域資料の収集と保存

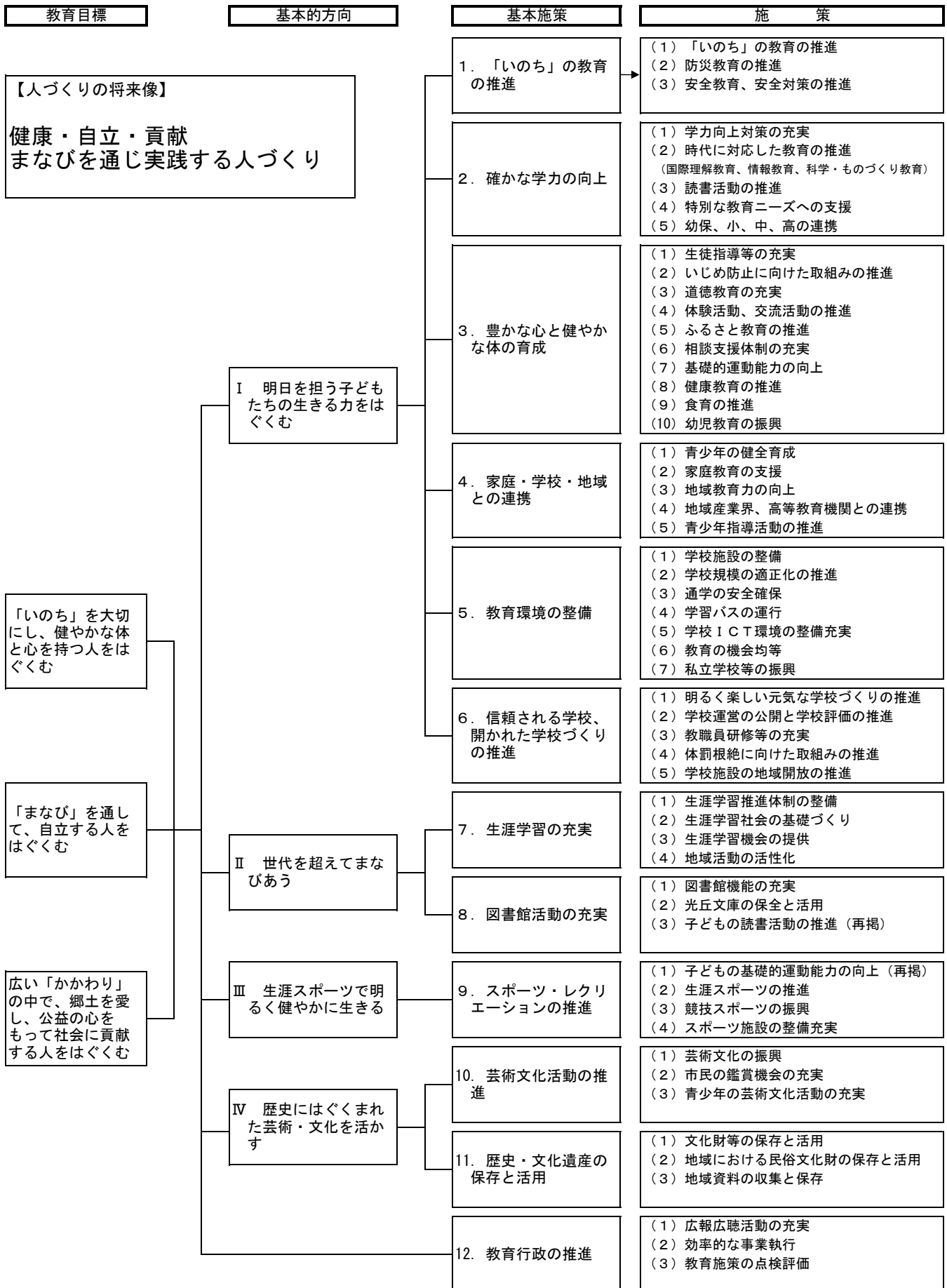
- ・市立資料館は展示スペースや駐車場の狭隘さ、松山文化伝承館は旧酒田市から遠隔地であることがそれぞれの両施設の立地上の課題となっているが、ここ 3 年間で入場者数は共に減少している。展示内容は、決して他に見劣りするようなことはないが、今後さらにリピーターを増やすなどの魅力的な企画展示を工夫する必要がある。

## 12 教育行政の推進

### (1) 広報公聴活動の推進

- ・平成 30 年度はじめて、「きょういく酒田」を広報に折り込んで発行した。教育委員会の役割や事業について PR した A 4 判 4 頁のチラシで、ともすると見え難い本市の教育活動が分かり易く紹介されていた。是非、継続して欲しい。
- ・「きょういく酒田」の創刊は非常によい試みである。効果を期待したい。

# 酒田市教育振興基本計画後期計画体系図



基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	1 「いのち」の教育の推進		
施策	(1) 「いのち」の教育の推進 (その1)		
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成30年度 担当部署	学校教育課、社会教育文化課

<b>施策の目的及び目標</b>																													
○目的 <ul style="list-style-type: none"> <li>命と生き方を大切にする「いのち」の教育を推進し、健やかな体と心を持つ人を育てる。</li> <li>自らのいのちと存在を大切に思える気持ち（自尊感情）と他の人のいのちを尊重する気持ちを育てる。</li> <li>命を守る安全教育を推進し、児童生徒自らが主体的に判断し、行動できる能力を高める。</li> <li>乳児と母親とのふれあいを通し、子どもたちが自らも家族の愛情にはぐくまれ成長してきたことの喜びを感じてもらうことで、自己肯定感といのちの大切さを実感できる教育を推進する。</li> <li>これから親になる世代に対しての学習機会の充実に努める。</li> </ul>																													
○目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>自らのいのちと存在を大切に思える気持ち（自尊感情）と自らのいのちを守るために主体的に判断し、行動できる能力を高めていく。</li> </ul>																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">算出方法</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">全国学力学習状況調査 「自分にはよいところがある」</td> <td>小六</td> <td>76.1%</td> <td>78.3%</td> <td>72.7%</td> <td>77.7%</td> <td>83.9%</td> <td>増加させる</td> </tr> <tr> <td>中三</td> <td>67.8%</td> <td>65.1%</td> <td>70.6%</td> <td>70.1%</td> <td>79.2%</td> <td>増加させる</td> </tr> </tbody> </table>							算出方法		H26	H27	H28	H29	H30	目標	全国学力学習状況調査 「自分にはよいところがある」	小六	76.1%	78.3%	72.7%	77.7%	83.9%	増加させる	中三	67.8%	65.1%	70.6%	70.1%	79.2%	増加させる
算出方法		H26	H27	H28	H29	H30	目標																						
全国学力学習状況調査 「自分にはよいところがある」	小六	76.1%	78.3%	72.7%	77.7%	83.9%	増加させる																						
	中三	67.8%	65.1%	70.6%	70.1%	79.2%	増加させる																						
<ul style="list-style-type: none"> <li>命と生き方を大切にする学校づくりと創意ある教育課程の編成を推進する。</li> <li>自尊感情と思いやりの心を育む道徳教育、社会性を育む集団づくりと自己実現につながる生徒指導、いじめのない学校づくりを推進する。</li> <li>日常の安全に関する知識や対応・行動の仕方についての教職員の資質の向上と児童生徒の危険回避能力の育成を図る。</li> <li>学校と連携し、限られた授業時間で充実した内容を提供する。</li> </ul>																													

<b>平成30年度 主な事業の概要及び実施状況</b>						
○学校教育の重点に「いのち」を大切にする学校づくりを掲げ、各校で創意ある取り組みを行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>授業や帰りの会等で振り返りの時間を大切にし自他の良さを見つめる習慣化を図った。（小学校）</li> <li>鮭やサクラマスの研究活動や体験を通して生命のつながりを実感させる実践を行った。（小学校）</li> <li>担任と養護教諭が連携した「生命の誕生」「体の発育」などの学習を通して、生命の尊さに気づき、自他を大切にする心や家族への感謝の心を育てる授業に取り組んだ。（小学校）</li> <li>授業の中に話し合い活動を取り入れたり、班会・班長会・拡大班長会を隔週で開催し、他者との関わりを大切にした取り組みを行った。（中学校）</li> </ul>						
○教職員一人ひとりが実際の場面で対応できるようにAED操作、心肺蘇生の講習会で研修を深めた。また、アレルギー対応についても各学校で研修会を開くなど対応できるように取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>救命救急講習会（1回 参加者 教職員30名 四中会場）</li> <li>各小学校でプール指導前にPTAと連携して救命救急講習会を実施し、心肺蘇生やAED操作の講習を行った。</li> </ul>						
○離岸流による事故の防止の啓発文書を配布し、各学校で児童生徒への指導を行った。						
○赤ちゃん登校日 <ul style="list-style-type: none"> <li>市内の小学校（5・6年生）を対象とし、2～3組程度の親子（赤ちゃん）とコーディネーター（1人）とともに学校を訪問して、子育てについての話や子どもへの思い等を聞き赤ちゃんに触れ合う。</li> <li>小学校8校で11回開催。総参加人数312人。</li> </ul>						

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	1 「いのち」の教育の推進		
施策	(1) 「いのち」の教育の推進 (その2)		
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成30年度 担当部署	学校教育課、社会教育文化課
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○児童生徒が安全、安心に学校生活を送ることができるように、「いのち」を大切にす学校づくりを「学校教育の重点」の最重要課題として推進した。</p> <p>○離岸流、熱中症、蜂等の有毒生物等に対する事故防止について、心配される時期に適時に通知し、学校での指導に活かせるようにした。</p> <p>○市内全小中学校教員を対象にした救命救急講習会は「子どもの命を守る安全教育推進事業」で27年度より実施しており、AED講習を含めた救命救急講習会を継続して実施していく。</p> <p>○赤ちゃん登校日では、思春期の中学生を相手に事業をやりづらいという前年度の反省を踏まえ中学校を対象から外した。一方で、小学校は5年生を対象を含めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童やお母さんからもっと児童一人ひとりと赤ちゃんが触れ合う時間がほしかったという感想が寄せられたので、後半は可能な限り講師（親子）の数を増やして実施した。</li> </ul>			
事業の効果・課題			
<p>○「いのち」を大切にす学校づくりに向けて各校で取り組みを行い成果を上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心身の事故を防ぐことを何より優先させるために、小規模校でも「組織」を活かし、全員考え全員で対応する体制を作り上げ、安全に関する指導の充実を図ることができた。（小学校）</li> <li>・授業、生徒会活動、行事等の様々な場面で活躍し生き生きと取り組んでいる生徒の姿をたくさん見ることができた。（中学校）</li> </ul> <p>○交通事故や校内・外での負傷事故が発生している。今後も事故の未然防止に取り組んでいく。（H30発生率 負傷事故0.21% 交通事故0.14% 熱中症0.44%）</p> <p>○赤ちゃん登校日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちは緊張しながらも赤ちゃんを抱っこしたり、おもちゃであやしたり、一生懸命に向き合っていた。その中で、命の重さや大切さを感じるとともに、自分もこのように愛情いっぱい育ててもらったことを実感し、親へ感謝する気持ちも生まれていた。</li> <li>・事前学習で児童が自分の名前の由来や赤ちゃんのころの様子を親に聞いていたことで、授業への関心を高めることができた。児童が事前に質問を考えている場合も多く、充実した講座の実施となった。今後も学校との打合せで事前学習を依頼していきたい。</li> <li>・アンケートの結果、子育てに対する理解が高まった、または、乳幼児に関心を持つようになった参加者の割合は95パーセントだった。</li> </ul>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度評価	A	<p>○学校教育の重点に「いのち」を大切にす学校づくりを掲げ、各校で創意ある取り組みを行うことができた。</p> <p>○事前打合せを行い学校教諭と連携した授業の実施ができています。</p> <p>○赤ちゃんを実際に抱っこしたり、母親から子育ての苦労ややりがいを聞くことで、命の重さや、生まれてから今まで親から育ててもらったことを考える機会となっている。</p>	
【参考】29年度評価	A		



基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	1 「いのち」の教育の推進		
施策	(2) 防災教育の推進		
担当部署	学校教育課	平成30年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模な災害が発生した場合の学校としての体制づくりと児童生徒が主体的に考え、判断し、行動できる危険回避能力を育てる。</li> <li>・児童生徒が適切に避難できるように各校の防災マニュアルと防災管理体制の見直しを図る。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生時に適切な対応ができるように、教職員への防災教育研修会等を実施する。</li> <li>・学校防災マニュアル作成ハンドブックをもとに、学校防災マニュアルの整備を図る。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○子どもの命を守る安全教育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもの命を守る安全教育推進会議」の開催（年2回）</li> <li>・児童・生徒への防災教育及び教職員への防災管理研修（小学校5校、中学校1校）</li> <li>・防災教育研修会（1回 参加者 教職員32名）</li> <li>・救命救急講習会（1回 参加者 教職員30名）</li> </ul>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○平成28年度に作成した「学校防災マニュアル作成ハンドブック」を配布し、それをもとに各校の学校防災マニュアルの整備を行った。</p> <p>○学校での避難所開設に向けた学校と地域と市の事前協議を行った。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○防災教育アドバイザーによる児童生徒向けの講話では、地震の基本的な知識や避難行動の留意点を、キーワードとしておさえ理解を深めることができた。また、画像を適切に使い、視覚をとおして理解を深めることができた。</p> <p>○学校防災マニュアルを各校で整備することができた。今後は防災マニュアル改善研修会や避難訓練などでマニュアルを検証しながら改善し、精度を高めていく必要がある。</p> <p>○学校での避難所開設に向けた三者での事前協議を進めることで、鍵の管理や初期対応の役割分担などを確認することができた。今後も事前協議を進めながら、避難所開設マニュアルを整備していく必要がある。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度 評価	A	○大規模な災害が発生した場合の学校としての体制づくりと児童生徒が主体的に考え、判断し、行動できる危険回避能力を育てる取り組みを進めることができた。	
【参考】 29年度 評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	1 「いのち」の教育の推進		
施策	(3) 安全教育、安全対策の推進		
担当部署	学校教育課	平成30年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関する指導を通して、命を守る安全教育の推進を図る。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関する知識や対応、行動の仕方について、具体的な場面を想定した実践的指導を推進する。</li> <li>・日常的な指導を工夫することにより、児童生徒が安全に関して主体的に判断し行動できる能力を高める。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○「非常災害対策と防止計画」の各学校での作成（昨年度に作成したものの見直し）と実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火災発生時、地震及び津波発生時、不審者侵入時など、具体的な場面を想定した訓練を実施し、避難場所や経路など実施をふまえた改善を進めるよう指導した。</li> </ul> <p>○年間指導計画に基づいた交通安全教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期の初発指導や特別活動等の時間において、交通安全教室や安全な登下校についての指導が行われている。</li> </ul> <p>○安全な登下校に向けた「見守り隊」との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校安全指導員（5名委嘱、1名あたり年間40日活動）による学校訪問を通じて、登校の様子や通学路の要注意箇所について情報交換を行った。</li> </ul>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○各校のリスクに対応していくために、地域学校安全指導員による学校訪問を通して、専門的な視点からの指導をしていくとともに、地域と学校の連携をより強化していく。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○「非常災害対策と防止計画」の策定と改善によって、実際のその状況における行動とを想定した訓練が行われるようになっている。</p> <p>○各校における「見守り隊との対面式及びお礼の会」や「こども110番連絡所」の設定箇所確認を通して、登下校時に危険を感じたときや困ったとき、頼れる人や場所がすぐ思い浮かぶような体制づくりが整ってきた。</p> <p>○自転車使用時のヘルメットの着用が定着してきた。今後も命を守る観点からヘルメットの着用を継続して呼びかけていく。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度評価	B	<p>○「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関する指導を通して、命を守る安全教育の推進を図ることができた。</p> <p>○交通事故など事故の防止に向けて繰り返し指導を行っていく必要がある。</p> <p>○自転車使用について違反者、加害者にならない指導を各校で丁寧に繰り返し行っていく。</p>	
29年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	2 確かな学力の向上		
施策	(1) 学力向上対策の充実		
担当部署	学校教育課	平成30年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の能力・学力を把握し、教師の授業改善や読書活動の充実を図る取り組みを通して、児童生徒の学力向上に資する。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校訪問指導を通し「確かな学力」を育成するために授業改善を図る。</li> <li>・小学校4年生から中学校3年生全員を対象に学力検査を実施し、児童生徒の学力の傾向を分析するとともに、各校での指導に生かす。</li> <li>・全教科に、全国標準以上の学力を目指す。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○学校訪問指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各小中学校で実施した47回の授業研究会に延べ139名の指導主事を派遣し、授業改善に向けた指導・助言を行った。</li> </ul> <p>○学力向上対策事業【予算現額14,369千円・支出済額13,778千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）やNRT（標準学力テスト）については学力の状況と学級の人間関係等を把握し、指導を改善するために活用している。</li> <li>・小中授業力向上研修会では、算数・数学と英語で授業改善へ向けた実践的な研修を行った。</li> </ul> <p>○教育研究所運営事業【予算現額705千円・支出済額577千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科、領域ごとの研究部で授業研究会や研修会を延べ46回実施した。</li> </ul> <p>○単元研究委嘱</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の指導力向上を目的に琢成小、松陵小、八幡小に単元研究を委嘱した。</li> </ul>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○課題であった数学、英語の指導力向上に向けて、中学校教員県外視察（数学科、英語科）を実施し、先進校の実践を学ぶことが出来た。また同時に、ホームアンドアウェイの授業研を実施することで、研修の成果を共有することができた。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○Q-Uについて、市全体や各学校で活用するための研修会を実施し効果的であった。希望した12校へ講師を派遣した。</p> <p>○平成27年度より学力向上推進会議を開催し、学力向上対策について有識者からご意見をいただきながら、具体的な施策について検討し、方向性を確認することができている。</p> <p>○小中授業力向上研修会では、公開授業を通して、新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」を具現化する授業改善について、理解を深めることができた。</p> <p>○NRTについては、各担任、学校が、個々の児童生徒やクラス、学校全体、市全体の学力の状況を把握し、指導を改善するために活用している。</p> <p>○社会教育文化課や図書館等とも連携し、学校と家庭で「目指す姿」を共有しながら、発達段階に応じて子どもの主体性を伸ばして、家庭学習や読書の時間の習慣化を図る。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度評価	B	<p>○Q-UとNRTの授業改善への活用については、教員の理解が深まってきており、学級づくり、学力向上に向けて取り組んでいる。</p> <p>○課題であった数学では、「数学が好きである」生徒の割合は増加しており、今後の伸びが期待できる。英語も小学校での外国語活動の先行実施を軸に小中の連携を深めながら教員の指導力向上を図っていく。</p> <p>○教育研究所運営事業について、「研究所だより」秋号と年度末に発行している「研究所報」の記事に重なりが見られるため、平成30年度より内容を「研究所報」に統合し、「研究所だより」の発行を年2回から年1回とした。</p>	
【参考】29年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	2 確かな学力の向上		
施策	(2) 時代に対応した教育の推進（国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育）（その1）		
担当部署	学校教育課	平成30年度 担当部署	学校教育課

<b>施策の目的及び目標</b>							
○目的 ・時代の進展と社会の変化に伴い、国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育などを推進することにより、子どもたちに時代にふさわしい能力を身につけさせる。							
○目標 ・ALTを効果的に活用することで、英語を使つてのコミュニケーションへの興味・関心を高めるとともに、中学生海外派遣事業「はばたき」や四世交流事業等を通して、国際感覚の基礎を身につける。 ・情報教育担当者会での研修を通して教員の指導力を高め、児童生徒の情報モラル及び情報活用能力の向上を図る。							
算出方法		H26	H27	H28	H29	H30	H31(目標)
授業でICT機器を活用できる教員の割合	小	87%	90%	89%	91%	92%	100%
	中	76%	78%	81%	88%	88%	100%
・理科教育センター各事業及び中村ものづくり事業の活動を通し、身近な現象を科学的に解き明かす力の育成やものづくりの楽しさを感じさせるようにする。 ・言語や生活習慣等の相違を越えた心と心のふれあいを行うことで、異文化に対する理解と認識を深め、国際社会に貢献する豊かな人間形成に資する。							

**平成30年度 主な事業の概要及び実施状況**

- 外国人英語講師招致事業【予算現額5,566千円・支出済額5,036千円】
    - ・中学校では外国語週4時間に対応してALTとのTT（ティームティーチング）を実施し、ネイティブイングリッシュに触れる機会をもった。小学校では主に3年生から6年生の全クラスでALTとTTの授業が行えるよう派遣した。
  - 中学生海外派遣事業「はばたき」【予算現額6,750千円・支出済額6,263千円】
    - ・19名（男子6名、女子13名）の中学生をオハイオ州デンプシー中学へ派遣した。体験入学やホームステイでは、団員が積極的に国際交流を図り、国際的な視野を広げることができた。
  - 中村ものづくり事業【予算現額1,764千円・支出済額1,764千円】
    - ・チャレンジものづくり塾（年間5回開催、塾生26名）、サイエンス発明教室（2領域63名）ものづくり出前授業（延べ37校1,313名）、小中高連携ものづくり教室を実施した。
  - 理科教育センター推進事業において、理科自由研究相談会を実施し、酒田市教育委員会科学賞に多くの児童が応募した。
    - ・理科研究相談会参加…14家庭
    - ・教育委員会科学賞応募作品…109点（小学校21校、中学校2校）
- <参考 これまでの応募点数・受賞点数の推移>

	H27	H28	H29	H30
応募点数	112	107	100	109
栄誉賞	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
科学賞	3	1	1	1
奨励賞	3	6	7	5
努力賞	15	12	15	16

※栄誉賞とは全国レベルのコンクールに出品し、優秀な成績を収めた作品に贈られる賞である。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	2 確かな学力の向上		
施策	(2) 時代に対応した教育の推進（国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育）（その2）		
担当部署	学校教育課	平成30年度 担当部署	学校教育課
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○民間企業のタブレット端末の無償貸し出し制度を活用し、小学校3校、中学校1校で実践した。</li> <li>○2回のサイエンス発明教室、通年のものづくり塾、出前授業の内容を整理・統合し、参加対象者が大きな負担を感じずに気軽に参加できるようにした。</li> <li>○サイエンス発明教室のコースを各分野ごとに見直しをはかり、新しいニーズにこたえるようにした。また、酒田光陵高校での中学生を対象としたものづくり授業を企画し、小学校・中学校・高校が連携した連続したものづくり学習を行った。</li> <li>○産業フェアに参加して、ステージイベントで製作したロボットを披露したり、各報道機関に周知し、新聞等の報道で取り上げてもらう。</li> </ul>			
事業の効果・課題			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ALT派遣について、5、6年生の学級数が4学級以下の小学校には年間20～35日程度、5学級以上の小学校には年間40～70日程度派遣し、児童が英語に慣れ親しみ、積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めることができた。</li> <li>○「はばたき」では、デンプシー中学校の中学生に日本文化を英語で紹介したり、体験させたりして積極的にコミュニケーションを図ることで、英語への興味・関心を深めることができた。また報告会の実施と報告集の作成が団員の英語学習への意欲を高め、さらには他の生徒の「はばたき」への関心につながっている。</li> <li>○中村ものづくり事業の2回のサイエンス発明教室、通年のものづくり塾、出前授業を通じ、ものを創ることの喜びを実感すると同時に、科学への興味関心を高める機会となった。</li> <li>○ものづくり塾の発表の場として産業フェアのステージイベントに参加したことで広く市民に注目され、ものづくりの楽しさを発信することができた。</li> </ul>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国際理解教育において、小・中学生が言語だけでなくALTの出身国の文化にも触れることができ、世界への興味関心を高め、国際的視野を広げることができた。</li> <li>○「はばたき」では、アメリカでのホームステイと中学校体験入学と首都ワシントンD. C.での研修を通して、異文化理解が深まり、英語学習への意欲を高めることができた。</li> </ul>	
【参考】29年度評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報教育、科学・ものづくり教育などを推進することにより、子どもたちに情報収集能力や表現力、科学的思考力などをつけることができ、知的好奇心を高めることができた。</li> </ul>	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ							
基本施策	2 確かな学力の向上							
施策	(3) 読書活動の推進							
担当部署	学校教育課	平成30年度 担当部署			学校教育課			
施策の目的及び目標								
○目的 ・読書活動を推進するため、本との多様な出合いを工夫するとともに、読書に親しめる環境の整備と充実を目指す。								
○目標	算出方法	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31目標
学校図書室貸出冊数 (1人当たり月平均)	小	8.8冊	9.2冊	9.9冊	10.1冊	9.9冊	10.5冊	10冊
	中	0.63冊	0.73冊	0.78冊	0.98冊	0.87冊	0.93冊	2冊
全国学力・学習状況 調査の質問53「読書 は好きですか」回答 による (H30は県学調)	小	小6 80.4%	小6 74.1%	小6 78.2%	小6 80.7%	小6 80.6%	小5 84.7%	小6 80.0%
	中	中3 74.2%	中3 73.6%	中3 71.2%	中3 74.4%	中3 71.5%	中2 76.4%	中3 80.0%
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況								
○各小中学校への図書専門員の配置 ・25名の図書専門員を全小中学校に週2～3日配置し、学校図書的环境整備を行った。								
○図書購入費の各小中学校への配当 ・小学校15,030千円(充足率127.4%)、中学校10,287千円(充足率121.6%)の図書を購入した。								
○図書館教育・読書指導研修会の実施 ・「東北地区学校図書館研究大会に向けた授業改善」を大テーマに、数年来ご指導をいただいている新潟大の足立准教授よりご講演をいただいた。演題「読書の楽しさを広げ豊かな心を育てる読書指導～図書室と授業を結ぶアプローチ～」のもと、教員・図書専門員32名が参会した。								
平成30年度における改善点・新たな取り組み								
○学校と家庭との連携・協働の促進 ・学校において多様な読書活動を展開するとともに、家庭と連携しながら、本とふれあう機会の充実を図った(アウトメディアで生まれた時間を、親子読書の機会にする・読書について親子で会話する時間に充てるなど、「読書手帳」の活用による家庭での読書を推奨した)。								
事業の効果・課題								
○図書専門員の間で管理システムの活用や読書環境整備に対する意識が向上し、特に小学校においては読書量や読書意欲が高い水準で維持されている。								
○どの学校でも集団読書の機会(読み聞かせや朝読書)を工夫し、読書意欲向上を図っている。								
○図書館教育・読書指導研修会の後、各校では内容の伝達がなされ、日々の授業改善や図書館運営の工夫につながった。H31の東北大会に向け、図書の活用を位置付けた授業づくりを推進する。								
○小学校において、学校図書を年間1人100冊以上借りている学校が20校ある。								
点検結果・自己評価(今後の方向性)								
30年度 評価	B	○図書システムの導入とともに順調に伸びていた学校貸出冊数が、29年度は前年を下回ったが、30年度ではまた増加の傾向にある。 ○東北図書館大会に向け、発表予定の小・中学校を中心に「授業における図書活用の充実」に向けた研究や研修が全市的に進められている。 ○今後は「市立図書館と学校との連携」を深めていく。今年度は初めての取り組みとなる「市立図書館発の学校巡回文庫」が始まった。選書会議の持ち方や冊数、期間等、学校現場の声を更に反映させ、子どもの読書意欲を高めたい。						
【参考】 29年度 評価	B	○授業における図書活用の充実を図り、更に図書室や本と児童生徒を近づける工夫を検討したい。						

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	2 確かな学力の向上		
施策	(4) 特別な教育ニーズへの支援		
担当部署	学校教育課	平成30年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な教育的支援を必要とする児童生徒や日本語でのコミュニケーションが困難な児童生徒等に対して、個別のニーズに応じた支援を行う。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育コーディネーターを中心に、相談や支援が組織的に行われるようにする。</li> <li>・教育支援員等の適正な配置により、個別のニーズに沿った指導・支援を行う。</li> <li>・日本語指導講師等の派遣により、日本語や病気で困難さを抱える児童生徒が、学校での生活に早期に適応できるようにする。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○教育支援員充実事業【予算現額83,451千円・支出済額80,349千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育支援員60名を小学校22校・中学校7校に配置した。(6時間×205日、研修2回)</li> </ul> <p>○ADHD等支援体制推進事業【予算現額5,821千円・支出済額5,635千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育コーディネーター等を対象とし、研修会を実施した。(2回)</li> <li>・保護者研修会(ペアレントトレーニング)を開催した。(人数:6名、5回×1グループ)</li> <li>・3名の特別支援教育巡回相談員による巡回指導を実施した。22校延べ340回(H29は353回 H28は341回) 支援要請者数:228名</li> </ul> <p>○日本語指導講師等派遣事業【予算現額1,179千円・支出済額926千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語指導講師を324時間派遣した。(対象児童生徒数5名)</li> </ul>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育支援員の研修会では、グループ毎に演習を通して、適切な支援のあり方について話し合う等研修スタイルを変えた。</li> </ul>			
事業の効果・課題			
<p>○教育支援体制推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援を要する個々の児童生徒はもちろんのこと、学級、学校全体においても授業に集中して取り組むようになっていたり、落ち着いて学校生活が送れるようになっていたりする児童生徒が増えるなど、教育支援員の配置による効果が見られた。</li> <li>・年2回行っているアンケート調査によると、約2割の児童生徒を支援していることが明らかになり、教育現場において必要不可欠の存在となっている。</li> </ul> <p>○ADHD等支援体制推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と巡回相談員との連携がスムーズに進み、保護者との面談や担任への指導方法の助言が効果的に行われている。今後、巡回相談員の人材育成が課題である。</li> <li>・巡回相談員は主に小学校を対象として支援しているが、中学校においても支援のニーズが高くその対応について検討していく必要がある。</li> </ul> <p>○日本語指導講師等派遣事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語指導の希望のあったすべての児童生徒に講師を派遣することができ、日常生活を円滑に過ごせるように個々の困り感に合わせた指導をすることができた。</li> </ul>			
点検結果・自己評価(今後の方向性)			
30年度評価	A	○教育支援員は、学校の実態に応じて配置しており、児童生徒の状況に合わせた支援を行っている。授業に集中して取り組んだり、落ち着いて学校生活を送れるようになっていたりする児童生徒が増えるなど、教育効果が大きいと考えている。学校のニーズも非常に高い。	
【参考】29年度評価	A		

基本的方向	1 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	2 確かな学力の向上		
施策	(5) 幼保、小、中、高の連携		
担当部署	学校教育課	平成30年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園・保育園と小学校、小学校と中学校と高等学校が連携を図り、育ち・学びのつながりを重視した幼児・児童・生徒への指導・支援を行う。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園・保育園と小学校が連携し、保育や指導についての相互理解を深め、学びの連続性を考慮しながら卒園後の小学校教育及び生活への円滑な接続を図る。</li> <li>・小学校と中学校が連携し、各中学校区をまとまりとした教職員の相互研修会を実施することで、9年間を通したまなびのつながりを見据え、見通しを持って指導を行う。</li> <li>・中学校と高等学校が連携し、キャリア教育の視点に立った進路指導の充実を推進する。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○「酒田っ子すくすく育成会議」（子育て支援課）の場で、幼保小の連携のあり方について話し合った。</p> <p>○幼保小指導者研修会（子育て支援課）で、東北公益文科大学の白旗希実子先生から、「対話を通じた相互教育実践への理解」について講話をいただいた。その後の演習では、幼保小連携の中で「学んだこと」「気がついたこと」「聞きたいこと」について意見を出し合いながら付箋に書いてまとめたり、昨年度作成した「接続期プログラム」の活用方法について話し合ったりした。</p> <p>○幼保小の指導者相互職場体験研修（子育て支援課）において、幼保小の職員が互いの教育観、保育観を理解したり、子どもの様子を観察することができた。</p> <p>○「小中授業力向上研修会」で外部講師を招聘し、小中学校の教員を対象として算数・数学、英語の授業改善に向けた実践的な研修を行った。</p> <p>○「H30山形の未来をひらく教育推進事業」の中高教員相互派遣研修において、県立鶴岡北高等学校で英語の授業研究会が行われた。</p>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
事業の効果・課題			
<p>○「酒田っ子すくすく育成会議」では、幼保小のスムーズな接続について話し合い、小学校や園の職場体験を通して両者の教育観を理解したり、就学にあたって情報を共有したりすること等を継続して実施していくことを確認した。</p> <p>○幼保小指導者研修会では、グループ演習を通して「接続期プログラム」の活用方法について話し合い、日々の実践につなげることができた。</p> <p>○幼保小の指導者相互職場体験研修では、子どもの発達段階を理解し、指導や保育に係る課題を共有化し、お互いの教育等について情報交換することができた。</p> <p>○小中授業力向上研修会を通して、算数・数学では推進校の提案授業を基に小中学校の校種を超えて学習指導要領が求める授業のあり方について理解を深めることができた。英語の研修会では長文読解の指導のあり方と小・中学校それぞれの学習内容を把握した指導法について学び、実践への意欲を高めることができた。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度評価	B	<p>○幼稚園、保育園と小学校が連携し、就学前後において子どもに関する情報交換を行うことで学びの連続性を図ると同時に、切れ目ない支援を継続して行っていく必要がある。</p> <p>○中学校区ごとに、小中の連携を一貫教育へと前進させるため、義務教育9年間の系統的な育ちを意識し、生活と学力の一体的向上を目指していく。</p>	
【参考】29年度評価	B	<p>H30:小中一貫教育推進委員会（第1回）を開催 概要：①本市の目指す小中一貫教育のあり方・方向性の説明 ②文教大学教授による講話</p>	



基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(1) 生徒指導等の充実		
担当部署	学校教育課	平成30年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健全な自尊感情と響き合うあたたかな心をはぐくむ生徒指導の充実を図る。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育指導（経営訪問、計画訪問、要請訪問）等を通して、心が通い合い、高め合う集団づくりを目指すと共に、1人1人の自尊感情を高め、自己実現につなげる。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○学校教育指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育の重点に沿った各校の経営構想及び取り組みの重点を立案する際、児童生徒の自尊感情や所属感を高める指導、担任力（学習指導力、生徒指導力、特別支援教育力）の向上を大切にするよう指導した。</li> </ul> <p>○心が通い合い高め合う集団づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市生徒指導主事会（年2回）、小学校生活指導連絡協議会（年2回＋中学校区ごと）、中学校生徒指導連絡協議会（年6回）における指導・助言を通じて、積極的生徒指導を推進した。</li> <li>・中学校生徒指導主事会を年2回開催し、各校の実態と取り組みを共有し合うことで、事故や問題行動の未然防止と適切な対応（生徒のつながりの広域化への留意等）につなげている。</li> </ul>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Q-U（4年目／楽しい学校生活を送るためのアンケート）により、学級内の人間関係と1人1人の学級に対する思いを把握し、子ども理解とよりよい集団づくりにつなげている。30年度は、学校からの希望を受け、分析等に係る講師の派遣を12校に対して実施した。</li> <li>・小学校生活指導連絡協議会では、関係機関との協力や情報交換に加え、中学校区で現在行われている「生徒指導に係る小中の課題共有に向けた取り組み」を紹介し、更なる実践の充実を図った（例、小中PTAが協働で行う「メディアコントロール」等）。</li> </ul>			
事業の効果・課題			
<p>○特別支援教育への理解と校内体制整備が進み、一人ひとりに寄り添った支援が行われている。</p> <p>○丁寧なアンケート調査を複数回行い、いじめの早期発見に向けたアンテナが鋭くなっている。初期段階から組織的に対応する学校が増え、解消率の増につながっている。</p> <p>○行事や児童会・生徒会活動では、主体性を生かした活動を一層充実させていく必要がある。</p> <p>○「全国学力学習状況調査」の「自分にはよいところがあると思うか」という質問項目では、「そう思う」及び「どちらかというと思う」の割合が中学校では全国平均をわずかに上回り、小学校ではわずかに下回った。 本市：小83.9% 中79.2% 全国：小84.0% 中78.8%</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度評価	B	<p>○Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）の分析と結果考察により、全校体制で心が通い合い、高め合う集団づくりを目指している。話し合いの充実など、子ども同士が関わり合う活動にも広がりが見られる。</p> <p>○授業を通じた生徒指導を今後も意識し、全員参加を保證した「わかる授業」自己有用感・自己存在感を感じられる授業づくりを進めていく。</p>	
【参考】29年度評価	B	<p>○「義務教育9年間を通じた学びと育ち」を意識し、小学校と中学校の協働、情報共有を更に推進していく。特に、本人の特性や家庭環境、生育歴等の引き継ぎを重視し、1人1人に寄り添った指導を通じて自尊感情や自己肯定感を高めていけるよう、学校を支援する。</p> <p>○小の細やかな学習指導と中の生徒主体の活動、互いの良さに学び合う。</p>	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(2) いじめ防止に向けた取組みの推進		
担当部署	学校教育課	平成30年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての児童生徒が安心して学校生活を送り、さまざまな活動に取り組めるようにいじめ防止を推進する。</li> <li>市、学校、地域住民、家庭、その他の関係者が連携し、いじめの問題を解決する。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ問題への対応を学校のみならず、市民及び社会総がかりで進め、いじめの未然防止、早期発見対応等をより実効的なものとなるように推進していく。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○酒田市いじめ問題対策連絡協議会の開催（6月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年度6月の第3回に続き、「酒田市いじめ防止基本方針」に基づくいじめの防止等のための有効な対策、情報交換、啓発事業その他の必要な事項に関する協議（第4回）を行った。</li> </ul> <p>○酒田市いじめ問題対応委員会（継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対応委員会は酒田市教育委員会が主体となって調査を行う場合における重大事態に係る事実関係に関する調査及び審議を行う組織である。</li> <li>第3回を31年2月に開催し、本市のいじめ防止の取組について委員から意見をいただいた。</li> </ul> <p>○中学校生徒会連絡協議会支援事業【予算現額80千円・支出済額80千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>酒田市・遊佐町中学校生徒会連絡協議会の分科会で「いじめ撲滅」等をテーマとした話し合いが行われた。互いの取り組みを紹介しながら「よりよい人間関係をつくるための生徒会活動」について協議し、活発な話し合いから得た今後の活動の手がかりを各校に持ち帰った。</li> </ul> <p>○児童生徒だけでなく保護者にも年2回のいじめアンケート（6月、11月）を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校と家庭が連携して早期発見と適切な対応に取り組んだ。</li> </ul>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○いじめ問題対策連絡協議会では、ワークショップの形で「いじめ防止に向けて、学校・家庭・地域にできること」について意見を出してもらい、事務局が集約したものを各団体・機関に返すことで、課題や提案の共有並びに今後に向けた具体的な取り組みの検討につなげた。</p> <p>○いじめ問題対応委員会では、第三者委員会の委員人選に向けた市長部局との連携など、「重大事態発生時の対応フロー」をより機能的なものにするための協議を行った。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○小・中学校共に、昨年度に比して、いじめの認知件数が大幅な増となった。教職員間のいじめに関する共通理解が進み、「認知漏れを出さない」という姿勢が反映されたものととらえる。</p> <p>○いじめのない学校づくりに向け、授業、学級活動、児童会・生徒会活動で児童生徒の主体的な活動を充実させ、子ども同士が支え合い、相談しあえる関係を育てる活動が実践されている。</p> <p>○「酒田市いじめ問題対策連絡協議会」「酒田市いじめ問題対応委員会」を通して、学校だけでなく地域、関係機関・団体の大人がいじめについて協議し、実際に対応できる体制を整えている。連絡協議会を通じて各団体の動きが互いに見え、連携や協働の意識が高まってきている。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度評価	B	<p>○各学校ではアンケート調査や面談など未然防止、早期発見に向けた取り組みを行い、初期段階でいじめを認知し、解消に向けて取り組んでいる。</p> <p>○市の「いじめ防止基本方針」改定をふまえ、各学校においても「いじめの定義の確認」「いじめ防止の取組や相談窓口の周知」などについては、学校基本方針の見直しを進め、保護者や地域に周知・広報する必要がある。</p> <p>○いじめ対応委員会では、重大事態の発生を想定したシミュレーションを31年度に計画している。学校から連絡を受けてから誰が・いつ・どのように判断し、動くのか。実施してみることで課題を洗い出し、改善につなげる。</p>	
【参考】29年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(3) 道德教育の充実		
担当部署	学校教育課	平成30年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育活動全体を通じた道德性の向上並びに「公益の心」の涵養を目指し、道德教育の充実を図る。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心に響く資料を活用した、自己の生き方について考えを深める道德授業の工夫を促す。</li> <li>・学校や地域で自分にできることを考え、実践することを通して「公益の心」を育む。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○要請訪問を通じた授業づくりと授業改善に向けた指導・助言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究会をはじめとした訪問時の情報交換会の中で、学校の重点や各学年の重点に沿った計画的な指導がなされるように指導した。</li> <li>・道德の教科化に向けて、児童生徒が主体的に取り組む「考え、議論する道德」に向けた授業づくりについて助言した。</li> </ul> <p>○地域教材の活用と地域貢献活動の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生用「わたしたちのまち さかた」や中学生用「ジュニア版酒田の歴史（改訂版）」などの地域教材を活用して、先人の知恵と功績に学び、ふるさとへの理解と愛着を深めている。</li> <li>・小学校では多くの学校で地区ボランティアへの参加がなされており、中学校では地域貢献活動を企画立案の段階から自治会と協力し、中学生が主体となって行っている学校が増えている（例. 小学校区における防災訓練に、地区在住の中学生が参加等）。</li> </ul>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○道德教育の充実に向けた、地区内の統一した取り組みと共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・30年度から小学校において教科書を用いた「特別の教科 道德」（道德科）としての授業が始まっており、31年度からは中学校においても始まる。評価（主に指導要録の形式）については、先行している小学校の実践や教務主任会で検討する機会を設けた。</li> </ul>			
事業の効果・課題			
<p>○子どもたちの主体的な取り組みを促し、考え、議論・討論する道德授業づくりが進んでいる。</p> <p>○公益の心の涵養につながる勤労奉仕的体験活動及び社会奉仕活動が、多くの学校で実施されており、事前事後に関連した道德授業を行うことで体験的な学びが深められている。</p> <p>○「全国学力学習状況調査」の「地域とのつながり」に関する質問項目でも、肯定的な回答が小中共に全国平均を大きく上回っていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問項目 「当てはまる」及び「どちらかといえば、当てはまる」の割合 全国：小62.7% 中45.6% 本市：小84.9% 中71.2%</li> </ul>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度評価	B	<p>○各学校での道德教育に加え、飽海地区、市内の学校で授業公開を行い、「考え、議論・討論する」道德の授業・指導を学び合う機会を設けている。</p> <p>○他教科や領域の東北大会開催が迫っており、また、英語の教科化も近いことなどから、道德の授業への注力が一時期より弱まった感がある。</p> <p>○小学校に続き、31年度からは中学校においても「教科用図書の使用」及び「評価」が行われることになるため、教科授業への関心は高まっている。授業の工夫・指導の充実に加え、子どもの9年間の学びと育ちを見通した全体計画の作成等、「小中一貫」の視点を道德教育の中でも大切にする。</p>	
【参考】29年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(4) 体験活動、交流活動の推進 (その1)		
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成30年度 担当部署	学校教育課、社会教育文化課

### 施策の目的及び目標

#### ○目的

- ・日本国内の異なった地域の文化に触れる機会を与えることで、自分の育った地域のよさの再認識を図るとともに、自主性や協調性を養い、生きる力を育む。
- ・学校を超えた異年齢の子ども達の協同した体験活動を通して、心豊かな人間性と自立心を育み、仲間づくりとリーダーの育成を図る。
- ・事業に参加した子どもたちの自主性と協調性を養い、それぞれの学校、地域、家庭において積極的に物事に取り組んでいける子どもを育む。

#### ○目標

- ・体験活動や交流活動を通し、人や自然とのかかわりの中で思いやりの心と健やかな体を育み、自然の営みへの感謝の心の育成を図る。

算出方法		H25	H26	H27
交流活動参加 児童の満足度 (アンケートによる)	飛島いきいきスクール	95%	100%	96%
	自然体験学習	90%	92%	92%
	少年の翼	97%	100%	100%

	H28	H29	H30
飛島いきいきスクール	98%	97%	93%
自然体験学習	92%	87%	100%
少年の翼	100%	100%	100%

### 平成30年度 主な事業の概要及び実施状況

- 飛島いきいき体験スクール支援事業【予算現額797千円・支出済額767千円】
  - ・2小学校、児童91名参加 (H29: 2校81名、H28: 2校114名、H27: 3校114名)
- 自然体験学習推進事業【予算現額2,278千円・支出済額1,942千円】
  - ・10小学校、児童517名参加 (H28: 10校501名、H27: 11校554名、H26: 8校408名)
- 少年の翼交流事業【予算現額3,500千円・支出済額3,419千円】
  - ・沖縄訪問: 12月9日(日)~13日(木) 5年生18名、6年生14名、受け入れ: 兼次小学校
  - ・受け入れ: 2月6日(水)~9日(土) 今帰仁村 6年生35名、交流担当校: 黒森小学校
- 「ワンダージオバスツアー」
  - ・7月7日(土)開催、参加者11名、鳥海山・飛島ジオパーク内の主に遊佐町内のジオサイト(ジオのみどころ)を訪問した。夏休みの自由研究の題材として取り上げやすいように、多くの体験活動をおこなった。
- 「雪遊び&ピザ作りを楽しもう!」
  - ・2月2日開催、参加者20名、ボランティア6名、雪遊びやピザ作りで集団行動を行った。高校生が小学生の面倒を見る体験を通し成長することができた。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(4) 体験活動、交流活動の推進 (その2)		
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成30年度 担当部署	学校教育課、社会教育文化課
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○子どもたちが参加したくなるようにバスツアーの形で講座を開催した。この講座でジオパークに親しんでもらい、夏休みの間にも再びジオパークに触れる機会をもってほしいという思いから7月上旬に日程を設定した。</p> <p>○「雪遊び&amp;ピザ作りを楽しもう！」では、食生活への関心を高めると共に、食事を自分で作るというたくましく生活する力を養いたいと考え、子どもたちの好きなピザを生地から作り試食する活動を取り入れた。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○飛島の方々との関わり、環境を生かした活動をすることにより、主体的に調べる力、協力する態度、自分で判断し行動する力等を育むことにつながっている。</p> <p>○鳥海高原家族旅行村を基点として、酒田の豊かな自然を活用した体験学習を実施することができた。また、児童、教職員のアンケートをもとにプログラムを充実させ、満足度の高い活動を展開することができた。</p> <p>○少年の翼では、体験や交流を通して児童が視野を広げ、沖縄という異なった地域の文化や自然への理解を深めている。また、故郷である酒田のよさを見直す機会にもなっている。</p> <p>○ワンダージオバスツアーでは、自然活動を行いながら、参加者同士の相互の交流が図られ、満足度の高い事業となった。終了後には「夏休みの自由研究でジオパークを取りあげたい。」という参加者の声もあり、ねらいどおりの事業が実施できた。</p> <p>○「雪遊び&amp;ピザ作りを楽しもう！」では、チューブすべりやピザ作りの活動を通して、自然の中で遊ぶ楽しさを味あわせることができた。さらに、学校や学年の異なる友達と一緒に小グループでの活動を通して、さまざまな友達とのかかわり方を学ぶとともに交友関係を広げることができた。ボランティアの高校生は、主体的に子どもたちをサポートし、子どもたちが喜ぶ姿から活動へのやりがいを感じる事ができた。</p> <p>●事業実施後に家庭で積極的に物事に取り組むようになったかの検証ができていないことが課題となっている。</p>			
点検結果・自己評価 (今後の方向性)			
30年度評価	A	<p>○飛島、鳥海山の自然に触れることは子どもたちのたくましい成長につながっている。今後、プログラムの見直しや予測される様々な危険に対応できるよう安全対策、環境整備を行っていく。</p> <p>○少年の翼では、沖縄の小学生との交流活動を通して、相互理解や友情を深めることにもつながっており、双方のニーズも高い。</p>	
【参考】29年度評価	A	<p>○子どもたちが学校や学年の異なる友達と一緒に雪遊びを体験し、高校生ボランティアの助けを借りながら食事のピザを自分の手で作るよい体験をしている。</p> <p>○ジオパークに関連した事業では、平成31年度は内容を変えながら夏休み前に鳥海山周辺のジオサイトについて学ぶ実地研修を予定している。</p> <p>○事業実施後の検証について、方法を含め今後検討していく。</p>	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(5) ふるさと教育の推進 (その1)		
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成30年度 担当部署	学校教育課、社会教育文化課

<b>施策の目的及び目標</b>			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を理解し、ふるさと（地域）への愛着を育む。</li> <li>・これからを担う子どもたちが、現代社会を生き抜くうえで確かな力、身に付けなければならない基本的な知識の習得や職業観の醸成、コミュニケーション能力の向上に加え、郷土愛の醸成を図る。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で活躍している方々との交流や地域の歴史や文化等を学ぶことで地域理解し、ふるさと（地域）への愛着を持つ児童生徒の育成を図る。</li> <li>・鳥海山と飛島の自然に触れ、その成り立ちや生態系、人々の暮らしについての学習を推進する。</li> <li>・地域の職場での体験活動や地域の方々をゲストティーチャーとして招いての講演会の実施など、地域の特色や資源を活かして教育活動を推進する。</li> <li>・小中学校の授業に地域の先生や各種講師を派遣し、地域の特色や職業観について学ぶ機会を提供する。</li> </ul>			

**平成30年度 主な事業の概要及び実施状況**

- 副読本「わたしのまちさかた」の編集と授業での取り組み  
【予算現額2,952千円・支出済額2,772千円】
  - ・小学校3年社会科で使用する副読本「わたしのまちさかた」をもとに、地域産業、地理的環境、地域発展に尽くした先人の働きなどについて学習し、「ふるさと酒田」に対する誇りと愛着を育てる学習に取り組んだ。
- 総合的な学習で「ふるさと酒田」の良さを発見
  - ・総合的な学習の時間で地域文化、産業、歴史、人との関わりなどについて学習し「ふるさと酒田」の良さを発見する学習に取り組んだ。
  - ・飛島いきいき体験スクール支援事業では、子どもたちが飛島ならではの自然・歴史・文化等について島民と触れ合いながら学び、郷土を愛し、大切にしようとする心を育む体験ができた。
  - ・自然体験学習推進事業では、生まれ育った酒田の自然を体験し、鳥海山の雄大さに触れるとともに、仲間と協力して活動する力の育成を目指して活動を行った。
- 酒田っ子はぐくみ事業は、実施回数13回、延べ参加者数1,022人が参加した。

実施校	対象	参加者	実施日	内 容
十坂小学校	6年生	39	5/7	「大切な仲間を勇気づけるコミュニケーション」 小野 弘志氏
松原小学校	5年生	96	6/27	
松原小学校	1年生	67	9/21	「音楽でコミュニケーション」 鍋谷 志麻氏
西荒瀬小学校	1・2年生	39	11/22	
第一中学校	2年生	129	6/15	「さまざまな仕事・働き方を知る」 荒生 多喜氏
第二中学校	2年生	96	5/30	「マナーコース」 佐藤 万里子氏
鳥海八幡中学校	1年生	77	7/2	
第六中学校	2年生	127	9/27	
第六中学校	3年生	128	11/5	地元で働く先輩からの講話 「加工食品について～焼酎の秘密～」 阿蘇秀弥氏・齋藤清氏
第一中学校	2年生	128	11/29・30 12/4・10	
琢成小学校	6年生	41	11/15	地元で働く先輩からの講話 「戦争の時代を学ぶ」 加藤 弘良氏
琢成小学校	4年生	28	12/25	地元で働く先輩からの講話 「花火づくり」 安藤 孝二氏
琢成小学校	4年生	27	1/18	地元で働く先輩からの講話 「お菓子づくりについて～心構え・技術～」 小松 尚之氏
合計	13回	1,022人		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(5) ふるさと教育の推進 (その2)		
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成30年度 担当部署	学校教育課、社会教育文化課
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○社会科副読本においてはデータを更新し、随時、新しい情報や資料を掲載するように努め、改訂版を例年通り3月中旬に発行した。 令和2年4月に新学習指導要領に対応した新しい副読本を配付できるよう、編集作業に取り組んだ。また、ページ数増となりコストが上がるため、5カ年分の印刷費用を予算化した。</p> <p>○酒田っ子はぐくみ事業 年度途中で学校からの追加の実施要望を受け付け、実施校の増につながった。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○令和2年4月に新学習指導要領に対応した社会科副読本を配付できるように編集作業を進めており、今年度中に完成を予定している。</p> <p>○酒田っ子はぐくみ事業は中学校では職場体験前の事前学習として利用されることが多く、生徒の職業観の醸成やマナーの習得につながると実施校から評価されている。</p> <p>○地元で働く先輩からの講話では、職業観を醸成するとともに、地域の歴史や産業、食文化について学習する機会にもなっている。</p> <p>●酒田っ子はぐくみ事業の学校での講師選択方式と地域人材交流講座との違いがわかりづらいため、学校によって利用方法に違いがあり、整理が必要である。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度評価	B	<p>○社会科、総合的な学習の時間などを通して地域への愛着や誇りを継続的に育てていく。</p> <p>○社会科副読本においては、H31年度予算で5年分の副読本を印刷し、改訂版は5年後に発行を予定している。</p> <p>○鳥海山・飛島ジオパーク構想に関連する学習活動の教材開発等を検討していく。</p> <p>○「キャリア教育推進事業」に於ける、地域の人々との様々な交流や関わりも地元を再認識する一助となっている。</p>	
【参考】29年度評価	B	<p>○中学生の職業体験の事前学習に活用されるケースが多いが、子どもの自立をはぐくむことと郷土愛の醸成という二つの目的があり、要望等も確認しながらねらいを明確にして事業に実施に取組みたい。</p> <p>○学校のニーズにあったメニューを提供し、講師の充実に努めながら継続をしていく。</p>	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ						
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成						
施策	(6) 相談支援体制の充実						
担当部署	学校教育課	平成30年度 担当部署			学校教育課		
施策の目的及び目標							
○目的							
・いじめや不登校等としてあらわれてくる児童生徒の心の問題について、学校内外で相談できる環境整備を行い、児童生徒の心身の健全育成を図る。							
○目標							
算出方法		H26	H27	H28	H29	H30	H31
不登校児童生徒の割合(全児童生徒に対する出現率)	小	16人0.3%	15人0.29%	13人0.30%	12人0.25%	16人0.25%	5人0.1%未満
	中	52人1.76%	57人1.95%	90人3.12%	77人2.77%	97人2.77%	40人1.3%未満
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況							
○教育相談充実事業【予算現額1,368千円・支出済額1,139千円】							
・教育相談室での来室・電話相談の実施(平成30年度333件(新規54件)平成29年度219件(新規73件))不登校児童生徒の保護者研修会を3回実施した。							
・教育相談研修講座を2回実施(悪天候のため1回中止)、各校教育相談担当者の資質向上のための研修を4回実施した。							
・適応指導教室では、不登校児童生徒の集団適応能力を育成し学校への復帰を目指すような支援を行い、中学3年生3名は全員高校受験し進学した。(小学生2名、中学生8名通級)							
○スクールカウンセラー等活用事業【予算現額9,822千円・支出済額9,268千円】							
・県の事業と合わせながら、スクールカウンセラー(SC)9名と教育相談員7名を各中学校に配置するとともに、3名の家庭訪問相談員を要請に応じて派遣した。							
平成30年度における改善点・新たな取り組み							
○教育相談研修講座では、先生方のニーズに対応した内容に合わせ、人気のある講師を中央からお呼びし、継続指導を依頼した。							
○スーパーバイザー研修会では、講義型の研修ではなく、ワークショップ型の研修を行い、より実践的な研修とした。							
○県より2年契約でスクールソーシャルワーク・コーディネーターが配置された。							
事業の効果・課題							
○本市の教育相談の課題に対応した各種研修会をより具体的に実施したことで、教員の日々の指導や支援に生かすことができた。							
○適応指導教室(ふれあい教室)での日常活動や体験活動を通じ、他の通級生や相談専門員・講師と安心して関わることができるようになり、自信を取り戻せた児童生徒が多かった。さらに毎日意欲的に学習する姿が多く見られ、高校進学率100%の成果が得られた。							
○スクールソーシャルワーク・コーディネーターから生徒の家庭環境に働きかけてもらったことで、学校ともつながり前向きに生活するようになった。							
点検結果・自己評価(今後の方向性)							
30年度評価	B	○不登校児童生徒数は小学校・中学校ともに増加している。各学校の教育相談の組織を活かして相談活動を行い、スクールカウンセラーや相談員等との連携や研修が進んでいる一方、思春期特有の心情から複雑な要因が絡み合い学校に足が向かない生徒が増えていることも事実である。					
【参考】29年度評価	B	○担任が教育相談や特別支援の力量を高めることで、不登校の未然防止に役立てられるように、研修内容を充実させる。					
		○各相談機関と学校との連携がスムーズにいくようにコーディネートするとともに、スクールソーシャルワーカーの活用についても更に検討していく。					
		○毎月の長期欠席調査から、事態が重くなってからの教育相談ではなく、早期対応を心掛けていく。その際には、関係者が集まったのケース会議を行い「チーム学校」として対応していく。					



基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(7) 基礎的運動能力の向上 (その1)		
担当部署	学校教育課	平成30年度 担当部署	学校教育課

<b>施策の目的及び目標</b>								
○目的 ・基礎的運動能力向上のための指導内容の充実を図り、児童生徒が、運動の楽しさや喜びを体感しながら、体力・運動能力を高めることができるようにする。								
○目標 ・小学校中学年の「走・跳・投の運動」を中心とした指導内容の充実を図り、基礎体力向上に向けた取り組みを支援する。								
算出方法		H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
小学校3年生の 50m走の平均	男子	10.66秒	10.13秒	10.20秒	10.46秒	10.39秒	10.49秒	10.11秒
	女子	10.49秒	10.39秒	10.45秒	10.54秒	10.51秒	10.59秒	10.45秒
小学校5年生の 50m走の平均	男子	9.63秒	9.44秒	9.45秒	9.54秒	9.64秒	9.55秒	9.26秒
	女子	9.94秒	9.70秒	9.54秒	9.63秒	9.83秒	9.60秒	9.55秒
中学校2年生の 50m走の平均	男子	7.96秒	8.14秒	8.07秒	8.07秒	8.05秒	7.97秒	7.85秒
	女子	8.94秒	9.11秒	8.88秒	8.78秒	8.89秒	8.88秒	8.75秒
・希望する中学校(中学1・2年生対象)に、柔道の授業を専門的な立場から支援する指導協力者を派遣し、授業の支援または教員の研修を行い、安全で充実したものにする。								

<b>平成30年度 主な事業の概要及び実施状況</b>
-----------------------------

○小中学校スポーツ振興事業【予算現額884千円・支出済額866千円】 <ul style="list-style-type: none"> <li>市内全小学校の参加による陸上競技記録会及び水泳競技記録会開催を支援した。 (参加者：陸上競技記録会 472名、水泳競技記録会 367名)</li> <li>陸上指導サポーター派遣 希望のあった小学校14校に講師を派遣し、3、4年の児童を対象に、年間2回「走ること」に関連する運動を実際に行うとともに、教員に指導内容を周知し指導に生かす。</li> <li>中学校武道指導協力者派遣 希望のあった中学校に指導協力者を派遣し、専門的な立場から支援することができた。 (派遣校数 1校、指導時数 8時間、派遣人数 1名)</li> </ul>
--

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(7) 基礎的運動能力の向上 (その2)		
担当部署	学校教育課	平成30年度 担当部署	学校教育課
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○実際に指導を受けた教員だけでなく、指導後に校内研修会を実施して、他の学年の教員の指導力向上に向けて取り組んだ学校もあった。</li> <li>○陸上指導サポーター派遣事業を通して、中学年担当教員に、3・4年生で経験させたい「走・跳・投に関連する運動例」について、児童への指導も踏まえ周知を進め指導に生かすことができた。</li> <li>○陸上競技記録会や水泳競技記録会への参加を通して、記録への挑戦やチャレンジする意欲を高めるとともに、自己記録を目指し大会に向けて努力する気持ちを育成することができた。</li> <li>○柔道の指導協力者を派遣したことにより、安全に配慮しながら授業を進めることができた。示範していただくことで、技をかける際のポイントや指導する際の具体的な練習方法を研修することができた。</li> </ul>			
事業の効果・課題			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○陸上指導サポーター派遣事業を通して、中学年担当教員に、3・4年生で経験させたい「走・跳・投に関連する運動例」について、児童への指導も踏まえ周知を進め指導に生かすことができた。</li> <li>○陸上競技記録会や水泳競技記録会への参加を通して、記録への挑戦やチャレンジする意欲を高めるとともに、自己記録を目指し大会に向けて努力する気持ちを育成することができた。</li> <li>○柔道の指導協力者を派遣したことにより、安全に配慮しながら授業を進めることができた。示範していただくことで、技をかける際のポイントや指導する際の具体的な練習方法を研修することができた。</li> </ul>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○陸上指導サポーター、中学校武道指導者の派遣は、小・中学校の希望に応じて派遣を行っている。専門的な指導が児童生徒の体力向上につながっている。また教員の指導力向上にも生かされている。</li> <li>○運動能力テストの結果、小学校3年生男子・女子、中学校2年生男子に伸びは見られた。他学年、50m走以外の種目でも体力向上が図られるよう、派遣による指導が全学年に周知されるよう働きかけていきたい。</li> <li>○中学校武道指導協力者派遣事業について、教員の指導力向上に生かされてきたことから来年度以降の派遣を行わない。</li> </ul>	
【参考】29年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(8) 健康教育の推進 (その1)		
担当部署	学校教育課	平成30年度 担当部署	学校教育課

施策の目的及び目標

- 目的
  - ・健やかでたくましい体を育む指導を通して、健康的な生活行動が実践できる態度や能力を身につけるための教育活動を推進する。
- 目標
  - ・自己の健康課題をとらえ、日常生活での具体的実践に結びつく保健学習の充実を図る。
  - ・自校の健康課題を家庭、地域の関係機関と共有し、解決のための取り組みを推進する。

算出方法	28年度		29年度		30年度		31年度	
	実績		実績		実績		目標	
全国学力・学習状況調査「朝食を毎日食べていますか」の回答による	小6	86.9%	小6	89.0%	小6	86.3%	小6	95%以上
	中3	84.4%	中3	83.9%	中3	81.7%	中3	95%以上

参考：肥満傾向の割合（定期健康診断で学校医より「要注意」と判定されたもの）

	28年度		29年度		30年度		(単位：%)
	山形県	酒田市	山形県	酒田市	山形県	酒田市	
小学校男子	2.80	2.61	3.10	2.47	2.70	2.26	
小学校女子	1.70	1.28	1.80	1.32	1.70	1.81	
中学校男子	2.00	0.14	2.00	0.64	1.40	0.94	
中学校女子	1.50	0.28	1.20	0.30	1.40	0.45	

出典：「酒田飽海地区小・中・高等学校 身体状況並びに学校保健活動状況一覧」  
酒田飽海学校保健会作成

平成30年度 主な事業の概要及び実施状況

- 小学校保健管理事業【予算現額40,528千円・支出済額39,108千円】
- 中学校保健管理事業【予算現額18,567千円・支出済額17,788千円】
- 年間指導計画に基づいた保健学習の充実
  - ・心身の健康の保持増進を目指す実践力の育成のため、年間計画に基づいた保健学習を適切に行うよう指導した。
- 学校保健委員会の推進
  - ・学校保健委員会等を中心に、児童生徒の健康に関する生活習慣の実態調査等を行い、問題点の洗い出しや改善方策について検討するように指導した。
- 酒田飽海児童生徒保健研究発表会の実施
  - ・児童や生徒主体の取り組みを発表し、お互いに見合うことで、健康に対する意識を高めたり自校の取組みを振り返らせたりすることができた。
  - ・発表内容をDVDにまとめて各小・中学校に送付した。他校の取り組みを知らせることで、自校の取組みに生かせるようにした。
  - ・平成30年度発表校
    - 小学校 琢成小、若浜小
    - 中学校 第四中、第六中、鳥海八幡中
- 学校医等による専門的な指導・助言のもと疾病の予防や健康相談を通して児童生徒の健康管理を行った。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(8) 健康教育の推進 (その2)		
担当部署	学校教育課	平成30年度 担当部署	学校教育課
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
事業の効果・課題			
<p>○自校の健康課題についての取組みを児童生徒が主体的にまとめて発表する活動を通して、心身の健康の保持増進を目指す実践力を育てることにつながっている。 (メディアコントロール、食育、虫歯・風邪予防、生活リズム)</p> <p>○学校保健委員会やPTAの活動として、「早寝早起き朝ごはん」等の生活リズムを目的にした取組みやアウトメディアなどが多くの学校で行われるようになった。</p> <p>○校医とも連携し、うがい、手洗いの励行など、感染症予防の取組みやアレルギー対策の取組みが、多くの学校で行われた。</p> <p>○保健学習などにおいても、ゲストティーチャーを招聘して、より専門的な学習に取り組む学校もあった。計画的な保健学習を行うことで、生涯にわたる健康の保持を意識することができた。</p>			
点検結果・自己評価 (今後の方向性)			
30年度評価	B	<p>○学校教育指導(経営訪問、計画訪問)を通して継続的に健康教育の推進を図っている。また、児童生徒保健研究発表会での発表内容や日頃の児童生徒の保健活動の様子を各学校へ今後も提供していきたい。</p> <p>○がん、ドラッグ、アレルギー、感染症、生活リズム、睡眠など疾病や健康に関する今日的な課題に丁寧に指導し対応していく必要がある。</p>	
【参考】29年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																														
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成																														
施策	(9) 食育の推進																														
担当部署	企画管理課	平成30年度 担当部署			企画管理課																										
施策の目的及び目標																															
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒に食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身につけさせるとともに、自然の恵みや生産者への感謝の心をはぐくむ。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元産食材を積極的に学校給食に取り入れるために、学校給食での地元産食材の利用率の目標を、小学校75%以上、中学校72%以上とする。</li> </ul>																															
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況																															
<p>○小学校児童に対して、栄養教諭等が栄養巡回指導を80回実施した。(昨年度75回)</p> <p>○保護者に対して、栄養教諭等が食に関する講話を小学校3校で実施した。</p> <p>○「食育だより」を年10回、平成28年度から発行した「ジオ給食通信」を年10回、「給食だより」を毎月発行し、食に関する情報提供を行った。</p> <p>○バレーボールチーム「アランマーレ」による食育活動を、小学校2校で実施した。</p> <p>○酒田の郷土料理や旬の食材を伝えるため、「食育の日献立」を実施した。(毎月19日)</p> <p>○庄内産100%の米を利用した米飯学校給食のうち、「つや姫給食」を年2回、「雪若丸給食」を年4回実施した。</p> <p>○酒田産米を100%使用した「米粉パン」給食を年2回、酒田産乳使用の「県産ヨーグルト」給食を1回、全小中学校で実施した。</p> <p>○地元農協と協力し、一部の学校に等級の高い庄内メロン、刈屋梨を提供するとともに、農協担当者の講話を通じて、地元農産物に対する理解を深める取り組みを行なった。</p> <p>○地元産食材の利用率</p> <table border="1" data-bbox="405 1066 1437 1176"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26(実績)</th> <th>H27(実績)</th> <th>H28(実績)</th> <th>H29(実績)</th> <th>H30(実績)</th> <th>H31(目標)</th> <th>算出方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>73.1%</td> <td>77.7%</td> <td>75.0%</td> <td>74.7%</td> <td>74.4%</td> <td>75%以上</td> <td>重量ベースによる庄内産食材の利用率</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>71.5%</td> <td>71.6%</td> <td>66.7%</td> <td>69.6%</td> <td>74.3%</td> <td>72%以上</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>									H26(実績)	H27(実績)	H28(実績)	H29(実績)	H30(実績)	H31(目標)	算出方法	小学校	73.1%	77.7%	75.0%	74.7%	74.4%	75%以上	重量ベースによる庄内産食材の利用率	中学校	71.5%	71.6%	66.7%	69.6%	74.3%	72%以上	
	H26(実績)	H27(実績)	H28(実績)	H29(実績)	H30(実績)	H31(目標)	算出方法																								
小学校	73.1%	77.7%	75.0%	74.7%	74.4%	75%以上	重量ベースによる庄内産食材の利用率																								
中学校	71.5%	71.6%	66.7%	69.6%	74.3%	72%以上																									
平成30年度における改善点・新たな取り組み																															
<p>○「学校給食における異物混入対応マニュアル」を4月から運用し、一学期中の状況を踏まえ8月に一部修正を行なった。</p> <p>また、運用に関する質疑応答集を作成し、マニュアル内容の浸透を図った。</p> <p>○コンタミネーションへの対応を明確化するため、「食物アレルギー対応マニュアル」を改訂した。</p>																															
事業の効果・課題																															
<p>○栄養教諭等が巡回指導を行い、児童・生徒の食に対する興味、理解を深めることができた。</p> <p>○講話や「食育だより」等の発行により、家庭に対して食の大切さを伝えることができた。</p> <p>○マニュアルの策定等により、異物混入防止に対して一定の効果を上げることができた。</p> <p>●安心・安全な給食の提供のため、アレルギー対応や衛生管理に継続的な注意喚起が必要。</p> <p>●野菜類については気候の影響を受けやすく、地元産利用率の大きな変動要因となっている。</p> <p>●学校給食実施基準にある栄養基準値を充足していない栄養素等があった。</p>																															
点検結果・自己評価（今後の方向性）																															
30年度評価	B	<p>○将来、自立した健康管理、食事管理する力を身につけるために、継続して食育に取り組む。</p> <p>○異物混入防止に引き続き取り組むほか、アレルギー対応のヒヤリハット事例集を充実させるなど、安全・安心な給食の提供を図っていく。</p> <p>○「米粉パン給食」「県産ヨーグルト給食」「船凍いか」など、野菜以外の地元産食材を利用した農産加工品等も含めた利用拡大を図り、幅広く地元産食材の利用拡大を進めていく。</p> <p>○栄養基準値を充足するための献立作成を進めていく。</p>																													
【参考】29年度評価	B																														

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(1) 青少年の健全育成		
担当部署	社会教育文化課	平成30年度 担当部署	社会教育文化課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年の健全育成のため、学校、PTA、地域が協同した、青少年の健全育成のための場とライフステージに応じた学習機会の提供に支援するとともに、リーダーや指導者を育成する研修会の実施、中高生ボランティアの自主活動の支援を実施する。また、成人となったことの自覚を促す成人式を開催する。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、PTA、地域が協同して行う学習機会の充実を図る。また、青少年のボランティア活動を推進し、中高生の地域活動への参加の促進とともに、リーダーシップの涵養を図り、将来のリーダー育成につなげる。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○少年団体リーダー研修会</p> <p>○高校生ボランティア（かざみどり）が巨大迷路の運営プランに参画し、市内の高校生や中学生と協力しながら当日までの準備と運営を行った。（入場者2,992人）</p> <p>○成人式は、企業及び地域からの推薦メンバーで実行委員会を組織し（実行委員12人）、式の企画運営を行った。（式出席者893人）【予算現額1,632千円・支出済額1,421千円】</p> <p>関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域人材交流講座</li> <li>○地域の教育力向上事業</li> </ul>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○酒田市子ども会育成連合会の呼びかけにより、東北地区ジュニアリーダー大会へ「かざみどり」会員が参加し、東北地区の中高生と交流・宿泊を行った。</p> <p>○成人式実行委員は自分たちで企画をして、動画に恩師から出演いただき、編集についても話し合いを何度も行い、自分たちの企画を実現させる経験ができた。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○中高生ボランティアが中央公民館主催事業「雪遊び&amp;ピザ作りを楽しもう！」に参加し、社会参画できたとともに、参加した小学生とのかかわりを通じ、異年齢間の交流が図られた。また、巨大迷路の運営を行ったことで、イベント企画に必要なことを学び、一緒に活動した仲間との交流も図られるなど青少年の人材育成につながった。</p> <p>○成人式は、実行委員となった新成人が協力して動画を作り交流を深めることができた。</p> <p>●幅広く市内企業等に委員の推薦をお願いしているものの、実行委員の人数が少なくなり実行委員一人ひとりの負担が増えている。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度評価	B	<p>○かざみどりに様々な高校の生徒が在籍しており、他校生徒との交流の場ともなっている。担当者の提案による活動のみではなく、自立した活動も増やしていきたい。</p> <p>○成人式の式典と実行委員企画の間に、全国で公演を行っている太鼓道場「風の会」より出演いただいた。お祝いとしてふさわしい演奏をしていただき、また、酒田を拠点に活躍する団体を周知することができた。</p>	
【参考】29年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(2) 家庭教育の支援 (その1)		
担当部署	社会教育文化課	平成30年度 担当部署	社会教育文化課
施策の目的及び目標	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>切れ目のない家庭教育支援の充実のため、庁内各課との事業連携・調整を図りながら学習機会の充実を図る。</li> <li>子どもは、「社会の宝」として親と子の学校・地域のつながりを作る取り組みを推進するとともに、子どもの成長段階に応じた学習と親の学びを支援する学習の機会を提供し、切れ目のない家庭教育に関する学習機会を充実させることで、家庭の教育力向上を図る。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の学びを支援するため、子どもの成長に応じた課題を設定しながら、読み聞かせや親子のふれあいの大切さなどに関する各種家庭教育講座や出前講座、全市的な家庭教育講演会等を実施する。</li> </ul>		

平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
事業名	講座内容及び実施状況	実施回数	人数
親子ですくすく出前講座 (保育園・幼稚園児と保護者)	幼稚園・保育園と連携し、親子でのふれあい体験、遊びを通じた人間形成の基礎を培った(ネイチャーゲーム、リトミック、陶芸、ダンス、ボール遊び)。また、保護者向けに子育て講話を通して家庭教育の支援を行った。	18回	838人
地域家庭教育講座 (小中学校児童と保護者)	学校と連携し、PTA研修会や就学時健診等の機会に家庭教育に係る講演会等(生活習慣・親の心構えと関わり方、親子での体験活動等)を実施した。	15回	985人
家庭教育講演会	子どもの心の理解と親としての心の持ち方を学ぶ機会を提供するため、酒田飽海地区PTA連合会研修大会で「こどもに好影響を与えるプラス思考的生き方のすすめ」をテーマに講演会を実施した。	1回	230人

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(2) 家庭教育の支援 (その2)		
担当部署	社会教育文化課	平成30年度 担当部署	社会教育文化課
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○家庭教育講演会では、酒田飽海地区PTA連合会研修大会で子どもに好影響を与える親の思考方法や接し方についての講演会を行い、多くの保護者に学びの機会を提供した。</p> <p>○親子ですくすく出前講座では、親子体験コースのメニューにトランスパレントを追加した。</p> <p>※トランスパレントとは 半透明のカラーペーパーを折る、切る、貼る、重ねる等してつくる工作のこと。 親子一緒に触れ合いながら制作活動することで不思議や驚きを体験し、親子のふれあいを深めるねらいがある。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○地域家庭教育講座では、各小中学校で講師を選定し、家庭教育アドバイザーや東北公益文科大学に講師を依頼し、家庭教育に関する講話を聞いた。</p> <p>○親子ですくすく出前講座では、体験型の親子での活動が各園で実施できた。保護者向けの講話では、子育て中の不安や悩みなどを共有することができ、子どもとの向き合い方を改めて考える機会となっている。</p> <p>○保育園・幼稚園・学校行事に合わせた講座の実施は、多くの保護者が参加するため効果的である。今後も各園・学校との連携を図りながら事業を実施していく。</p> <p>●事業により、家庭教育が充実したかどうかの効果測定ができていないことが課題となっている。</p>			
点検結果・自己評価 (今後の方向性)			
30年度評価	B	<p>○子育てに不安や悩みを抱えている保護者を支援するため、今後も保育園・幼稚園や学校と連携しながら学習の機会を提供していく。</p> <p>○事業の効果測定については、例えば事業終了後一定期間を経た後に、アンケート調査を実施するなどできないか検討していく。</p>	
【参考】29年度評価	B		



基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(3) 地域教育力の向上		
担当部署	社会教育文化課	平成30年度 担当部署	社会教育文化課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域全体で「地域の子」「社会の子」として、子どもと地域の人々との交流する機会を設け地域の教育力向上に取り組む。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特色を生かして行う青少年の体験活動や健全育成に関わる事業を通して、地域全体で取り組む体制づくりと地域の人材育成を推進し、地域教育力の向上を図る。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○地域人材交流講座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合の授業や、道徳、読み聞かせなどで地域住民が先生として指導を行い、身近な地域住民と生徒の交流が図られた。(実施回数329日、延べ参加者数5,512人)</li> </ul> <p>○学校・家庭・地域の連携協働推進事業(放課後子ども教室)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮野浦コミュニティ防災センターにおいて、子どもの居場所づくりとして自習室を開放。また、週1回の特別プログラムで読み聞かせ、公式わなげ体験、パソコン開放日等さまざまな体験活動を行った。【予算現額283千円・支出済額283千円】 (特別プログラム：39回参加者子ども延べ263名、大人延べ172名)(自習室：延べ1,810名)</li> </ul> <p>○地域の教育力向上事業【予算は「ひとづくり・まちづくり総合交付金」へ統合】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子での共同作業や三世代交流事業、地域文化の学習と伝承、地域の自然理解などの事業を通し、地域全体で「地域の子」「社会の子」として子どもたちの健全な育成を図った。(実施団体：25団体、事業数：159事業、延べ参加者数11,193人)</li> </ul>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>事業の効果・課題</p> <p>○地域人材交流講座では、各校で「地域の先生」と連携をしながら、全市的に事業を展開できている。総合的な学習の時間、各教科、道徳、特別活動など学校生活のあらゆる場面に活用してもらっており、地域の学校支援に役立っている。</p> <p>○学校・家庭・地域の連携協働推進事業(放課後子ども教室)では、学校と学童クラブ、地域が連絡を取りながら、子どもの安全、自主性に配慮した放課後子ども教室の運営ができている。</p> <p>○地域の教育力向上事業は交付金の加算として含まれ、コミュニティ振興会でも予算の使い方の幅が広がり新しい事業なども検討し始めている。より効果的な事業展開ができるよう、社会教育指導員もできるだけ事業に参加しながら、指導できるような関係を構築していく。</p>			
点検結果・自己評価(今後の方向性)			
30年度評価	A	○各コミュニティ振興会が、地域の特色を出しながら教育力向上につながる事業を自発的、積極的に実施しており、企画運営のスキルアップがみられる。	
【参考】29年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(4) 地域産業界、高等教育機関との連携 (その1)		
担当部署	学校教育課、企画管理課	平成30年度 担当部署	学校教育課、企画管理課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の職業観の涵養や地域の理解、専門的な分野の体験のため地域の産業界や高等教育機関との連携を推進する。</li> <li>・本市の児童生徒一人一人がふるさとへの愛着と誇りを醸成し、自分の将来を切り開き自立し生きていく力を育成するため、小・中学校が行うキャリア教育に関する活動を支援することを目的とする。</li> <li>・東北公益文科大学の持つ知的資源を活用し、教育委員会・小中学校と連携した事業をとおして、これからの社会を担い、地域産業へ貢献し、国際的に活躍する人材の育成を進める。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の職場体験学習（インターンシップ）の充実を図り、キャリア教育を推進する。</li> <li>・中村ものづくり事業の活動を通して、地域の高等教育機関、産業界との連携を推進する。</li> <li>・キャリア教育推進事業では、各校が設定したテーマ及び観点に沿った評価（A～Dの4段階）を行い、平均B以上の小中学校の割合90%以上を目指す。</li> <li>・東北公益文科大学連携推進事業では、参加者の事業に対する満足度を85%以上とする。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○中学生職場体験学習推進事業【予算現額850千円・支出済額849千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験は該当学年のいる7中学校において、2日間実施が5校、3日間実施が2校、延べ32業種であった。（H29 2日間4校、3日間4校）</li> <li>・体験先として幼稚園・保育園（125人）、病院・医院（94人）、飲食店・菓子店（94人）等で体験学習をする生徒が多い。</li> </ul> <p>○中村ものづくり事業における連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師として、産業技術短期大学庄内校、鶴岡工業高等専門学校、酒田光陵高等学校の教授、准教授、教諭及び産業技術大学や酒田光陵高等学校の学生ボランティアの協力を得て事業を実施した。</li> <li>・地元の企業への職場訪問を通して、専門的なものづくりの現場を体験した。</li> </ul> <p>○キャリア教育推進事業【予算現額2,000千円・支出済額1,759千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育の推進をテーマの中心に置き、学校より提案されたプロジェクト型事業をその計画内容・予算を審査し交付額を決定した。</li> <li>・様々な人との関わりや多様な体験活動を通して地元を再認識し、地域の方や職業を通し人の生き方を学んでいく事業でもあった。</li> </ul> <p>○取り組んだ主なキャリア教育活動</p> <p>※取り組みの例… ・地元の会社経営者による会社での体験活動や講話を聞いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者を講師に職業選択の講話・ワークショップを行い、生き方や自分自身の将来を考える。</li> <li>・地元でふるさとの良さを発信している方を講師に招き、その思いやふるさとに対する考えを学び、ふるさとを大切に働いている生き方を見つめる機会とする。</li> <li>・地域産業でもある農作業の勤労体験等とおし、そこに携わる方々の苦労や喜びを知る。</li> </ul>			

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(4) 地域産業界、高等教育機関との連携 (その2)		
担当部署	学校教育課、企画管理課	平成30年度 担当部署	学校教育課、企画管理課

#### 平成30年度 主な事業の概要及び実施状況

○東北公益文科大学連携推進事業【予算現額706千円・支出済額588千円】

【放課後学習支援】中学校の放課後を利用し、公益大生18名が生徒の学習支援を行った。

実施状況

学校名	参加生徒	(29年度)	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計	(29年度)
第一中	7人	(21人)	2	3	2				7回	(6回)
第四中	32人	(28人)	2	4	3	2	3	1	15回	(11回)
第六中	12人	(19人)	1	3	1	2			7回	(7回)
鳥海八幡中	20人	(-)	1	2	4				7回	(-)
東部中	69人	(24人)	2	2		2	2		8回	(8回)
合計	140人	(92人)	8	14	10	6	5	1	44回	(32回)

【英語の学びかた教えます】大学教員を講師とした中学生向けの英語講座を公益研修センターで、8/1～8/2の2日間行った。定員50名に対し、受講者51名。

【夏休み宿題お手伝い教室】(社会教育文化課主管事業)退職公務員連盟酒田飽海支部会員を講師とし、近隣市町の小学3年生～6年生を対象に夏休みの宿題を個別にアドバイス。公益大生8名が8/2～8/3にサポートとして参加した。(H29年度参加学生は3名)

7/30、7/31、8/2、8/3の4日間。定員40名に対し参加者33名。(H29年度参加児童は34名)

#### 平成30年度における改善点・新たな取り組み

○中村ものづくり事業における連携

・「サイエンス発明教室」で従来のコース内容に見直して更新し、5コースを設定した。酒田光陵高校の先生方7名が講師となり、酒田光陵高校のボランティア生徒11名の協力を得て実施したが、どのコースも講師の先生方の工夫や新しい試みにより、子ども達が主体的にものづくりに取り組むことができた。

○キャリア教育推進事業

・平成30年度よりの新規事業

○東北公益文科大学連携推進事業

・放課後学習支援では、学生の学校往復の安全の確保のため、タクシーでの送迎とした。  
・学校の年間スケジュールを最初に示すことで、学生が参加しやすいように工夫した。

#### 事業の効果・課題

【中学生職場体験学習推進事業】

○中学生職場体験学習推進事業では、市内中学校で2日間以上の職場体験学習を実施した。生徒にとって、働く意味を理解し、将来の自立像を自分なりに思い描く機会となっている。また、地域産業の理解とともに学校と地域のつながりを深めることができた。子どもたちが地元で働く方々とふれあい、地域産業を理解する活動として今後も各事業所の協力をお願いしたい。

【中村ものづくり事業における連携】

○ものづくり事業では、年間5回の「ものづくり塾」の他、「サイエンス発明教室」の中で酒田光陵高等学校の生徒からもボランティアスタッフとして参加してもらい、参加児童生徒にとっても、キャリア教育の良い機会となっている。

【キャリア教育推進事業】

○成果については、各学校毎に設定したテーマに沿った事業展開を行い、各校で設定した項目に従って実績報告時に成果の集約を行った。

(評価例…A：十分達成できた B：概ね達成できた C：やや課題がある D：達成できなかった)

○事業に取り組んだ23校中、A～Dの四段階で各校が自己評価した結果、A=14校、B=8校、C=1校、D=0校、の評価結果であった。(B以上の学校の割合95.6%)

(各校での各項目の評価を集約し、平均評価を各学校毎の評価とした)

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(4) 地域産業界、高等教育機関との連携 (その3)		
担当部署	学校教育課、企画管理課	平成30年度 担当部署	学校教育課、企画管理課
事業の効果・課題			
<p>【放課後学習支援】</p> <p>○中学生へのアンケート結果は、「有意義であった」と回答した割合が80%であった。</p> <p>○学習支援に使用する教材作成など、学生自身の学びの機会にもなっており、参加した大学生の95%が「やりがいを感じた」と回答している。</p> <p>●生徒の学習到達度に差がある場合の集団学習を行うのは大変であるため、希望者の状況を踏まえた指導方法を学校と相談していく必要がある。</p> <p>●生徒数の増加に対し、十分な公益大生数を割り振ることができず、生徒のニーズへの充分な対応が困難な学校もあったことから、学生数の確保が課題である。</p> <p>【英語の学びかた教えます】</p> <p>○外国人大学教員による大学構内での講座に対し好意的な意見が寄せられた。全体評価でも、参加中学生の95%が有意義であったと回答した。</p> <p>【夏休み宿題お手伝い教室】</p> <p>○定期試験と重なり、参加できる学生が少なかったが、退職教員の指導方法に触れたり、子どもと交流を行うことができ、学生にとって、充実した活動の場となっている。講座へ参加した小学生の満足度は、97%となっている。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度評価	A	<p>○中学生職場体験学習推進事業と中村ものづくり事業は、自らの適性や生き方を学ぶ大切な機会であり、精神的な成長にもつながっている。今後は小学校・中学校・高校が連携した事業を展開し、ものづくり体験と高校進学が繋がるように進める。</p> <p>○職業人を招いた講話や職場体験など、今後も働くことの意義を考える場や仕事に触れる学習に継続して取り組んでいく必要がある。その際に小中連携の視点から、小学校で取り組む活動を踏まえた学習の連続性を図りながら、事業の充実を進めていく。</p> <p>●キャリア教育推進事業は事業1年目ということもあり、申請時テーマ設定が事業の趣旨とそぐわない学校や、他の補助にも申請していたため、再考いただく例もあった。</p> <p>○総じて、保護者や地域の協力者・会社等と連携して事業を行っている学校が多く、学校と地域の緊密な連携を伺うことができた。</p> <p>○各学校が単独で事業を行うだけでなく、中学校区や近隣の学校が協力して事業を行う等、今後様々な取り組みを期待したい。</p> <p>○放課後学習支援は、中学生にとって大学や大学生を身近に感じる機会となり、大学への憧れや自分の将来を考えるきっかけとなっている。また、学生にとっては授業実践等を行うことで、自己研鑽の場となっている。</p> <p>○子どもたちが大学との連携を通して東北公益文科大学に対する理解を深めたり、学習意欲向上のきっかけとなったりして、よい効果につながっている。今後も大学と相談しながら、よりよい事業となるよう取り組んでいく。</p>	
【参考】29年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(5) 青少年指導活動の推進		
担当部署	学校教育課	平成30年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次代を担う青少年が地域や社会の一員として主体的に未来を切り拓いていく資質を身につけ、その能力を発揮できるよう、青少年指導センターが中心となり青少年の健全育成を図る。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心豊かでたくましい青少年の育成と非行及びいじめの未然防止に努める。</li> <li>・小・中学校、高等学校の生活指導・生徒指導担当者、警察等関係機関と連携を図りながら、幅広い活動を展開する。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○街頭巡回指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昼間街頭指導、夜間街頭指導、特別街頭指導、広域列車乗車指導等を指導委員の延べ523名が行った。</li> </ul> <p>○相談業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非行と問題行動の未然防止、並びにいじめ被害への対応等、電話及び直接相談を行った。</li> </ul> <p>○環境浄化・広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを取り巻く有害な環境を排除していくための活動を行った。</li> <li>・ネット巡視活動及びネットトラブル防止に向けた注意喚起を行った。</li> </ul> <p>○子どもの健全育成活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援課主催の「酒田市子ども祭り」実施に協力した。</li> </ul>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○ネットトラブル防止啓発用のリーフレットを作成・配付</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・29年度の小学生版に引き続き、中学生版を作成。中学生全世帯に配付し注意喚起を行った。親子で読み合うことを意図し、保護者に向けてフィルタリングの大切さを呼びかける他、中学生版では「加害になる行為」や「法律に触れる行為と罰則」等の具体について掲載した。</li> <li>・31年度には、30年度に配付した中学生版を新中学1年生全員に対して配付する予定である。この年代は5年時に小学校版を手にしており、中学校入学時に再度意識することを意図する。</li> </ul>			
事業の効果・課題			
<p>○民生委員・児童委員協議会連合会、保護司会、更生保護女性会、警友会、少年補導員連絡会、青少年育成推進員連絡協議会、各小学校・中学校・高等学校より推薦いただいた指導委員217名の方々から協力をいただき、酒田市全域を通年にわたり、児童生徒への声かけを含む総合的な街頭指導を実施することができた。注意・指導を要する児童生徒の数は年々減少している。（注意・指導した少年の延べ人数 H30年度：170名、H29年度：133名、H28年度：245名）</p> <p>○青少年育成推進員の方々が、地域の見守り隊と一緒に児童生徒の見守り活動を行った。</p> <p>○相談の内容は問題行動に関するものが減り、いじめに関わるもの、引きこもりや家庭内の問題など、対人関係と自立に関わる問題が増えている。（相談延べ H30年度9件、H29年度24件）</p> <p>○ネット上のトラブルやいじめは、ますます複雑化している。個人が特定される可能性のある情報の発信や誹謗中傷などが行われないう、また、その被害に遭うことのないよう、「ネットトラブルの未然防止」と「ネット巡視活動」の両面から対応していく必要がある。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度評価	B	<p>○不良行為や非行の件数は年々減少している。街頭指導におけるベストの着用、青色回転灯装備車両による巡回など、「見える指導、見せる指導」が抑止力につながっているものと思われる。</p> <p>○粗暴な非行が減っている中で小・中学生による万引きが報告されている。また、声かけや付きまとといった不審者事案は変わらず発生しており、追いかけた・身体を触られた等の実害も出ている。今後も、警察署や関係機関、地域健全育成組織と連携し、街頭指導活動を充実させていく。</p> <p>○ネットトラブル防止に向けては、家庭や地域への啓発の方法を工夫すると共に、学校・警察との連携を深め、被害の未然防止と早期対応に努める。</p>	
【参考】29年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																			
基本施策	5 教育環境の整備																			
施策	(1) 学校施設の整備 (その1)																			
担当部署	企画管理課	平成30年度 担当部署	企画管理課																	
施策の目的及び目標																				
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校施設は子どもたちの学びの場、地域住民の生涯学習、生涯スポーツの場であるとともに、災害時の身近な避難所であり、引き続き耐震化を進める。</li> <li>老朽化した施設・設備の改修や更新を進めるほか、和式から洋式へのトイレ改修に取り組み、児童・生徒の良好な教育環境の整備を図る。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>酒田市の耐震化計画に基づき、令和元年度を目標に耐震化を図り、学校の安全な教育環境の整備を目指す。</li> </ul> <p>【学校施設の耐震化の割合】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>算出方法</th> <th>項目</th> <th>28年度 (実績)</th> <th>29年度 (実績)</th> <th>30年度 (実績)</th> <th>元年度 (目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">耐震化済みの学校施設割合 (校舎、体育館)</td> <td>小学校</td> <td>95.5%</td> <td>99.1%</td> <td>99.1%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>				算出方法	項目	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (実績)	元年度 (目標)	耐震化済みの学校施設割合 (校舎、体育館)	小学校	95.5%	99.1%	99.1%	100.0%	中学校	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
算出方法	項目	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (実績)	元年度 (目標)															
耐震化済みの学校施設割合 (校舎、体育館)	小学校	95.5%	99.1%	99.1%	100.0%															
	中学校	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%															
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況																				
<p>〔耐震関係事業〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○田沢小学校改修事業【予算現額6,228千円・支出済額5,281千円】 <ul style="list-style-type: none"> <li>校舎管理棟の耐震補強を図るため、地盤調査と設計業務を実施した。</li> </ul> </li> <li>○(継続費) 松山小学校改修事業【予算現額322,630千円・支出済額298,869千円】 <ul style="list-style-type: none"> <li>繰越した松山小学校の改修事業にかかる改修工事を、平成29年度から平成30年度に継続して実施した。</li> </ul> </li> <li>○松山小学校改修事業【予算現額662,853千円・支出済額658,341千円・翌年度繰越額2,699千円】 <ul style="list-style-type: none"> <li>前年度から継続した校舎、屋内運動場、給食室改築にかかる工事を実施し、プール改修と外構工事を実施した。グラウンド改修工事にも着手し、令和元年度に繰り越した。給食室等の備品も整備した。</li> </ul> </li> </ul> <p>〔その他の改修事業〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○(繰越明許費) 学校トイレ改修事業(小学校)【予算現額65,494千円・支出済額65,366千円】 <ul style="list-style-type: none"> <li>繰越したトイレ改修事業にかかる改修工事を、十坂小学校で実施した。</li> </ul> </li> <li>○(繰越明許費) 学校トイレ改修事業(中学校)【予算現額35,673千円・支出済額35,129千円】 <ul style="list-style-type: none"> <li>繰越したトイレ改修事業にかかる改修工事を、第三中学校で二期工事として実施した。</li> </ul> </li> <li>○学校トイレ改修事業(小学校) <ul style="list-style-type: none"> <li>【予算現額68,126千円・支出済額3,780千円・翌年度繰越額64,346千円】</li> <li>南平田小学校のトイレ改修のための設計業務を行った。</li> <li>平成30年度の国の第2次補正予算に伴い、トイレ改修にかかる工事費等を予算化し、令和元年度に繰越をした。</li> </ul> </li> <li>○学校トイレ改修事業(中学校) <ul style="list-style-type: none"> <li>【予算現額113,537千円・支出済額6,542千円・翌年度繰越額106,995千円】</li> <li>第四中学校のトイレ改修のための設計業務を行った。</li> <li>平成30年度の国の第2次補正予算に伴い、トイレ改修にかかる工事費等を予算化し、令和元年度に繰越をした。</li> </ul> </li> <li>○松陵小学校屋内運動場改修事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>【予算現額140,501千円・支出済額4,268千円・翌年度繰越額136,232千円】</li> <li>松陵小学校の屋内運動場改修の設計業務を行った。</li> <li>平成30年度の国の第2次補正予算に伴い、屋内運動場改修にかかる工事費等を予算化し、令和元年度に繰越をした。</li> </ul> </li> </ul>																				

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	5 教育環境の整備		
施策	(1) 学校施設の整備 (その2)		
担当部署	企画管理課	平成30年度 担当部署	企画管理課
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○学校空調設備整備事業 (小学校)  【予算現額687,533千円・支出済額5,087千円・翌年度繰越額682,409千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内全小学校の普通教室へ冷房設備を設置するため、令和元年度に繰越して設計業務を実施している。</li> <li>・平成30年度の国の第1次補正予算に伴い、冷房設備設置にかかる工事費等を予算化し、令和元年度に繰越をした。</li> </ul> <p>○学校空調設備整備事業 (中学校)  【予算現額311,326千円・支出済額0千円・翌年度繰越額311,326千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内全中学校の普通教室へ冷房設備を設置するため、令和元年度に繰越して設計業務を実施している。</li> <li>・平成30年度の国の第1次補正予算に伴い、冷房設備設置にかかる工事費等を予算化し、令和元年度に繰越をした。</li> </ul> <p>○施設整備事業 (小学校) 【予算現額24,645千円・支出済額24,645千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プール塗装修繕 (松原小学校)</li> <li>・放送設備更新修繕 (富士見小学校)</li> <li>・キュービクル更新修繕 (富士見小学校)</li> <li>・FFストーブ改修修繕 (西荒瀬小学校)</li> <li>・屋内運動場床改修修繕 (鳥海小学校)</li> <li>・屋内運動場屋根改修修繕 (鳥海小学校)</li> </ul> <p>○施設整備事業 (中学校) 【予算現額22,708千円・支出済額22,707千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FFストーブ改修修繕 (第四中学校、第六中学校)</li> <li>・ガラスブロック修繕 (第六中学校)</li> <li>・冷房設備設置工事 (第四中学校)</li> </ul>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○学校施設の耐震化を進めるため、松山小学校の教室棟、屋内運動場の改築工事を実施したほか、田沢小学校では管理棟の減築により、全体のコストダウンを図った耐震設計に変更するとともに、トイレの洋式化の設計を実施した。</p> <p>○中学校の特別教室 (音楽室、PC室) に冷房設備を設置し、良好な教育環境の整備を推進した。</p> <p>○生活環境の変化によりトイレの洋式化や、災害時に対応可能な設計仕様しながらトイレの改修工事を実施した。</p> <p>○全小中学校の普通教室に冷房設備を設置するため、設計業務に着手し、工事費の予算化を図った。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○耐震診断の結果に基づいて改修や改築の工事を行い、学校施設の耐震化を推進することができた。</p> <p>○老朽化した設備の更新や改修のほか、冷房設備を設置し、安全で良好な教育環境の整備を図ることができた。</p> <p>○全小中学校の普通教室に冷房設備を設置することにより、猛暑下においても快適な教育環境の提供が可能になる。</p> <p>●和式のトイレが設置されている学校等から、洋式化の早期完了の要望を受けている状況にある。年次計画により設計とともに改修工事を進めていきたいが、小学校では複式学級化が進む学校もあり統廃合が想定されるため、整備年次の整理が必要となっている。</p> <p>●金額が大きな工事の場合は国の補助金の活用を伴うが、国の予算も厳しい状況にあり、予定している工事に対して見込みどおりに補助金が交付されるか不透明な部分がある。</p>			
点検結果・自己評価 (今後の方向性)			
30年度 評価	A	○松山小学校の耐震化のために、教室棟、屋内運動場の改築工事を実施した。田沢小学校管理棟の耐震設計も実施した。田沢小学校の改修完了で耐震化100%となることから取り組みを進めていく。	
【参考】29年度 評価	A	○学校施設・設備の老朽化改善のため、状態を確認しながら長寿命化計画の策定を行い、年次的に施設・設備の改修、長寿命化を図り、安全で良好な教育環境の整備に今後も取り組んでいく。	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	5 教育環境の整備		
施策	(2) 学校規模の適正化の推進		
担当部署	企画管理課	平成30年度 担当部署	企画管理課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化による児童生徒の減少と学校の小規模化が進む中、児童及び生徒の教育の機会均等と維持向上を図るため、学校規模の適正化を進め、教育環境の整備を図る。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・酒田市立小・中学校の学校規模に関する基本方針に基づいて適正化を進める。</li> </ul>			
基本方針			
<p>1. 学校規模に関する基本的な考え</p> <p>(1) 小学校、中学校の標準とする学校規模は、12～18学級とする。</p> <p>(2) 複式学級の解消に努める。</p> <p>(3) 過大規模校（31学級以上）は設置しない。</p> <p>2. 当面存続する規模</p> <p>当面存続する学校規模及び学級規模の指針として、次のように設定する。</p> <p>(1) 小学校 ①学校規模 児童数は100人程度以上が確保できる規模 ②学級規模 1学級15人程度以上が確保できる規模</p> <p>(2) 中学校 ①学校規模 生徒数は270人程度以上が確保できる規模 ②学級規模 1学年3学級以上が確保できる規模</p> <p>3. 配慮事項</p> <p>学区の改編を進める際は、地域住民と十分な時間をかけて話し合い、理解と合意のもとに進める。</p>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○学区改編推進事業【予算現額322千円・支出済額251千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校の適正規模及び適正配置について審議する学区改編審議会を開催した。（2回）</li> <li>・学校規模の適正化による子ども達の教育環境の整備を図るため、保護者の代表者の方々と教育人口統計を基にした将来動向などの情報交換を行った。対象の小学校区は、既に複式学級が編制されている黒森小学校と田沢小学校、教育人口統計により将来複式学級の編制が予想されている一條小学校、新堀小学校、広野小学校、浜中小学校とした。</li> </ul>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○これまでは地域の代表との情報交換を中心に進めてきたが、平成30年度は保護者の代表と情報交換を行った。</p> <p>○将来、新たに複式学級が編制される学校が想定されたことを受けて、対象小学校区（広野小学校、浜中小学校）の地域及び学校、保護者の代表者と現状及び将来的な展望について意見交換を行った。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○適正規模等に課題のある学区における説明については、教育人口統計の説明などによる児童生徒数や学級数、複式学級編制についての情報提供及び意見交換を行うことができた。</p> <p>●地域から学校がなくなることへの不安感（地域の衰退、地域行事への関わり）などが強く、現状を情報共有する程度に留まっている。</p> <p>●学校規模の適正化（学校統合）に向けた具体的な説明会の実施までには至らなかった。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度評価	A	<p>○適正規模等に課題のある学区においては、今後も、地域や保護者への説明を継続的かつ丁寧に行い、地域の理解を更に深めていく。</p> <p>○これからの児童生徒数の動きや複式学級編制の見込み、また学校の小規模化によるメリットとデメリットなど、子どもを取り巻く教育環境について地域と共有を図るために引き続き情報発信していく。</p>	
【参考】29年度評価	A		



基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	5 教育環境の整備		
施策	(3) 通学の安全確保		
担当部署	学校教育課	平成30年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の通学の安全を確保するために、地域学校安全指導員の活動など、学校と地域の連携を深めるとともに、遠距離通学対策の充実を図る。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校安全指導員や各学校の見守り隊及び関係機関との連携を図ることで、児童生徒が安全安心に登下校できるようにする。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○子どもの安全安心通学対策事業【予算現額2,351千円・支出済額1,865千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校安全指導員5名及び各学校の見守り隊や酒田警察署との連絡調整を行った。</li> <li>・青色回転灯装備車両による防犯パトロールについては、警察より証明を受けた巡回協力者と学校教職員により、市教委による回転灯の貸与・パトロール車表示用ステッカー貸与のもとで実施した。</li> </ul> <p>○遠距離通学対策事業【予算現額61,733千円・支出済額58,598千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬期間は、小中学校とも概ね3km以上を対象とし、借上バス対応を60日間行った。</li> </ul> <p>○スクールバスの運行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通年は、小学校概ね4km、中学校が概ね6km以上を対象として、スクールバス運行またはバス定期券の交付により実施している。</li> <li>・運行学区 松原小、鳥海小、平田小、八幡小、南平田小、田沢小、松山小 一中、二中、四中、鳥海八幡中、東部中</li> </ul> <p>○通学路の安全点検</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が把握する通学路の危険箇所については、個別での対応・各機関合同での対応を行い、改善すべき箇所について、児童生徒の安全な登下校に向けて対策を講じることができた。</li> <li>・30年度合同点検箇所 6校6箇所</li> </ul>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
○安全安心メールシステムを高機能の新システムに移行した。			
事業の効果・課題			
<p>○青色回転灯を装備してのパトロールが定着することで、安全安心な通学に寄与している。</p> <p>○遠距離通学対策事業、スクールバス運行とも市の基準に照らしながら対応し、児童生徒の安全を確保するとともに、通学費用に係る保護者の負担軽減を図ることができた。</p> <p>○見守り隊や地域学校安全指導員との情報交換と協力連携を通して、パトロール実施者の増員を今後とも呼びかけていく必要がある。</p> <p>○通学路の危険箇所について関係者会議を開催して対策等を検討し、その後に現地調査及び道路表示などの対策を実施して通学路の安全を確保した。</p> <p>○安全安心メールの新システム移行に伴い、保護者や関係者への危険情報の伝達力が向上し、児童生徒の防犯面強化に繋がった。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度評価	A	<p>○見守り隊や地域学校安全指導員との協力連携を通して、児童生徒の安全な登下校の見守りを行うことができた。</p> <p>○通学路の安全対策は学校や地域の声を聞きながら、随時、適正な対策等を実施できた。</p> <p>○安全安心メールにより保護者・関係者間で速やかに詳細な情報共有ができた。</p>	
【参考】29年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																				
基本施策	5 教育環境の整備																				
施策	(4) 学習バスの運行																				
担当部署	学校教育課	平成30年度 担当部署	学校教育課																		
施策の目的及び目標																					
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市で保有する学習バスを積極的に活用し、小中学校の社会体験活動や自然体験活動などの校外での学習活動を支援する。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内各学校等で行われる学習活動への積極的な支援を図るとともに、児童・生徒への安全に配慮した運行を行う。</li> </ul>																					
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況																					
<p>○学習バス・スクールバス管理事業【予算現額133,421千円・支出済額125,985千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市保有の学習バス3台及び、スクールバス24台（登下校時間帯を除く）により、市内小中学校の校外学習等を実施している。</li> </ul> <p>○学習バスとして年間延べ1455回運行した。</p> <p style="text-align: center;">《運行回数推移》 <span style="float: right;">単位：回</span></p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>678</td> <td>883</td> <td>963</td> <td>1136</td> <td>1500</td> <td>1307</td> <td>1460</td> <td>1455</td> </tr> </tbody> </table> <p>○主な運行内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校外学習、体験学習、交流学习、自然教室、各種大会、職場体験学習、地域探訪 他</li> </ul>				年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	回数	678	883	963	1136	1500	1307	1460	1455
年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30													
回数	678	883	963	1136	1500	1307	1460	1455													
平成30年度における改善点・新たな取り組み																					
<p>○規程に沿った運行内容となるように精査した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運行事例 <ul style="list-style-type: none"> <li>校外学習：4年社会科の見学学習のため、消防本部へ <span style="float: right;">黒森小</span></li> <li>交流学习：一中学区特別支援学級「七夕交流会」の為、一中へ <span style="float: right;">西荒瀬小</span></li> <li>自然学習：宿泊体験学習の為、海浜自然の家へ <span style="float: right;">鳥海小</span></li> <li>職場体験学習：職場体験の為、庄内余目病院へ <span style="float: right;">第三中</span></li> </ul> </li> </ul> <p>○商工港湾課から移管されたマイクロバスを学習バス3号として活用した。</p>																					
事業の効果・課題																					
<p>○校外での直接の見聞による体験的活動をおし、学習への関心・意欲等の高揚が図られた。</p> <p>○市が保有する学習バスの活用により、学習エリアの広域化が図られた。</p> <p>○学習バスを利用する際の、児童・生徒へのバス乗車マナーや交通安全意識の啓発も必要である。</p> <p>○学習バスが1台増台したことにより、午後3時以降の校外学習にも対応しやすくなった。</p>																					
点検結果・自己評価（今後の方向性）																					
30年度 評価	A	<p>○学習バスを活用し、小中学校の社会体験活動や自然体験活動などの学習活動で効果的に活用することができた。</p> <p>○学習バスの利用が校外学習のねらいにそった活用であるかどうかを見極めながら対応していく。</p>																			
【参考】29年度 評価	A																				

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	5 教育環境の整備		
施策	(5) 学校ICT環境の整備充実		
担当部署	学校教育課	平成30年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時代に対応したICT環境としていくために、教育用パソコン及び校務用パソコンの充実した整備と適正な運用環境の整備を図る。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育用パソコンは、今後も児童生徒の情報活用能力の育成の為、定期的に更新しながら賃貸借契約による整備を継続していく。</li> <li>・校務用パソコンは、2か年の端末入れ替え実施計画により、新しい端末に随時更新する。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○デジタルキャンパスネットワーク【予算現額65,653千円・支出済額64,527千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育用パソコンは、賃貸借契約により小学校で654台、中学校で287台を整備しており、今年度は小学校10校、中学校2校で新端末に更新した。</li> <li>・校務用パソコンのサポート及び教育委員会保有の各サーバの保守・点検を実施した。</li> <li>・小学校校務用パソコンの端末更新300台を実施した。</li> <li>・情報教育担当者会等で多数の要望があったタブレット端末の活用に関連し、民間事業者からの無料レンタルサービスを利用し、授業への活用に関するデータ収集を実施した。</li> </ul>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校校務用パソコンの端末更新による校務環境の改善。</li> <li>・タブレットの無料レンタルサービスを利用した、授業活用に関するデータの収集。</li> </ul>			
事業の効果・課題			
<p>○パソコンの操作や授業においてICT機器を活用することを通して、情報化社会に生きる児童生徒に情報活用能力を育てることができた。</p> <p>○授業においては、パソコンを活用したり、デジタル教材や実物投影機といったICT機器を活用したりと、児童生徒の学習意欲向上や学習内容の理解に一定の効果があった。</p> <p>○平成30年度末、授業でICT機器を活用できる教員の割合は、小学校92%、中学校88%であり小・中学校とも日常的にICT機器を活用した授業が行われるようになっている。</p> <p>○ICT機器やシステムの使用に関する情報提供や活用するための研修を定期的実施し、より効果的に活用できるような体制作りを目指していく。また、学校系ネットワークの安定した運用を管理するため、これまでの運用ルールを見直し、セキュリティポリシー作成等を目指す。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度評価	B	<p>○教科の特質に応じたICT機器活用方法について、更に研修を深めていく必要がある。</p> <p>○学校では、パソコン以外にも実物投影機やプロジェクタ等の利用頻度が高まり、ICT機器の活用が必要不可欠なものとなっている。</p> <p>○Wi-fi環境の整備、タブレット端末の導入、プログラミング学習における学習アプリの利用等については、学校における活用法や必要性およびセキュリティ対策を含めて、今後も情報を収集し、検討を続ける。</p>	
【参考】29年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	5 教育環境の整備		
施策	(6) 教育の機会均等 (その1)		
担当部署	企画管理課	平成30年度 担当部署	企画管理課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の経済状況にかかわらず、高等学校や高等教育機関での修学が確保されるよう市独自の制度により経済的支援を行うことで子どもたちの教育を受ける機会の確保に資する。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国、県など他の支援制度とのバランスを考慮しながら本市の支援制度を検討、維持し、経済情勢の変動等に関わらず広く市民に周知され、支援制度が必要な市民が利用できるようにする。</li> </ul>			

#### 平成30年度 主な事業の概要及び実施状況

- 私立高等学校生徒授業料軽減事業【予算現額3,168千円・支出済額3,168千円】  
この事業は、私立高等学校に在学している生徒の授業料等に係る保護者等の経済的な負担軽減を図るため、毎年6月1日において私立高等学校に在学している生徒を有し、かつ、本市に住所を有する保護者等が次のいずれかに該当するものに対し私立高等学校生徒授業料軽減補助金を交付するものである。
- (1) 生活保護法の規定による被保護世帯に属する方 (補助金額：60千円)
  - (2) 当該年度の市民税が非課税の方 (補助金額：36千円)
  - (3) 当該年度の市民税のうち、均等割額だけを課税される方 (補助金額：36千円)

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度
生活保護世帯	1件	3件	3件
市民税非課税世帯	55件	57件	59件
均等割額のみ課税世帯	39件	33件	24件
交付件数 計	95件	93件	86件
交付額	3,444,000円	3,420,000円	3,168,000円
申請件数	291件	274件	219件

【周知実績】 県内各私立高等学校に配布 (市内2校、市外13校)

- 京野基金大学修学奨励事業【予算現額303千円・支出済額303千円】  
この事業は、本市出身の優秀な学生の大学修学に係る経済的支援を図る目的で、平成22年度に新設した制度であり、次のいずれにも該当する学生のうちから選考されたものの保護者に京野教育振興基金大学修学奨励金を学生1人につき300千円交付するものである。
- (1) 学生の保護者等及び世帯の年収額を生活保護法による保護基準表の例によって算出した当該家庭の需要額で除した率が120パーセントに満たない者
  - (2) 高等学校を卒業した年度の翌年度に、国立大学法人立大学又は公立大学若しくは市長が特に認めた大学に入学した者 (医学部及び歯学部は除く)
  - (3) 高等学校在学中の成績が優秀であると認められる者
  - (4) 学生の保護者が本市に住所を有し、引き続き1年以上居住し、かつ、当該世帯に本市の市税等の滞納がない者

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度
交付件数	1件	4件	1件
大学修学奨励金交付額	300,000円	1,200,000円	300,000円

【周知実績】 市内高等学校6校に配布

#### 京野教育振興基金の推移

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度
年度当初残高	3,731,650円	3,437,461円	2,242,021円
取崩額	300,000円	1,200,000円	300,000円
積立額	5,811円	4,560円	2,419円
年度末残高	3,437,461円	2,242,021円	1,944,440円

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	5 教育環境の整備		
施策	(6) 教育の機会均等 (その2)		
担当部署	企画管理課	平成30年度 担当部署	企画管理課

○大学等修学支援事業【予算現額2,504千円・支出済額2,323千円】

この事業は、大学等（大学、短期大学、専修学校（専門課程を置き修学年限が2年以上のものに限る）及び市長が認めた教育施設）修学に係る経済的支援を図るため、毎年6月1日において大学等に在籍している本市出身の学生を有する保護者等で、次に該当するものに対し大学等修学資金利子補給金を交付するものである。

・学生の家族（兄弟姉妹は除く）の所得等の合計額が、次の金額以下であるとき。

種別	所得等の合計額	
給与のみの場合	収入額	770万円
上記以外	所得額	573万円

なお、利子補給金の額は、金融機関の修学貸付に係る利子相当額とし、学生1人につき、1年当たりの利子相当額4万円を上限とする。

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度
新規交付件数	21件	25件	17件
継続交付件数	43件	42件	53件
交付件数 計	64件	67件	70件
交付額	2,320,084円	2,358,030円	2,322,832円

【周知実績】市内高等学校・大学、金融機関など21機関にチラシを配布

平成30年度における改善点・新たな取り組み

○私立高等学校生徒授業料軽減事業は、支給対象となる所得要件を分かりやすくするため、税制上廃止されている年少扶養・特定扶養控除の算定を要件から外すとともに、所得の算定対象者を、世帯全員ではなく、生徒を扶養する親権者のみに変更した。

事業の効果・課題

- 各事業ともに学校や関係機関に対して、制度をわかりやすくまとめたパンフレット、チラシ等を配布するとともに、市のホームページや広報、ハーバーラジオなどを活用し、本支援制度を必要とする市民に広く制度の周知を図った。
- 私立高等学校生徒授業料軽減事業において、交付要件を現行の税制に沿ったものに変更するとともに、パンフレット内容の見直しを行い、交付決定率が向上した。  
平成30年度は、申請219件、交付86件（交付決定率 39.3% 平成29年度の交付決定率33.9%）
- 京野基金大学修学奨励事業は、寄付による基金を活用し、大学修学に係る経済的支援を図ってきたが、国による給付型奨学金の充実が図られるなど状況の変化もあるため、基金残高が無くなった後については本事業は廃止とする。新たな大学修学に係る支援の必要性については検討が必要である。

点検結果・自己評価（今後の方向性）

今後の方向性	継続	○周知については学校や関係機関を通じて実施出来ており、制度の目的に沿った役割を果たしてきている。 ○家庭の経済状況によらず、次代を担う子どもの教育を受ける機会を確保するために、今後も幅広く周知しながら継続する。 ○京野基金大学修学奨励事業は、令和2年度からの国の教育の無償化・負担軽減施策の動向を把握し、今後の支援体制を検討していく。
【参考】29年度評価	継続	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ			
基本施策	5 教育環境の整備			
施策	(7) 私立学校等の振興			
担当部署	企画管理課	平成30年度 担当部署	企画管理課	
施策の目的及び目標				
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独自の教育理念のもと、本市の教育振興に貢献している私立高等学校の健全な運営に資する。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの教育を受ける機会を保障するため私立高等学校の運営費に対しての補助金を交付する。</li> </ul>				
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況				
<p>○私学振興補助事業【予算現額3,150千円・支出済額3,150千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市に住所を有する私立高等学校の健全な運営に資するため、私立高等学校を設置する学校法人に対し、酒田市私立高等学校運営費補助金を交付</li> </ul>				
	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	酒田南高等学校運営費補助金	1,400,000円	1,400,000円	2,800,000円
	天真学園高等学校運営費補助金	1,400,000円	1,400,000円	-
	和順館高等学校運営費補助金	350,000円	350,000円	350,000円
	交付額 計	3,150,000円	3,150,000円	3,150,000円
平成30年度における改善点・新たな取り組み				
<p>○私立高等学校の統合により補助金額の急激な減額が見込まれたため、統合後の平成30年度～令和4年度については激変緩和措置を定めた改正後の要綱に基づき、補助金交付を行うことにした。</p>				
事業の効果・課題				
<p>○本市の教育振興等に貢献している私立高等学校の健全な運営のために補助金を交付している。平成30年度においては、統合により私立高等学校数が1校少なくなったが、市内の高校生人数に占める私立高校生生徒数の割合は2割を超えており、私立高等学校は本市の教育において大きな役割を担っている。私立高等学校の健全な運営により、子どもたちが教育の選択肢を広げたり、多様な学びの場を確保することが可能となっている。</p>				
	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	公立高等学校生徒数…A	2,329人 (100.0)	2,284人 (98.1)	2,177人 (93.5)
	私立高等学校生徒数…B	654人 (100.0)	683人 (104.4)	635人 (97.1)
	市内高等学校生徒数…C=A+B	2,983人 (100.0)	2,967人 (99.5)	2,812人 (94.3)
	私立高等学校生徒数率…B/C	21.9% (100.0)	23.0% (105.0)	22.6% (103.0)
	市内16～18歳人口	2,787人 (100.0)	2,697人 (96.8)	2,651人 (95.1)
	私立高校教員数	72人 (100.0)	73人 (101.4)	64人 (88.9)
<p>※カッコ内は平成28年度の各数値を100として比較したもの  ※生徒数及び教員数は各年度5月1日現在の数値から算定（市勢要覧より）  ※16～18歳人口は各年度3月末日の数値から算定（住民基本台帳より）</p>				
点検結果・自己評価（今後の方向性）				
今後の方向性	継続	<p>○学校教育において、20%を超える生徒数など、本市の子どもたちの教育を受ける権利を保障する役割を果たしており、欠かせない存在となっている。</p> <p>○市と酒田南高等学校と連携協定を締結したこともあり、今後は財政的支援だけでなく連携強化も考慮した支援について市長部局を中心に検討する必要がある。</p>		
【参考】29年度評価	継続			

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	6 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進		
施策	(2) 学校運営の公開と学校評価の推進		
担当部署	学校教育課	平成30年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や地域住民が学校運営に参画し、学校と地域が一体となった地域に開かれ、地域に支えられる学校づくりを進める。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての学校で教育活動等の成果と検証を行う学校評価に取り組み、学校運営の改善と発展を目指す。</li> <li>・良い学校運営につなげる学校評価システムを推進していく。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○学校評議員会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営に関して第三者の意見を生かしていくために、全小中学校で学校評議員の委嘱を行った。どの学校も学校評議員会を開催し、学校の運営や教育活動について、具体的に意見をいただいている。</li> </ul> <p>○学校評価の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの学校も自己評価、学校関係者評価を実施している。学校経営に関する児童生徒、保護者、教職員のアンケートを実施、分析、改善するとともに、その結果を学校評議員に提示し学校関係者評価を行い、学校運営の改善につなげている。</li> <li>・評価項目を絞りこみ、学校の重点やよさ、課題について、PDCAのサイクルに基づいて実施する工夫がみられる。</li> </ul>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○学校評議員の人選については数年連続しているとなかなかメンバーを代えにくいという反省がある中、年齢構成、役職、男女比のバランスを考慮しようとする学校が見られた。</p> <p>○日中の時間帯に学校評議員会を開催し、学校生活における児童生徒の姿を見ていただく学校が増えてきた。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○学校評議員会の開催により、学校の経営方針や教育活動のねらい・内容を説明し理解を得ることで、地域との協力体制づくりが進んでいる。</p> <p>○話し合いの目的によって学校評議員の人選が変わることが考えられるため、年齢構成、役職、男女比などを考慮し、学校評議員を選出する必要がある。</p> <p>○学校評議員会の時間設定を工夫することで、多くの方からの意見を集約することができた。また、事案により、招集メンバーを絞ることでテーマに沿った話し合いができています。</p> <p>○地域の方々に学校経営方針や授業・行事等の実践を公開することで、学校・家庭・地域の方々による学校運営や具体的な教育活動への理解が深まり、開かれた学校づくりが進められている。</p> <p>○アンケート結果をもとにした自己評価や学校関係者評価の客観的なデータを示すことで、成果と課題が明確になり、評議員の方々の意見が日頃の教育活動に反映された。</p> <p>○学校評価の結果を学校便り等で地域の方々や保護者にお知らせすることで、子どもたちの地域での様子やさまざまな情報を学校にいただけるようになってきた。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度評価	B	<p>○学校評議員の人選にあたっては、地域の有識者や教育活動の支援者並びに保護者等から広く意見を集約し、経営の改善に生かせるよう配慮されてきた。</p> <p>○学校評議員にも学校評価のねらいや観点、評価の具体的な場面を示しながら、年間計画に基づいて計画的に、学校経営について意見を求めていくように学校に働きかけていく。</p> <p>○学校経営の改善に生きる評価システムにしていくために、年度始めに、重点や学校課題（評価の観点や評価の場面）を具体的に保護者や地域の方々に示すように各校に指導していく。</p>	
【参考】29年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	6 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進		
施策	(3) 教職員研修等の充実		
担当部署	学校教育課	平成30年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信頼される学校づくりを推進するため、教員の指導力向上や資質向上を図る。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校研究に沿った授業研究会への指導主事派遣を充実させ、指導力の向上を図る。</li> <li>・各種研修会及び各校での授業研究会を通し、教職員としての資質向上を図る。</li> <li>・教員評価を行い、学校教育に対する信頼の確保と資質の向上を図る。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○初任者研修、中堅教諭等資質向上研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初任者研修は学級づくり、市内教育施設の訪問等の研修を実施した。(該当者14名)</li> <li>・全体研修では「服務研修」「いじめ対応」、知見を広める体験研修では企業や福祉施設等で体験的研修を実施した。 (中堅教諭等資質向上研修該当者5名、服務研修参加者14名)</li> </ul> <p>○各種研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書専門員研修会(28名参加)</li> <li>・教科指導力向上のための研修会 理科センター事業として研修会を4回開催。(延べ50名) 市教育研究所の各部会で教科指導等の研修会を延べ46回開催</li> <li>・児童生徒理解のための研修会 教育相談研修講座を2回開催(延べ326名参加) 教育相談担当者を対象とした実践力を育成する研修会を2回開催</li> <li>・特別支援教育のための研修会 特別支援教育研修会を2回開催(延べ208名参加)</li> </ul> <p>○教職員評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての教員が自己目標を設定し、個人や組織としての工夫を図り資質の向上に努めた。</li> </ul>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
事業の効果・課題			
<p>○初任者研修では、教育公務員としての教師の服務や心構え、児童生徒との関わり方、特に特別支援教育の考え方について研修を深めることができた。また、初任者として職務上の悩みを情報交換できたことは対象者にとって非常に貴重な機会となった。</p> <p>○中堅教諭等資質向上研修では、喫緊の課題であるいじめの防止、早期発見、適切な対応について研修を行うことで、児童生徒の見取りについて意識を高めることができた。</p> <p>○図書専門員研修会では経験豊富な専門員の方からの助言も有効だが、基本的な操作に関する利用講習を数年に1回程度、企画・予算化する必要がある。</p> <p>○教科指導力向上のための研修会では、算数・数学において授業改善に向けた実践的な研修を行うと共に、小中が連携した指導の在り方について研修を深めることができた。</p> <p>○教職員評価の実施により、自己目標の設定と達成に向けての取り組みの中で、教員の学校経営参画意識を高めることにつながっている。</p>			
点検結果・自己評価(今後の方向性)			
30年度評価	A	<p>○初任者研修では「ユニバーサルデザイン」、中堅研修においては「いじめ防止」について研修し、教員としての資質の向上につなげることができた。</p> <p>○読書指導や図書館活用型授業の大切さを理解してもらい、それを支える専門員の在り方にも触れることができた。</p> <p>○教育相談研修講座において、特別支援、いじめ予防、学級づくりをテーマに研修会を開催することにより、今日的な課題について研修できた。</p>	
【参考】29年度評価	A		



基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	6 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進		
施策	(4) 体罰根絶に向けた取組みの推進		
担当部署	学校教育課	平成30年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体罰に関する正しい知識をもち、体罰否定の指導観のもと信頼される学校づくりを進める。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体罰の根絶対策と、一人一人の人格や自主性を尊重し、児童生徒理解に基づく適切な学習指導、生徒指導、部活動指導等を実施する。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○校内倫理委員会における体罰根絶への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「信頼される学校推進のための具体的取り組み」の項目の中に体罰根絶の項目を位置づけ、各校の実態を踏まえながら主体的な取組を計画的に実施できるようにした。</li> </ul> <p>○研修会等の機会を利用した服務にかかわる指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体罰の防止を含め、教職員の服務規律については、市招集校長会や各種研修会等の機会を利用して繰り返し注意喚起を行った。</li> </ul>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○体罰根絶等に向けた研修会の持ち方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県教育委員会から出されている校内研修資料を送付したり、ホームページ等を紹介し、ワークショップなどの研修形態を各校で工夫できるようにした。</li> </ul>			
事業の効果・課題			
<p>○「体罰等の根絶と児童生徒理解に基づく指導のガイドライン」をもとに、学校評価の際に教職員及び保護者アンケートに体罰や不適切な指導に関する項目を設け、児童生徒理解に基づく指導に取り組んでいる。</p> <p>○アンガーマネジメントについて研修し、教職員が怒りに対する自己コントロールができるようにすることで児童生徒一人一人を尊重し、よさを伸ばす指導に努めている。</p> <p>○生徒指導面や特別支援教育面で特に支援が必要な児童生徒について全教職員で共通理解し、複数で対応している学校がほとんどである。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度評価	B	<p>○教職員が児童生徒のことで一人で悩むことのないように、問題行動等への解決にはチームで対処する。</p> <p>○体罰または周囲に体罰と受け取られかねない指導を見かけた場合には、積極的に管理職や他の教員等へ報告・相談できるようにするなど、日常的に体罰を防止しようとする同僚性を育んでいく。</p>	
【参考】29年度評価	B	<p>○部活動のコーチについても指導のあり方についてお願いと指導を行う。</p> <p>○教職員一人一人が当事者意識を持って研修できるよう、多様な研修のあり方を紹介していく。</p>	

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう		
基本施策	7 生涯学習の充実		
施策	(1) 生涯学習推進体制の整備		
担当部署	社会教育文化課	平成30年度 担当部署	社会教育文化課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庁内関係課との情報の共有や情報発信の一元化を図りながら連携事業にも取り組み、市全体としてより充実した事業推進に努める。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化社会の進展に伴い、学習情報の収集と提供を行うシステムや学習相談の体制整備に努める。</li> <li>・学習しやすい施設や環境づくりの整備。</li> <li>・関係各団体と互いに連携を図りながら生涯学習を推進。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○市広報やホームページ、フェイスブックでの講座募集。</p> <p>○生涯学習推進計画関連事業一覧のホームページ掲載 関連課等23</p> <p>○生涯学習指導者登録制度 登録者45名※ホームページに掲載</p> <p>○カモンくんこどもニュースの発行（月1回、全小中学生へ配布）</p>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○本庁舎が完成し、社会教育文化課（公民館事業係を除く）が本庁舎へ移ったことで、庁内関係課との連携がはかりやすくなった。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○生涯学習推進講座開催事業では、各ライフステージに合わせた、学びを提供し、多様なニーズに対応した。終了後のアンケート調査では高い満足度を得ることができ、年間集計では満足度93%となった。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度評価	B	<p>○市広報、ホームページ、フェイスブック、各種チラシなどいろいろな媒体を通じて学習情報の提供に心がけている。</p> <p>○生涯学習サークルの募集を一覧にして随時更新をしている。</p>	
【参考】29年度評価	B		

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう		
基本施策	7 生涯学習の充実		
施策	(2) 生涯学習社会の基礎づくり		
担当部署	社会教育文化課	平成30年度担当部署	社会教育文化課

**施策の目的及び目標**

- 目的
  - ・ライフステージに合わせた学びの提供。
  - ・「個人のニーズ」と「社会の要請」の学習機会をバランスよく提供する。
  - ・学んだ成果を地域に生かせる学習機会の提供。
  - ・地域・家庭・学校・幼稚園・保育所等と連携した事業の推進。
  - ・家庭教育支援の充実。
- 目標
  - ・生涯学習事業のアンケート調査の満足度87%以上を達成。

算出方法	28年度	29年度	30年度	31年度 (目標)
生涯学習事業の満足度 (アンケート調査)	88%	93%	93%	87%以上

**平成30年度 主な事業の概要及び実施状況**

○生涯学習推進講座開催事業【予算現額3,123千円・支出済額2,581千円】 ※別紙事業比較表あり

講座区分	平成28年度			平成29年度			平成30年度		
	講座数	実施回数	延べ参加人数	講座数	実施回数	延べ参加人数	講座数	実施回数	延べ参加人数
幼児講座	4	31	1,731	4	25	1,040	3	33	1,477
少年講座	10	465	12,717	9	431	8,231	11	416	8,129
青年講座	7	31	287	4	18	204	3	21	204
成人講座	12	51	706	4	13	213	7	22	489
家庭教育講座	8	81	3,444	5	73	3,493	5	47	2,517
指導者養成講座	4	10	420	5	17	314	3	8	150
催し	9	15	18,149	9	25	16,610	5	20	14,968
計	54	684	37,454	40	602	30,105	37	567	27,934
満足度	88%			93%			93%		

**平成30年度における改善点・新たな取り組み**

○青年講座「基本の料理とお菓子」の実施時期を2カ月遅らせることで、季節に合わせた調理を設定することができ、受講者にも好評を得た。

**事業の効果・課題**

- 小中学校や認定こども園、保育園等と連携し多くの生徒や保護者に講座を実施した。
- 新規の講座を取り入れ、幅の広い学びの場を提供することができた。
- 新規の講座の中には、申込者が定員に満たない講座もあった。

**点検結果・自己評価（今後の方向性）**

30年度 評価	B	○趣味的講座を縮小しているため、講座数と参加者数が減少している。 ○個人の要望と社会の要請のバランスに配慮しながら、講座等の編成を行っていく。
【参考】 29年度 評価	B	

生涯学習推進講座開催事業比較表【H29-31(予定)】

	H29 4,991千円	H30 3,123千円	H31 3,124千円
予算額			
区分	事業名	事業名	
幼児	みんなの絵本広場	みんなの絵本広場	みんなの絵本広場
	わらべのひな祭り展	わらべのひな祭り展	わらべのひな祭り展
	孫とあそぼう	(終了)	
	幼児すてっぷ出前講座	幼児すてっぷ出前講座	幼児すてっぷ出前講座
	・積木のワークショップ	・積木のワークショップ	・積木のワークショップ
	・楽しくチアダンス	・楽しくチアダンス	・楽しくチアダンス
	・リトミック「子供の才能のドアをノックする」	(新) よねさんの紙芝居	・よねさんの紙芝居
少年	酒田マリーングジュニア合唱団	酒田マリーングジュニア合唱団	酒田マリーングジュニア合唱団
	酒田海洋少年団	酒田海洋少年団	酒田海洋少年団
	新春書初め会(正月行事)	新春書初め会(正月行事)	新春書初め会(正月行事)
	正月行事「みんな集まれ!お!正月」	正月行事「みんな集まれ!お!正月」	正月行事「みんな集まれ!お!正月」
	酒田っ子はぐくみ事業	酒田っ子はぐくみ事業	酒田っ子はぐくみ事業
	・マナーコース	・マナーコース	・マナーコース
	・キャリアコース	(新) 総合学習はおもしろい	
	・音楽でコミュニケーション	・音楽でコミュニケーション	・音楽でコミュニケーション
	・地元で働く先輩からの講話 (モシエノ大学出前)	(新) 大切な仲間を勇気づける コミュニケーション	・大切な仲間を勇気づける コミュニケーション
		(新) さまざまな仕事、働き方を知る	・さまざまな仕事、働き方を知る
	地域人材交流講座	地域人材交流講座	地域人材交流講座
	夏休み宿題お手伝い教室	夏休み宿題お手伝い教室	夏休み宿題お手伝い教室
	飛島ミステリージオツアー	(変更) 酒田っ子ミステリーバスツアー	酒田っ子ミステリーバスツアー
	冬あそびお泊り会	(変更) 雪あそび、ピザ作りを楽しもう!	(変更) 冬あそびお泊り会
		(新) キッズのためのハッピースイーツ教室	キッズのためのハッピースイーツ教室
		(新) 子ども将棋教室	子ども将棋教室
	(新) 東北大学出前講義(阿部次郎関係)		
青年	基本の料理とお菓子	基本の料理とお菓子	基本の料理とお菓子
	新成人のマナー講座	新成人のマナー講座	新成人のマナー講座
	成人式実行委員会	成人式実行委員会	成人式実行委員会
成人	ふるさと自然倶楽部ジオサイトバスツアー	(変更) 飛島まるごとジオツアー	飛島まるごとジオツアー
		(新) はじめてのジオ講座	はじめてのジオ講座
	もぎりあーと体験教室	もぎりあーと体験教室	もぎりあーと体験教室
	吉野弘を知る 講座	吉野弘を知る 講座	(終了)
		(新) 小学生の日本の歴史授業 「学び直し講座」	(変更) 小学生「算数」学び直し講座
	(新) 生活に役立つ筆ペン・ペン字基礎講座	・生活に役立つ筆ペン・ペン字基礎講座	
家庭教育	親子ですくすく出前講座	親子ですくすく出前講座	親子ですくすく出前講座
	地域家庭教育講座	地域家庭教育講座	地域家庭教育講座
	イマドキno孫育て講座	(終了)	
	家庭教育講演会	家庭教育講演会	(終了)
	赤ちゃん登校日	赤ちゃん登校日	赤ちゃん登校日
	野菜嫌いを克服するレシピ	(変更) 血液さらさらレシピ	
指導者養成	ホール音響・照明操作講習会	ホール音響・照明操作講習会	ホール音響・照明操作講習会
	少年団体リーダー研修会	少年団体リーダー研修会	少年団体リーダー研修会
	地域の教育力向上 スキルアップ講座	地域の教育力向上 スキルアップ講座	地域の教育力向上 スキルアップ講座
	コミュニティ振興会連携事業	コミュニティ振興会連携事業	
	社会教育に関する研修会(図書館関係)		
催し	出羽遊心館春の市民茶会	改修工事につき休止	出羽遊心館春の市民茶会
	お月見茶会&コンサート	(終了)	
	生涯学習まつり	生涯学習まつり	生涯学習まつり
	正月行事展	正月行事展	正月行事展
	酒田市風あげ大会	酒田市風あげ大会	酒田市風あげ大会
	巨大迷路	巨大迷路	巨大迷路
	マリーングジュニア定期演奏会	マリーングジュニア定期演奏会	マリーングジュニア定期演奏会
	「宝の日」吉野さんの詩をよむ	「宝の日」吉野さんの詩をよむ	「宝の日」吉野さんの詩をよむ

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう		
基本施策	7 生涯学習の充実		
施策	(3) 生涯学習機会の提供		
担当部署	社会教育文化課	平成30年度 担当部署	社会教育文化課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「個人の要望」や現代的課題の解決に向けた「社会の要請」に応える様々な学習機会の提供。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会変化に対応していくため、各関係部署、その他関係機関等との連携を深め、多様な学習機会の提供に努める。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○生涯学習まつりで各種サークル、団体等の日頃の活動成果発表を行い、交流を深めた。</p> <p>○「もぎりあ〜と教室」を実施し、総合文化センターのモールで受講者の作品展示をした。</p> <p>関連事業</p> <p>○春の市民茶会</p> <p>○生涯学習施設「里仁館」運営支援</p>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○ジオパーク人口のすそ野拡大をはかるために「はじめてのジオ講座」を開催した。サブタイトルにも「あなたの知らない酒田・遊佐」とつけ、ジオパークに興味をもってもらえるように工夫した。文化的な観点からもジオサイトを解説していただき、大変好評を得た。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○生涯学習まつりでは53団体が参加し、生涯学習の成果を発表。延べ来場者数10,316人。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度 評価	B	<p>○生涯学習ボランティア育成の目的で指導者として活躍できる体制を整えるため市民企画講座を実施し、新規で4名の指導者を登録した。</p> <p>○春の市民茶会、生涯学習まつりは成果発表の場として多くの参加者があった。</p>	
【参考】 29年度 評価	B		

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう		
基本施策	7 生涯学習の充実		
施策	(4) 地域活動の活性化		
担当部署	社会教育文化課	平成30年度 担当部署	社会教育文化課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動の中心的役割を果たすコミュニティ振興会に対して、地域に伝わる風習や伝統文化など、地域の特性を生かした青少年の体験活動や健全育成に関わる事業等に支援を行うとともに、「地域の先生」として学んだ成果を社会に生かせるように指導者研修会を開催するなど「知の循環」による公益活動の振興を図る。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者研修会の参加率の向上と社会教育指導員の訪問活動の充実。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○地域の教育力向上スキルアップ講座 参加者数26名</p> <p>○各地域担当社会教育指導員の配置 訪問実績489回（相談連絡訪問395回、事業への訪問94回）</p> <p>関連事業</p> <p>○地域人材交流講座</p> <p>○少年団体リーダー研修会</p>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○地域の教育力向上スキルアップ講座を松山地域の南部コミュニティセンターを会場にして行った。廃校の活用と地見っ子ふれあい協議会の活動について発表していただいた。ジオパークについての講話もどちらも興味を持って聴いていただいた。</p> <p>○事例発表や講話だけでなく、グループトークも実施し、各コミュニティ振興会の事業紹介など情報交換も行うことが出来た。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○事例発表や情報交換を通して、他地域の取り組みを参考にし、自分の地域の事業に活かすきっかけづくりができた。</p> <p>●研修に参加できないコミュニティ振興会も多く、日程や内容など参加者を増やす方策が課題。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度 評価	B	○地域の教育力向上スキルアップ講座では充実した内容を実施することができた。多くのコミュニティセンターを担当職員が訪問し、社会教育文化課で実施した講座や、他コミュニティ振興会のよい取り組みを紹介できるよう、また参加してくれるコミュニティ振興会が増えるようアンケートの要望を参考にするなどして工夫したい。	
【参考】 29年度 評価	B		

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう				
基本施策	8 図書館活動の充実				
施策	(1) 図書館機能の充実				
担当部署	図書館	平成30年度 担当部署	図書館		
施策の目的及び目標					
○目的 ・市民の読書活動の拠点として各種図書資料をバランスよく収集し、窓口サービスの提供等を通して、知識や教養の習得機会を提供する。					
○目標					
※「事務事業評価表」より					
	項目	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (実績)	元年度 (目標)
	人口1人当たりの入館回数	3.29回	3.17回	3.32回	3.85回
	人口1人当たりの館外貸出冊数	4.7冊	4.7冊	4.7冊	5.2冊
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況					
○図書購入事業【予算現額21,923千円・支出済額21,758千円】 ・一般図書等7,879冊、児童図書等2,806冊、雑誌・新聞等1,502冊を購入して提供した。					
○東北公益文科大図書館との連携 ・東北公益文科大図書館を経由し369冊の貸出が行われた。					
○広報活動 ・市広報、市及び図書館ホームページ、外部情報サイト等を活用し、図書館のPRに努めた。					
○利用者拡大の取り組み ・定期的にテーマを変えた企画展示を実施し、おすすめ本を紹介した。					
平成30年度における改善点・新たな取り組み					
○国立国会図書館の図書館向けデジタル資料送信サービスの提供を開始した。					
○山形新聞、読売新聞記事データベースの利用者端末での閲覧提供を開始した。					
○女性の社会参画に対する意識啓発と機運づくりの機会とするため、元資生堂執行役員常務の関根近子氏を講師に迎え、「働く女性のスキルアップ講座」を開催した。					
事業の効果・課題					
○「本のリサイクルコーナー」を設置したことにより、10,000冊以上の本が再活用された。児童書や絵本は、保育園や幼稚園等へ提供を行い、前年度の2倍以上の本が再活用され、各所で新たな本と触れあう機会を創出した。					
●30年度の人口1人当たりの入館回数は前年度実績よりも増加したが、貸出冊数は前年度と同水準を維持するにとどまった。まだ目標値には達していないため、今後も年間を通じた企画展示などを実施していく。					
点検結果・自己評価（今後の方向性）					
30年度 評価	B	○図書の充実 ・利用者からのリクエスト等を活用して、傾向の把握に努める。 ・地域に密着した郷土資料の収集等に努めつつ、限られた配架スペースを有効活用できるよう検討していく。			
【参考】 29年度 評価	B	○図書館利用の促進 ・季節や時事、地域イベント等に応じた企画展示を他の部署との連携を図りながら積極的に行い、効果的な情報発信を行う。 ・酒田コミュニケーションポート（仮称）整備事業におけるライブラリーセンターの役割について、図書館協議会委員の意見を取り入れながら検討するとともに、スムーズな移行のために必要なシステム対応等の準備を行う。			

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう		
基本施策	8 図書館活動の充実		
施策	(2) 光丘文庫の保全と活用		
担当部署	図書館	平成30年度 担当部署	図書館
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本間家をはじめとする篤志家等から寄贈された図書や地域史資料のほか、明治期の私立酒田図書館時代から引き継がれてきた資料といったユニークな所蔵内容を活かし、酒田の歴史を学ぶための資料を保管・収集・活用することによって、未来の市民や酒田の歴史について関心を持つ人々に対して、酒田の歴史を確実に伝える。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口1人当たりの入館回数 増加させる</li> <li>・「光丘文庫デジタルアーカイブ」の年間における延閲覧者数 8,000人 (H30.12～H31.3 実績5,721人)</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○光丘文庫資料保全活用事業【予算現額8,314千円・支出済額8,314千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・所蔵資料のうち誰もが理解しやすい酒田の歴史に関連する絵図等を精細画像で電子化した「光丘文庫デジタルアーカイブ」を作成し、12月3日からインターネット上で公開した。</li> <li>・文庫が所蔵する明治末期～昭和初期の地元新聞マイクロフィルムを電子化し、11月中旬から閲覧室のパソコン画面上で閲覧することを可能とした。</li> </ul> <p>○その他の事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展示 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「黎明期に観る少女誌展」 4月2日～9月21日</li> <li>・「明治期酒田の出版文化」 10月2日～3月28日</li> </ul> </li> <li>・ギャラリートーク 「戦時期の女性と子どもの姿を追って～大衆雑誌の戦争イメージ～」 6月10日 (参加者27名)</li> </ul>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○文庫移転による入館者数・資料利用者数の減少が著しい中で、今回立ち上げたデジタルアーカイブが当初設定した目標を上回る閲覧者数を記録していることは、光丘文庫に対する認知度を高めたほか、ニーズ (どんな資料が望まれるのか) の把握にも役立っている。</p> <p>○新聞の電子化により、マイクロフィルムに比べ、閲覧の利便性や操作性が飛躍的に向上した。</p> <p>○前年度に引き続き、石原莞爾旧蔵書等の所蔵資料目録の電子化に取り組み、市ホームページ上に検索可能な目録データを掲載した。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○これまでICT化の促進が急務であった光丘文庫において、デジタルアーカイブの立ち上げが実現し、一定の評価を得ていることは今後光丘文庫が進むべき方向性を定める上でも大きな一歩であると考えます。</p> <p>●限られた財源の中で、デジタルアーカイブの内容をさらに充実させていくことが必要であるため、継続して市民の関心や支持が得られるコンテンツを工夫していく。</p> <p>●所蔵資料全体を網羅するデータベースの整備が実現していないことから、早急に取り組む必要がある。</p>			
点検結果・自己評価 (今後の方向性)			
30年度評価	A	<p>○デジタルアーカイブ、新聞マイクロフィルムの電子化については、計画通りに実施することができた。</p> <p>○今後もソフト事業 (デジタルアーカイブ等) の拡充を図ることにより、光丘文庫の認知度を高めていく。</p> <p>○所蔵資料データベースの整備について検討する。</p>	
【参考】29年度評価	A		



基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう				
基本施策	8 図書館活動の充実				
施策	(3) 子どもの読書活動の推進（再掲）				
担当部署	図書館	平成30年度 担当部署	図書館		
施策の目的及び目標					
○目的					
・ 幼少期からの読書習慣の醸成のため、子どもが読書に親しむ機会の提供と環境づくりに取り組む。特に家庭での読書活動が高まるように努める。					
○目標					
※「第2次酒田市子ども読書活動推進計画」より					
	項目	H28年度	H29年度	H30年度	R2年度（目標）
	15歳までの人口（人）	12,754	12,291	11,845	-
	子ども（15歳以下）一人当たりの年間貸出冊数（冊）	12.5	12.6	12.7	12.7
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況					
○子ども読書活動推進事業【予算現額1,280千円・支出済額1,049千円】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「土曜おはなし会」を年23回実施し、延べ657人の親子が参加した。</li> <li>・ 「赤ちゃんの読み聞かせ教室」を年12回実施し、延べ134人の親子が参加した。</li> <li>・ 「読み聞かせボランティア講座」を年3回実施し、延べ49人が参加した。</li> <li>・ 「おやこ手作り絵本講座」を開催し、19組の親子40人が参加した。</li> <li>・ 「絵本作家講演会」を開催し、子どもを含め100人が参加した。</li> <li>・ 「家読講座」を開催し、親子ほか10組19人が参加した。</li> </ul>					
平成30年度における改善点・新たな取り組み					
○読み聞かせボランティア講座を、読み聞かせの対象や目的に応じて選択できるようにした。					
○家庭での読書活動の重要性を周知するため、新たに「家読講座」を実施した。					
○児童、生徒の読書への動機づけ、本への興味・関心の醸成を図るため、「学校巡回文庫」を学校と連携し、試験的に実施（小学校3校・中学校1校）した。					
事業の効果・課題					
○「土曜おはなし会」は、幼児期から本に親しむ契機となり、会場が児童図書室であることから、児童図書の利用に繋がっている。					
○「赤ちゃんの読み聞かせ教室」は、ブックスタート事業のフォローアップ事業として、読み聞かせに関心を持たれたお母さんの学習の場となり、児童図書室のPRにも役立っている。					
○ブックスタート事業により、乳児への読み聞かせの有効性が保護者に対して広く周知され、認知されている。					
○「読み聞かせボランティア講座」は、読書活動が盛んな幼児・小学生への読み聞かせを対象を絞ったことで、効果的に実施することができた。また紙芝居編も行い、活動の充実に繋がった。					
○「おやこ手作り絵本講座」は多くの参加者があり、自ら創る絵本への関心の高さが伺われた。また、完成する喜びや達成感、自信にも繋がった。					
○「家読講座」では、家庭における読書活動の重要性・実践方法等を周知することができた。					
○「学校巡回文庫」は、新しい本との出会いにより子どもたちの読書意欲の向上に繋がった。					
●中高生の不読率改善に向けた取り組みが課題となっている。					
点検結果・自己評価（今後の方向性）					
30年度評価	A	○「赤ちゃんの読み聞かせ教室」はブックスタート事業と連携した事業で参加者の評価も高く、長期的な視点で継続させる。			
【参考】29年度評価	A	○講演会や各種講座の開催により、図書館活動への関心を高め、貸出冊数の増加に繋げる。			
		○公立・法人保育園の園長会議や図書館専門員研修会等の機会を捉え、団体貸出について説明し貸出冊数等の増加を図る。			
○読書習慣を身に付けるために、幼少期から継続して本に親しむことができるよう、第2次子ども読書活動推進計画の施策の実施を園・学校及び関係各課等と連携・協力を図りながら家庭、保護者等も含めた取り組みを行う。					
○新図書館で中高生の利用増を見込んでいの中で、学校連携を含めた中高生対策を検討していく。					

基本的方向	Ⅲ 生涯スポーツで明るく健やかに生きる		
基本施策	9 スポーツ・レクリエーションの推進		
施策	(1) 子どもの基礎的運動能力の向上（再掲）		
担当部署	スポーツ振興課	平成30年度 担当部署	スポーツ振興課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが夢あふれる未来に向かって、健康で心身ともにたくましく成長していくため、学校や地域等において、子どもがスポーツを楽しむことができるようにスポーツ活動の環境を整備し合せて体力の向上を図る。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ少年団活動や総合型地域スポーツクラブなどのスポーツ活動の場を利用し、地域が連携してスポーツ環境の充実を図ることにより、子どもたちがスポーツに接する機会を増やし、積極的に運動、外遊び等に親しむようにする。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○スポーツ少年団育成事業補助金 【予算現額 1,302千円・支出済額 1,302千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>認定員の養成講習会を実施し44名が受講。また、運動適性テストを実施し734名が受けた。</li> </ul> <p>○スポーツ少年団大会開催事業 【予算現額 1,581千円・支出済額 1,581千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ少年団本部大会（サッカー、野球、バレーボール、ミニバスケットボール、卓球、剣道の6種目）を開催し、1,153名（前年比6名減）の参加があった。スポーツ少年団本部指導者研修会・技術指導講習会（6種目）を実施し、521名（前年比18名増）の参加があった。</li> </ul> <p>○総合型地域スポーツクラブ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合型地域スポーツクラブは9団体あり、それぞれ地域にあった形で特色ある活動をしている。運動部活動を中心としたクラブや、子どもから高齢者までを対象としたクラブもあり、体力向上や運動習慣を身に付けるような取り組みを行っている。</li> </ul> <p>○B&amp;G平田海洋クラブ（海洋センター）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カヌー教室を実施し、10名（内小学生7名）の参加があった。教室の後に行われる最上川カヌーツーリングや日本海カヌーツーリングへの参加を目標に、技術や体力の向上につなげている。</li> <li>小学生を対象に水泳教室や水辺の安全教室（ライフジャケット・救助法）を実施し、水の事故から子どもを守ることもつながっている。</li> </ul>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度から国体記念体育館他の指定管理者となっている酒田市体育協会では「ちびっこスポーツクラブ」として運動を苦手としている子どもを対象に、運動に親しむきっかけ作りを目的に開催し、計41名の子どもたちが参加した。</li> </ul>			
事業の効果・課題			
<p>●少子化に伴う児童数減少によるスポ少団員数の減少、加入率の低下が課題となっており、団員1,577名（86団）と昨年より1団増加しているが、団員数は50名が減少している。運動に接する機会をつくるためにも、ジュニアリーダー（中学生・高校生）の育成や、運動の機会を増やすために関係団体（幼稚園・保育園・小中学校・体育振興会・総合型地域スポーツクラブ・体育協会）と連携していく必要があると考える。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度評価	B	<p>○自分に合ったスポーツ（運動）を見つけるために、あらゆる角度・視点から運動能力を測定する機会を設け、酒田市スポーツ少年団への加入促進と、スポーツへの興味と関心、体力向上の動機づけを進めていく。</p> <p>○スポーツ少年団の各団の運動適性テストの結果を分析し、酒田市スポーツ少年団活動に活用して体力向上の動機づけを進めていく。</p>	
【参考】29年度評価	B	<p>○継続して、日常的にスポーツに親しむ機会をつくっていくために、施設整備だけでなく、体育協会と連携しながら指導者養成に向けて、研修会等を実施していく。</p>	

基本的方向	Ⅲ 生涯スポーツで明るく健やかに生きる		
基本施策	9 スポーツ・レクリエーションの推進		
施策	(2) 生涯スポーツの推進		
担当部署	スポーツ振興課	平成30年度 担当部署	スポーツ振興課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人と人との交流及び地域と地域との交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成し、人間関係の希薄化等の問題を抱える地域社会の再生に貢献するため、市民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備に努める。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・“ひとり1スポーツで元気なまちづくり”をスローガンに、多くの市民がスポーツに親しむための環境づくりと、指導者等養成及び連携強化によるスポーツ推進を図っていく。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○スポーツ推進委員会研修活動事業 【予算現額 7,700千円・支出済額 7,586千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ推進員81名（H30.4月現在）</li> <li>・全国推進委員研究協議会、東北地区推進委員研修会、山形県推進委員研究大会等へ参加し研鑽を積むとともに、カラーリング審判員、体力測定員の資格取得講習会等を実施しました。</li> </ul> <p>○体育振興会及び総合型地域スポーツクラブの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内26地区にある体育振興会と9つの総合型地域スポーツクラブが登録されており、施設使用料を減免している。</li> </ul> <p>○スポーツ行事開催事業 【予算現額 18,208千円・支出済額 18,208千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9事業を開催し、その中でも市民参加型事業（4事業）には、9,881名が参加した。</li> </ul>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○「スポーツ推進委員会研修活動事業」では、酒田市スポーツ推進委員会への事業費を「負担金」としたことで、会としての裁量の幅ができた。生涯スポーツを進めていく上で、運動の楽しさを学んだり、自身の体力がどれくらいあるのか数値で把握することが必要と考える。平成30年度は、スポーツ推進委員が体力測定員（アドバイザー）の資格を取って、市全体を対象とした体力測定会に加え、単独で3地区（若浜地区：18人、泉地区：23人、黒森地区：20人）で計61人が参加し体力測定会を実施することができた。また、新たな事業として「第1回酒田市ニュースポーツ大会」を開催し、市内から14チーム48人が参加し、カラーリング競技を実施することができた。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○市内には26地区の地区体育振興会の推薦を受けたスポーツ推進委員がおり、市全体の生涯スポーツをはじめ各地区の中心的な役割を担っていくためにも、継続して組織支援が必要と考える。</p> <p>○総合型地域スポーツクラブは、体育施設の減免ありきの運営や、一部学校部活動の補完等の活動を行っているため、今後、減免基準のあり方を検討しつつ、9つのクラブが連携できる『連絡協議会』を立ち上げて、まちづくりを含めた幅広い組織活動へつながる支援が必要となる。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度評価	A	<p>○指定管理者によるスポーツ教室の実施により、各教室が単独で開催できるような形で生涯スポーツに取り組むことができた。また、酒田市スポーツ推進委員会では各種ニュースポーツの競技審判資格取得をはじめとする各種資格の取得により、市民の体力向上や運動の習慣化に繋がる取り組みができたと考える。</p>	
【参考】29年度評価	A	<p>○酒田市民体育祭は、人口減少によりコミュニティ振興会単位での参加が困難となっており、合同チームでの参加とする動きがある。酒田市民が一堂に会して開催される大会であり、スポーツを通して地域の連帯感や地域づくりに好影響を与えている重要な事業であるため、できるだけ多くの市民が参加しやすいように、競技種目を見直すなど工夫をして実施していきたいと考えている。</p>	

基本的方向	Ⅲ 生涯スポーツで明るく健やかに生きる		
基本施策	9 スポーツ・レクリエーションの推進		
施策	(3) 競技スポーツの振興		
担当部署	スポーツ振興課	平成30年度 担当部署	スポーツ振興課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・競技力向上のため、各スポーツ団体等と連携し、体育協会加盟団体を中心とした指導者のレベルアップを図る。また、組織的、計画的にトップレベルの選手を育成することで、その選手の活躍が市民のスポーツへの興味と関心を高めるようにする。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元選手が全国や世界の舞台で活躍できるよう、体育協会や競技団体と連携を密にし、トップアスリートの育成と活動を支える環境づくりに努める。またそのための優秀な指導者の育成支援を行う。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○酒田市体育協会事業補助金 【予算現額 12,387千円・支出済額 12,387千円】</p> <p>○スポーツ振興激励金交付事業 【予算現額 3,481千円・支出済額 2,218千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生154人、中学生73人、高校生・一般150人の計 377人に激励金を交付した。</li> </ul> <p>○白崎資金スポーツ振興事業 【予算現額 1,255千円・支出済額 1,197千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・競技スポーツ指導者研修（7回 421人）、中央指導者養成研修派遣（6回 18人）、スポーツ優秀選手表彰（121人）を実施し、選手育成の一助となった。</li> </ul> <p>○大会補助事業 【予算現額 1,350千円・支出済額 1,350千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みなと酒田トライアスロンおしんレースへの支援</li> </ul> <p>○アランマーレ、モンテディオ山形に対する施設利用減免やチケット販売等への支援</p>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○本市の地元企業チーム「プレステージ・インターナショナルアランマーレ」の後援会組織が設立されたことで、市民のスポーツに対する興味関心が高まった。</p> <p>○「白崎資金スポーツ優秀選手表彰」における選考基準について、大会規模や出場資格の多様化に対して詳細を設けることで、各競技団体にわかりやすいように整備した。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○国民体育大会をはじめ全国大会出場者は、前年度より51人少ない297人であった。若手指導者の育成・確保が喫緊の課題となっている中、前年度よりも上回る回数の指導者研修会を重ねたことで、「白崎資金スポーツ優秀選手表彰」の受賞者が増加した。今後も市体育協会と連携し講習会等を通じて技術の向上だけにとどまらず、スポーツの意義と価値について次世代に継承しうる選手及び指導者の育成に努める必要がある。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度評価	A	<p>○「白崎資金スポーツ優秀選手表彰」における選考基準の見直しにあわせて、激励金の支出基準についても大会規模や参加資格などの多様化に対応できるように、整備していく必要がある。</p> <p>○上位大会への出場者数の増加を目的に、一貫指導体制の構築や指導者の資質向上に向けての研修会、医科学的見地に基づいたトレーニングなど、競技スポーツにおける「勝利」への意識とモチベーションの向上に繋がるサポート体制を図っていく必要がある。</p>	
【参考】29年度評価	A		

基本的方向	Ⅲ 生涯スポーツで明るく健やかに生きる		
基本施策	9 スポーツ・レクリエーションの推進		
施策	(4) スポーツ施設の整備充実		
担当部署	スポーツ振興課	平成30年度 担当部署	スポーツ振興課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>耐震診断の結果に応じた補強工事、老朽化対策等を講じ、施設の環境整備を図る。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>耐震化・老朽化対策を含め、スポーツ環境・施設整備を進める。高齢化の進展により、ユニバーサルデザイン、バリアフリー化に配慮した整備を進めていく。</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○体育施設整備事業【予算現額 70,280千円・支出済額 68,412千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国体記念体育館アリーナ床塗装改修工事 15,660,000円</li> <li>国体記念テニスコート高圧受電設備更新 12,640,320円</li> <li>光ヶ丘テニスコートブロック塀改修工事 8,041,680円</li> <li>平田B&amp;G海洋センタートレーニングルーム屋根改修工事 6,902,280円</li> <li>体育施設予約管理システム改修 4,625,640円</li> <li>光ヶ丘陸上競技場 陸上競技フィールド競技用超音波風速計 1,252,800円</li> </ul> <p>○光ヶ丘プール改修事業【予算現額 153,579千円・支出済額 122,515千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>光ヶ丘プール改修工事 118,870,200円 ※ 繰越明許30,287,000円</li> </ul> <p>○体育施設耐震改修事業【予算現額 2,862千円・支出済額 2,862千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>勤労者体育センター耐震改修工事設計業務委託料 2,862,000円</li> </ul>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○国体記念体育館のアリーナ床について、床の凹凸やささくれ等により競技面や安全面に不安があったため、床の研磨及び再塗装を行い、安全なスポーツ環境の整備に努めた。今後も計画的にアリーナ床の改修を行っていく。</p> <p>○体育施設予約管理システムについて、ハードウェア更新にあわせて、予約機会の公平性を図るための改修やスマートフォン専用画面の導入など、現状の課題を踏まえた機能の見直しを行った。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○年間15万人が使用する光ヶ丘プールの改修をはじめ、老朽化による危険箇所の改修や全館機能停止につながる設備の更新を行ない、安全なスポーツ環境の提供並びに全国大会等の誘致につながるような整備を行っていく。</p> <p>●施設全般に老朽化が進んでおり、今後の利用見込みやニーズを踏まえ、長寿命化並びに耐震性も含めた、(仮称)施設整備プランを策定し計画的改修等をしていく必要がある。</p>			
点検結果・自己評価(今後の方向性)			
30年度評価	B	<p>○全国規模の大会が誘致できるよう設備の充実を行っていく。(平成31年9月 ソフトテニス全日本社会人大会、10月 剣道日本海旗高校剣道大会、相撲高等学校東北選抜大会)</p> <p>○耐震化が必要な施設について改修を行っていく。(平成30年度 勤労者体育センター改修設計、平成31年度 勤労者体育センター耐震改修工事)</p> <p>○施設の大多数は今後も改修、更新等により安全で安定した機能を確保する必要がある。今後も緊急の故障等の発生があった場合には、適正迅速な対応を行っていく。</p>	
【参考】29年度評価	B		

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす			
基本施策	10 芸術文化活動の推進			
施策	(1) 芸術文化の振興			
担当部署	社会教育文化課	平成30年度 担当部署	社会教育文化課	
施策の目的及び目標				
○目的				
・市民の芸術文化活動をより活発なものとするため、関係機関との連携を図りながら、次世代を担う人材の育成とすそ野拡大に努める。				
○目標				
・幅広い年代の市民が参加する「市民芸術祭」は、身近な文化活動に触れる場としても有効である。これらの事業をとおり、芸術文化振興に寄与された人材の顕彰に努めながら、活動の活性化とすそ野拡大に努める。				
	算出方法	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	入場者数実績	26,861人	26,154人	24,178人
				平成31年度(目標)
				27,000人
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況				
○市民芸術祭参加事業 【予算現額 2,761,000円・支出済額 2,761,000円】				
		参加事業数	入場者数	
	平成26年度	8団体	28,514人	
	平成27年度	38団体	26,974人	
	平成28年度	38団体	26,861人	
	平成29年度	38団体	26,154人	
	平成30年度	40団体	24,178人	
○市民会館利用状況				
・申請書受付数 889件、入場者数 92,747人				
○庄内文化賞・阿部次郎文化賞顕彰事業 【予算現額 617,000円・支出済額 491,414円】				
・庄内文化賞 黒森歌舞伎妻堂連中(伝統芸能/歌舞伎)				
・阿部次郎文化賞 田中章夫(美学)				
平成30年度における改善点・新たな取り組み				
○酒田市民芸術祭				
・第62回市民芸術祭は、8月から1月にかけて実行委員会の総力を挙げた取り組みにより広く市民参加が行われ、文化芸術活動が活発化した。このことにより、質の高い内容となった。				
○県民芸術祭での受賞				
・第56回県民芸術祭で酒田吹奏楽団「ブラスのひびき」が奨励賞を受賞した。				
事業の効果・課題				
●酒田市民芸術祭				
・従来の其々の文化活動を維持・促進するとともに、次世代にいかに関承し、人材を育成していくかが今後の重要な課題である。				
●庄内文化賞・阿部次郎文化賞顕彰事業				
・阿部次郎文化賞については、候補者の推薦が少ないことから、今後の在り方について引き続き検討する必要がある。				
●文化芸術をひとつづくり・まちづくりに活かしていくため、酒田市文化芸術基本条例並びに酒田市文化芸術推進計画に基づき、今後はより一層戦略的に取り組むことが重要である。				
点検結果・自己評価(今後の方向性)				
30年度評価	A	○市民芸術祭では、開幕公演、閉幕公演など、加盟団体以外の市民参加による質の高い事業を展開し、大変好評であった。		
【参考】29年度評価	A	○酒田市の文化活動拠点施設である市民会館は、酒田市内外の文化団体をはじめ学校等からの利用も多く、アマチュアの発表の場としても有効に活用されている。		
		○文化振興においては、少子高齢化、価値観の多様化を背景に、市民参加型事業を実施するなど、次世代の育成に重点をおいた裾野の拡大に取り組んでいく必要がある。		

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす																		
基本施策	10 芸術文化活動の推進																		
施策	(2) 市民の鑑賞機会の充実 (その1)																		
担当部署	社会教育文化課	平成30年度 担当部署	社会教育文化課																
施策の目的及び目標																			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな感性を育み、文化活動や創造活動の動機づけとなる可能性が高いことから、プロのアーティストによる質の高い鑑賞機会の提供に努める。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々なジャンルのアーティストによる質の高い多彩な鑑賞機会を提供するとともに、芸術文化に対する関心を高める。</li> </ul>																			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況																			
<p>○酒田希望音楽祭</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>酒田市名誉市民であり声楽家の市原多朗氏によって選抜された全国で活躍している若手声楽家を招聘し、公開レッスン並びにコンサートを開催することにより、市民の音楽に対する関心を高めるとともに、クラシック音楽の学習機会を提供した。 公開レッスン入場者数 111人 伴奏法講座 42人 希望の船出コンサート 430人</li> <li>プロと市民の発表による、街かどコンサートを開催した。</li> </ul> <p>○希望ホール自主事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロの舞踏家である田村一行氏による小学校、高校へのアウトリーチ及びワークショップを行った。</li> <li>そのほか、一流アーティストによる各種公演を開催したほか、文化芸術によるまちづくりを目的とした座談会、酒田市出身指揮者による合唱指導を行うなど、多面的な取り組みを行った。 入場者数6,704人 山形交響楽団庄内定期演奏会酒田公演 入場者数 865人</li> </ul> <p>○土門拳記念館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土門拳の作品展示について、公益財団法人土門拳記念館と連携し、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="405 1482 855 1630"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>入館者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成28年度</td> <td>26,375人</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>25,890人</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>26,151人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○酒田市美術館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門性を活かした質の高い企画展の開催や、幅広い年代の人に足を運んでいただけるような教育普及活動を積極的に行うなど、公益財団法人酒田市美術館と連携しながら質の高い鑑賞機会の提供に努めた。入館者数 41,774人</li> </ul> <table border="1" data-bbox="405 1809 855 1957"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>入館者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成28年度</td> <td>52,049人</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>54,201人</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>41,774人</td> </tr> </tbody> </table>				年度	入館者数	平成28年度	26,375人	平成29年度	25,890人	平成30年度	26,151人	年度	入館者数	平成28年度	52,049人	平成29年度	54,201人	平成30年度	41,774人
年度	入館者数																		
平成28年度	26,375人																		
平成29年度	25,890人																		
平成30年度	26,151人																		
年度	入館者数																		
平成28年度	52,049人																		
平成29年度	54,201人																		
平成30年度	41,774人																		

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
基本施策	10 芸術文化活動の推進		
施策	(2) 市民の鑑賞機会の充実 (その2)		
担当部署	社会教育文化課	平成30年度 担当部署	社会教育文化課
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○質の高い鑑賞機会の提供以外に、市民参加型ワークショップやアウトリーチを実施、美術館やホール等になかなか足を運ぶ機会の少ない市民に対しても鑑賞機会を提供するなど、積極的な取り組みを行った。</p> <p>○土門拳記念館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジサイライトアップに伴い、他課と連携し、ミュージアムコンサートの開催や呈茶を行うなど、市民を対象にした事業を実施した。昭和の時代を撮影した土門拳の写真は、歴史的資料としての価値も高いことから、小中学校での授業活用について、学校に対し引き続きPRを行った。</li> </ul> <p>○酒田市美術館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子で楽しく鑑賞できるような企画展を開催したほか、わが国でも急速に知名度が高まったフェルメールの作品をテーマに、当時の色彩を最新のデジタル技術で再現したり・クリエイト（再創造）作品の展覧会を開催するなど、鑑賞者の幅広いニーズをとらえた企画を実施した。</li> </ul>			
事業の効果・課題			
<p>○少子高齢化、価値観の多様化などを背景に、質の高い鑑賞機会だけでは新顧客の獲得が困難になってきている。参加型事業の実施や、芸術文化の魅力を伝えるような取り組みを行うなど、蓄積型文化を意識した取り組みが今後ますます重要になってくる。</p> <p>○文化芸術をひとつづくり・まちづくりに活かしていくため、酒田市文化芸術基本条例並びに酒田市文化芸術推進計画に基づき、今後はより一層戦略的に取り組むことが重要である。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
30年度評価	A	<p>○酒田希望音楽祭では、市原多朗マスターコースや新日本フィルハーモニーのコンサートを開催し、子どもから大人まで幅広い世代に対し、質の高い鑑賞機会の提供を行うことが出来た。また、山形交響楽団等による楽器クリニックを行い、子どもたちの演奏技術のレベルアップを図った。</p> <p>○希望ホール自主事業では、宝くじの助成を受け、本格的な演劇公演を行ったほか、プロのアーティストによる体験型事業を開催し文化芸術の面白さを感じてもらい動機付けにつながるような事業を実施するなど、多面的な取り組みを行った。</p> <p>○土門拳記念館・酒田市美術館では、幅広い年代の市民に気軽に足を運んでいただけるような取り組みを積極的に行うなど、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。</p>	
【参考】29年度評価	A		



基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
基本施策	10 芸術文化活動の推進		
施策	(3) 青少年の芸術文化活動の充実 (その1)		
担当部署	社会教育文化課	平成30年度 担当部署	社会教育文化課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育や生涯学習と連携・協力し、多様な社会に対応出来るような人材育成を行うとともに、芸術文化活動の充実を図る。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・価値観の多様化、グローバル化の社会の流れを意識しながら、学校教育や生涯学習と連携・協力しながら、より分かりやすい丁寧な文化体験型事業の展開を目指す。</li> </ul>			

平成30年度 主な事業の概要及び実施状況

- 酒田希望音楽祭 【予算現額 4,160,000円・支出済額 4,160,000円】
- ・名誉市民 市原多朗氏マスターコース  
名誉市民である市原多朗氏による公開レッスン及びコンサートを開催し、市民が一流の音楽に触れる機会を提供した。
  - ・山形交響楽団による楽器クリニックを実施。(平成30年度参加者数：214名)
  - ・世界の名器スタインウェイピアノの演奏体験事業を実施。(平成30年度参加者数：39名)
- 希望ホール自主事業 【予算現額 9,271,000円・支出済額 9,271,000円】
- ・市内吹奏楽部員への航空自衛隊の奏者による楽器別クリニック、  
舞踏家 田村一行氏とコンテンポラリーダンサー田畑真希氏によるダンスWS、佐藤志穂氏によるミュージカルWS、写真家佐藤時啓氏による子供向けWS、市民会館のステージ裏を巡るツアーを開催した。

	ワークショップを実施した事業	参加者数
平成30年度	①ときひろ先生とあそぼう！ ②公共ホール現代ダンス活性化事業田村一行氏によるワークショップ (1)アウトリーチ (2)親子ワークショップ (3)一般ワークショップ ③酒田市出身指揮者 工藤俊幸氏による合唱指導 (2中・4中・6中) ④佐藤志穂ミュージカルワークショップ ⑤航空自衛隊北部航空音楽隊による楽器クリニック ⑥希望ホールバックステージツアー ⑦田畑真希ダンスワークショップ (1)アウトリーチ (泉小、八幡小、2中) (2)ワークショップ	①14名 ※小学生 ②(1)203名 ※小・高生 (2)12名 ※年長児～小学生の子供と保護者 (3)15名 ※一般 ③424名 ④31名 ※一般 ⑤91名 ※中高生 ⑥20名 ※小学生と保護者 ⑦(1)287名 (2)17名 ※小学生～一般

- 酒田市美術館・土門拳記念館
- ・学校活動の見学時に、学芸員が説明を行うなど、学ぶ機会としても有効に活用された。
- 「能・狂言」ワークショップ(対象：市内全小学校5年生)
- ・希望ホールにおいて18校660名が参加。萬狂言社の役者による狂言「附子」の鑑賞のほか、実際に児童が舞台上がっての狂言体験ワークショップも萬狂言社の役者の指導のもとに実施した。

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
基本施策	10 芸術文化活動の推進		
施策	(3) 青少年の芸術文化活動の充実 (その2)		
担当部署	社会教育文化課	平成30年度 担当部署	社会教育文化課
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○希望ホール自主事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吹奏楽等の活動を行う中高生を中心に、楽器クリニックを行うなどレベルアップの機会を提供した。また、コンテンポラリーダンサーの田畑真希氏、舞踏家の田村一行氏による公募型ワークショップやアウトリーチ事業を小中学校及び高校演劇部に行うなど、一流のダンサー指導のもと、ダンス事業の充実を図った。</li> </ul>			
事業の効果・課題			
<p>○価値観の多様化、グローバル化が進む中で、文化の位置付けが高まってきている。</p> <p>○本市の文化拠点である希望ホールを有効活用し、プロによる質の高い鑑賞機会や文化体験事業の機会を提供することは、人材育成の視点から極めて重要なことだと認識している。文化は豊かな感性を育むばかりではなく、個性を認め合える表現は生きる力を育むものだとされている。</p> <p>○文化芸術をひとつづくり・まちづくりに活かしていくため、酒田市文化芸術基本条例並びに酒田市文化芸術推進計画に基づき、今後はより一層戦略的に取り組むことが重要である。</p>			
点検結果・自己評価 (今後の方向性)			
30年度評価	A	<p>○プロのアーティストが持つ芸術性の高い世界観に触れることは、青少年にとって、文化活動への動機づけとなる可能性が高いことから、希望ホール自主事業を中心に、ワークショップ(クリニック)等を継続的に実施している。</p> <p>○プロのアーティストの演奏を間近で観たり、聴いたり、楽器に触ったり出来るワークショップのような直接的な取り組みは、情操教育のみならず、自己表現の可能性を拓げるものであり、多様化に対応出来る人材育成にも有効であると考えている。</p> <p>○今後は、計画的にアウトリーチ実施校を増やすなど、より多くの青少年にに対し、機会の提供が出来るように努めていきたい。</p>	
【参考】29年度評価	A		

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす				
基本施策	11 歴史・文化遺産の保存と活用				
施策	(1) 文化財等の保存と活用				
担当部署	社会教育文化課	平成30年度 担当部署	社会教育文化課		
施策の目的及び目標					
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の貴重な財産であり観光資源でもある文化財について、関係機関と連携しながら、地域の活力を活かし有効な保存及び活用を図る。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内に存在する文化財を調査し、必要な指定を行っていく。</li> <li>・文化財を良好な状態に保つために適切な維持管理や支援を行う。</li> <li>・企画展の充実や観光事業との連携により、文化財施設の入館者数を増やす。</li> </ul>					
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況					
<p>○文化財保護総務管理事業 【予算現額 13,856千円・支出済額 9,384千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試掘調査3箇所（亀ヶ崎二丁目、亀ヶ崎三丁目、亀ヶ崎四丁目、広野大日塚地内）</li> <li>・発掘調査2箇所（城輪柵跡、旧鑑屋）</li> <li>・史跡整備協議会での要望・研修活動</li> </ul> <p>○文化財施設管理運営事業 【予算現額 28,587千円・支出済額 25,257千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市立資料館、旧白崎医院、旧鑑屋、旧阿部家の管理運営事業</li> </ul> <p>○文化財保存活動支援事業 【予算現額 1,778千円・支出済額 1,778千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民俗芸能保存会、国指定史跡名勝の庭園管理等へ支援</li> </ul> <p>○史跡旧鑑屋修復事業 【予算現額 6,087千円・支出済額 5,935千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震補強案等策定業務、屋根部分等修理工事実施設計</li> </ul> <p>○山居倉庫文化財調査事業 【予算現額 8,456千円・支出済額 3,055千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査委員会の開催、山居倉庫平面測量業務</li> </ul>					
参考					
文化財施設入館者数（単位：人）					
	施設名	28年度	29年度	30年度	備考
	資料館	6,211	5,868	5,488	
	旧鑑屋	10,773	11,250	10,553	
	旧白崎医院	1,536	1,696	1,753	
	旧阿部家	2,557	2,269	2,213	
平成30年度における改善点・新たな取り組み					
○令和2年12月の国指定史跡を目指し、山居倉庫調査委員会を設立して調査を開始した。					
事業の効果・課題					
<p>○試掘・発掘調査を行うことにより貴重な埋蔵文化財の破壊が行われぬか確認することができた。</p> <p>○各文化財施設において、文化財を展示することにより、多くの市民へ文化財保護の重要性をPRすることができ、理解を深めることができた。</p> <p>●旧鑑屋については平成30年度に耐震補強実施の方針を定め実施設計を行なったが、県の随伴補助がつかなかったために工事は令和2年度以降となる。</p> <p>●山居倉庫については平成30年度に調査委員会を開催し、資料調査や測量調査を実施。令和元年度は引き続き、資料調査等を行ない、調査の成果を報告書にまとめる予定である。</p>					
点検結果・自己評価（今後の方向性）					
30年度評価	B	<p>○文化財や歴史的資料は地域の貴重な財産であるため、今後も継続して保存と活用に努める必要がある。</p> <p>○令和2年度からの旧鑑屋の本格的な修復のため文化庁や山形県と連絡を密にして進捗を図る。</p> <p>○令和2年12月の山居倉庫の国指定史跡を目指して、文化庁や山形県、調査委員の指導のもと、調査を進めて報告書にまとめていく。</p>			
【参考】29年度評価	B				

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす					
基本施策	11 歴史・文化遺産の保存と活用					
施策	(2) 地域における民俗文化財の保存と活用					
担当部署	社会教育文化課	平成30年度 担当部署	社会教育文化課			
施策の目的及び目標						
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無形文化財の保護・継承を行う人材や団体を育成、支援する。</li> <li>・「民俗芸能フェスタ」などの各種事業を実施し、伝承活動を支援する。</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民俗芸能や伝統文化の保護を目的に、民俗芸能団体の後継者の育成、関係団体の交流を図り団体活動を支援する。</li> <li>・酒田市民俗芸能保存会への加盟の促進を図る。</li> </ul>						
		算出方法	28年度	29年度	30年度	31年度 (目標)
		民俗芸能保存会加盟団体数	33	33	34	36
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況						
<p>○文化財保存活動支援事業 【予算現額 1,778千円・支出済額 1,778千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・酒田市民俗芸能保存会、松山能振興会、松山藩荻野流砲術伝承保存会に対する支援を行った。</li> </ul> <p>○未来へ受け継ぐ伝統文化はぐくみ事業 【予算現額 4,093千円・支出済額 3,699千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「民俗芸能フェスタ」の開催 平成30年11月11日(日) 会場：市民会館 希望ホール 県内外の民俗芸能を紹介するとともに、市内の保存団体への出演機会を提供した。 また、永年の伝統芸能保存継承活動に対する功労者の顕彰を行うとともに、各地域における上演日や演目などをまとめたプログラムを作成し、市民に広く紹介した。</li> <li>・「黒森歌舞伎酒田公演」の開催 平成31年3月3日(日) 会場：市民会館 希望ホール 黒森歌舞伎正月公演を黒森地区で終えてから、同じ演目で公演を行い市民へ広く民俗芸能の素晴らしさを鑑賞いただいた。</li> <li>・平成30年10月4日(木)・5日(金) 希望ホールで市内の小学校5年生を対象に「狂言ワークショップ」を開催した。</li> </ul>						
平成30年度における改善点・新たな取り組み						
○より多くの市内の小学校5年生に参加してもらうために「狂言ワークショップ」を希望ホールで開催した。						
事業の効果・課題						
<p>○「民俗芸能フェスタ」は49回を数え、民俗芸能の保存継承だけでなく、地元団体と他県や市外の民俗芸能団体との相互交流や、情報交換の場として重要な役割を果たした。</p> <p>○一方民俗芸能団体の中には、地域の後継者不足により活動できなくなっている団体が生じてきている。</p> <p>○日本とポーランドの国交樹立100周年を記念して黒森歌舞伎のポーランドでの公演が実施されることにより本市の歴史と文化を発信する絶好の機会となる。</p> <p>○小学生から高校生まで出演機会の提供に努め、民俗芸能継承の底辺拡大を図ることができた。</p>						
点検結果・自己評価（今後の方向性）						
30年度 評価	B	<p>○民俗文化財は地域の貴重な財産であり、後世に継承・保存していくために、一層の周知が必要である。</p> <p>○民俗芸能保存会と連携して未加盟団体の加盟を促進していくとともに、後継者育成などの課題解決に向けて支援を行っていく。</p> <p>○「民俗芸能フェスタ」の映像記録、酒田市民俗芸能保存会が行っている各保存会の活動記録、黒森歌舞伎正月公演の映像記録などを後継者育成などに活用を図っていく。</p>				
【参考】 29年度 評価	B	<p>○イベントへの出演やマスコミの取材は、酒田の伝統文化をPRする良い機会にもなるので、積極的に協力していく。</p>				

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす				
基本施策	11 歴史・文化遺産の保存と活用				
施策	(3) 地域資料の収集と保存				
担当部署	社会教育文化課	平成30年度 担当部署	社会教育文化課		
施策の目的及び目標					
○目的					
<ul style="list-style-type: none"> <li>市立資料館、松山文化伝承館の活用を図り、郷土の歴史等に対する市民の理解を深める。</li> <li>文化財の保存と管理を行うとともに、市民への公開に努める。</li> <li>歴史的に価値のある郷土の資料の散逸を防止するため、購入や受け入れを行う。</li> </ul>					
○目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展示を工夫するなどしてPRに努め、入館者数の増加を目指す。</li> </ul>					
算出方法	施設	28年度	29年度	30年度	31年度 (目標)
入場者数 実績	市立資料館	6,211人	5,868人	5,488人	7,000人以上
	松山文化伝承館	3,127人	3,575人	3,062人	5,000人以上
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況					
○文化財施設管理運営事業【予算現額 28,587千円・支出済額 25,257千円】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>保存資料の購入 ※加藤雪窓、山形県電話番号簿ほか</li> </ul>					
○学校教育との連携					
<ul style="list-style-type: none"> <li>市立資料館 小中学校来館校数 18校、来館者総数 625人</li> <li>松山文化伝承館 小中学校来館校数 2校、来館者総数 85人</li> <li>城輪柵跡 小中学校の見学校数 4校、見学者総数 151人</li> </ul>					
○文化的資料の相談や情報提供業務 (レファレンス)					
レファレンス(調査・問い合わせ等)対応状況(件)					
	施設	28年度	29年度	30年度	
	市立資料館	75	183	177	
	松山文化伝承館	2	5	13	
平成30年度における改善点・新たな取り組み					
事業の効果・課題					
○資料館の入館者数はこの数年は横ばいであるが、10年以上の長い目で見ると減少傾向となっている。企画展次第では入館者数も増加するので、引き続き魅力ある企画を行っていく。					
点検結果・自己評価(今後の方向性)					
30年度 評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>来館者が増えるような企画展示を考えていく。 特に酒田大火に関する展示など、関心事を把握することも重要と考える。</li> <li>阿部記念館については、松山総合支所とも協力してPRを図り、来館者の増加に努めるとともに、来館者に見えやすいキャプション等に変えていく。</li> </ul>			
【参考】 29年度 評価	B				

基本的方向			
基本施策		12 教育行政の推進	
施策		(1) 広報公聴活動の推進	
担当部署		企画管理課	平成30年度 担当部署 企画管理課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子や教育委員会の活動内容等の情報発信</li> <li>・教育委員会会議や事務・事業の周知</li> <li>・市民の声・要望を的確に捉えるための公聴活動の実施</li> </ul> <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会広報の発行（年1回）</li> <li>・教育委員会会議等の公開（すべての会議）</li> <li>・教育委員の学校等教育機関の訪問（年2回）</li> <li>・各種審議会、協議会等への市民参加の促進</li> </ul>			
平成30年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○教育委員会単独の広報紙の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会単独の広報紙「きょういく酒田」を創刊し、全戸配布した。</li> </ul> <p>○教育行政の透明性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会会議録を市ホームページで公開し、教育委員会の透明性の向上に努めた。</li> <li>・学校訪問を実施し、学校現場の状況確認、課題の把握に努めるとともに、校長からの意見聴き取りにより、現場との情報共有に努めた。</li> <li>・計画の推進その他事業の実施に係る審議会、協議会を随時実施した。</li> </ul>			
平成30年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○教育委員会の役割について市民の理解を深め、教育行政を市民の協力を得ながら円滑に進めるため、「きょういく酒田」（創刊号A3判1枚、10月市広報折込）を発行し、教育委員会全体の活動等について情報発信した。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○教育委員会単独の広報紙の発行により、教育委員会の方向性や施策を広く市民に周知することができた。</p> <p>●計画等の策定時における、市民参加のガイドラインも示されており、市民の意見を取り入れる手法の検討も必要である。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
今後の方向性	B	<p>○様々な方法で教育行政運営を市民の理解と協力を得ながら効果的に推進するために、情報発信に注力していく。</p> <p>○広報を定期的に発行しながら、教育委員会の考えや取り組みをを市民により浸透させていく。</p>	
【参考】29年度評価	—		